

# 九州地区大学図書館協議会誌

第 53 号

2010

九州地区大学図書館協議会

## 目 次

【巻 頭 言】	
雑感～大学図書館と大学教育	鶴田 隆治・・・1
【寄 稿 論 文】	
建学の精神をテーマとした図書館コレクションの整備とその課題 －活水学院創立130周年記念資料展 「ここから女子教育が始まった 活水学院」を開催して－	森 茂樹・・・4
九州工業大学学術機関リポジトリ（キューテイカー Kyutacar）開発物語	前田 博・・・8
Library Lovers' キャンペーン：九州地区における大学を超えた新たな取り組み	井川 友利子・稲永 晶子・徳安 由希・森下 和博・・・17
【図 書 館 紹 介】	
名桜大学附属図書館	・・・22
【加盟館ニュース】	・・・26
【図書館活動報告】	・・・48
【事務局報告】	・・・59
【協議会総会記録】	・・・61
【資 料】	
九州地区大学図書館協議会会則	・・・74
九州地区大学図書館協議会総会運営に関する細則	・・・75
九州地区大学図書館協議会入会に関する細則	・・・76
九州地区大学図書館協議会誌編集に関する内規	・・・80
九州地区大学図書館協議会表彰規程	・・・80
研修会の補助に関する申合せ	・・・85
副幹事館の役割	・・・87
九州地区大学図書館協議会ホームページの運用について	・・・87
加盟館一覧	・・・89
役員館一覧	・・・93
総会当番館一覧	・・・97

「雑感 ～大学図書館と大学教育」

鶴 田 隆 治

昨年は、どうやら当たり年だったようである。個人的な話で恐縮だが、4月の法人化第2期のスタートとともに副学長（学生担当）となり、同時に附属図書館の館長を仰せつかった。さっそく4月22日には福岡ガーデンパレスにて第40回九州地区国立大学図書館協会の総会があり、その当番館にあたっていたため、司会進行役を務めることになった。翌日の九州地区大学図書館協議会総会では国立部会の報告をし、夕刻の懇親会の新人紹介でもトップバッターに指名され、何を話してよいものかわからないままマイクを握った。また、副学長として参加した9月の第38回九州地区学生指導研究集会でも、国公立大学部会の座長となった。そして今回、本協議会誌の編集委員館となっていることから、回避すべく行った努力も実らず、巻頭言をお引き受けすることになった。図書館長とはいいいながらも読書好きで育った訳でもなく、才はもちろん無い。粗末な内容になってしまうことを最初にお詫び申し上げる。

さて、何を書こうかと思った際に、やはり大学図書館を取り巻く情勢の変化に、否応無しに考えが向いてしまう。館長一年生の勉強内容を整理させていただくということで、おつき合いいただきたい。

大学図書館のこれからの役割を考える場合、大学における知の拠点かつ象徴であるとする考えは、いかなる時代においても普

遍的に持ち続ける必要があると考える。学問の府としての大学図書館の役割は、学術・文化に対する尊敬の念を持ち続けさせることであり、それが無くなった社会はもはや文明社会とは言えないかも知れない。大きさに聞こえるかもしれないが、むしろこれを再認識することが今非常に重要になってきていると考えている。そこで原点に戻り、大学図書館のより具体的な役割を挙げれば、第一に「知の生産活動を支援する書籍や資料などの学術文化情報の収集保管と閲覧供与」、第二に「大学で生まれた成果としての知を、広く社会に発信する」があり、第三に「知の継承を推進するための教育に活用する」ことであろう。

一般に広く認識されているのは、もちろん第一番目の「知の生産活動を支援する情報の収集保管と閲覧サービス」である。図書館空間は、書庫と閲覧スペースがほとんどを占めているが、ここに学術文化情報の電子化の大きな波が押し寄せてきている。つまり、大学図書館を取り巻く大きな変化として、ここ数年、電子ジャーナルや各種データベースの Web 利用が可能になったのに伴い、研究上の調査はほとんどが館外から行うことができるようになった。調べものために図書館を訪れることは少なくなり、教員や大学院生が図書館を訪れる機会は減ってきている。入手できない文献はネットで図書情報サービスに文献複写依頼

を行い、学内便で届けられるほど便利になった。また、第二の役割である「大学の知の社会への情報発信」についても、これまでの冊子体の大学紀要等に加え、電子情報化によるインターネットサービスである「学術機関リポジトリ」システムが拡大している。

これらの二つの役割・サービスは図書館の中心的な業務であるがため、図書館空間の利用が減ることにより、極端な言い方をすれば、いわゆる箱ものとしての図書館不要論に繋がっている。また、図書情報管理についての司書業務・技能に変わって、データ情報管理技術が優先されるような言い方がなされ、図書館業務のアウトソーシング化が検討されているようである。一方で、第三の役割である「教育に活用する」点に関しては、読書用とともに学生の自学自習の空間として使われ、それを保障する静粛な環境の提供が行われてきた。ただそれは積極的なサービスというよりは、「図書館＝静粛」というイメージに尽きる、いわば当然の条件に過ぎない認識と言える。今、大学教育のパラダイム・シフトとともに、この第三の役割への大学図書館のパラダイム・シフトが行われようとしている。

つい先だって、日本学生支援機構が主催した全国学生指導担当教職員研修会に参加した。その基調講演として行われた国立教育政策研究所の川島啓二氏による講演「高等教育政策の動向と学生支援の今後について」では、「～を知っている」を目指す「教育」から「～することができる」を目指す「学習」への大学教育の目標のパラダイム・シフトが明確に打ち出されていることが紹介された。すなわち、学習者が学び

を深め、得た知識を活用できる人間として育成することが、知識基盤社会における大学の役割とされている。既にご存知の方も多いと思うが、これは2009年に出された中教審大学分科会・学生支援検討ワーキンググループによる答申であり、そのための学生支援・学習環境整備は、学生の人間形成を目的として行われてきた「厚生補導」との関係を整理し、大学教育にとって重要なものと再認識することが必要とされている。

こうした大学教育の目標の変化を、先に述べた大学図書館に押し寄せる波と重ねて素直に考えれば、大学図書館の場に第三の役割である「教育 学習」の要素を高めることは自然である。つまり、今各大学の図書館で導入され始めたラーニングコモンズは、大学図書館機能の変化として当然の流れと判断される。すなわち、ラーニングコモンズの展開は、大学教育のパラダイム・シフトに対応し、大学図書館の第三の役割を大きく果たすことによって知の拠点とあり続けるための具体的方法と感ずる。

ただし、ラーニングコモンズは、自学自習のために静粛な空間を提供していたこれまでの表面的な取組みとはもちろん異なり、また単に協同学習のための空間やアメニティを提供するだけでなく、教育活動・プログラムとの連携が不可欠である。図書館職員と大学教員とが連携して、積極的に役割を果たす取組みが必要であり、その意味で大学図書館の“チェンジ”を進めなければならない。この取組みには工夫を要し、大学教育活動とどのように具体的に連携していくかについては、まだ十分な検討は行われていないようである。逆な言い方をすれば、教育プログラムとの連携が不可欠であ



る仕組み・ソフトを構築することは、大学図書館職員でなければできないように思われ、この領域の図書館業務のアウトソーシング化は難しく、知の拠点たる大学図書館の新たな確固たる位置づけができる。

ところで、正直に言えば、大学教育のパラダイム・シフトには少し違和感を覚える。もちろん得た知識を活用できることは必要であるが、学ぶ側にその気持ちがあれば、自ずと出会う場面で対応できるようになると思う。よく、卒業生が大学を訪問した時に「大学でもっと勉強しておけば良かった」と言う光景はかなり以前からあった。そう言う卒業生は、ちゃんとその知識を活用する「場」において対応できていることが多い。学んだ内容・箇所との対応がとれているから、そう言えるのである。これを大学に在る間にその「場面」を作って、手取り足取り教育していくことが本当に大学で行う教育であろうかと疑う。昨今言われている大学生の「就業能力育成」サポート活動に対しても、「就業力」とは単に就職するための力ではなく、社会に出たその先で発揮される力に他ならない。

もう一つ、今の流れを素直に評価できないことがある。それは、リメディアル教育も含め、大学の初年時教育に様々な要求がなされ、その対応策が組み込まれつつあることである。もちろん、反抗期を脱していない未成熟の学生が入学してくる現状を大学教育の初期条件と受容すれば、薬物汚染や反道徳的犯罪の防止を目的とした法令遵守等の講義を行うといった本来大学で行うことであるか議論のある内容を組み込まなければならない。これは若者が社会へ飛び出す最終出口が大学であり、小・中・高で

積み残した教育をすべて大学に押し付けているように思われる。今、大学は従順にこれを受け止め、様々な努力を行っている。さらには、高大連携に加えた「縦」の接続として、大学を場とした社会人の「生涯学習」も唱われているが、逆に小・中・高への大学からの教育提言を発信する時期に来ているのではないかと考える。今、日本の教育現状を見直し、大学から高校・中学・小学校へと意見を伝えてフィードバックすることにより、本来の大学教育とすることが必要ではないだろうか。聞くところによると、かつてのフランスでは、ちょうど今の日本と同じように引きこもりやうつ症状の学生が多く見られたそうである。社会発展の過程でどの先進国も経験する状況なのであるか。フランスでは小・中・高教育を厳しく見直して改善し、質の高い教育を取り戻しているようだ。日本も、こうした経験をもつ国々から学んで、乱暴な言い方が「打たれ強い子供」を育成し、海外にも積極的に飛び出していく活力のある人間形成を目指すことが必要と思う。

少し横道に外れたかもしれないが、幸い、学生が「図書館に行って勉強しよう」という言葉を口にするにまだ出会うことができる。まだ図書館は勉強する場所という位置づけにある。これを救いとし、いかなる時代においても図書館を知のシンボル拠点として、そのステータスを維持して行くことを当面の目標としたい。

つるた たかはる  
(九州工業大学附属図書館長)

建学の精神をテーマとした図書館コレクションの整備とその課題  
—活水学院創立130周年記念資料展「ここから女子教育が始まった 活水学院」を開催して—

森 茂樹

1. はじめに

活水学院は当初、活水女学校の名称で、1879年(明治12年)12月1日に、キリスト教精神に基づく人格の形成という建学の精神のもとに「女子に最高の教育を」の実現をめざし、エリザベス・ラッセル宣教師により創立されました。昨年2009年(平成21年)に創立130周年を迎えた記念行事の一つとして、広く学外者に本学院の歴史と建学の精神を知ってもらうために、2009年11月3日(火)から17日(火)の15日間の日程で、明治後期に建造された旧宣教師館(東山手12番校舎)を会場に、活水学院資料展「ここから女子教育が始まった 活水学院」を開催しました。

資料展は、学院史や本学所蔵の貴重な聖書等のキリスト教関係資料や草創期の活水学院を偲ばせる文物を紹介するために、「活水学院のはじまり」、「活水学院のオルガン・讃美歌コレクション」、「活水女学校の生徒たち」、「映像で見る活水学院」、「中高に流れる「活ける水」」「絵画に描かれた活水学院」の6つのテーマで会場を分け、本学が所蔵する貴重な写真、聖書、讃美歌をはじめ、キャンパス風景を描いた絵画・版画、80年前の授業ノートなどを初めて展示しました。

オープニングのイベントでは、坂井信生氏(本学元教授)の「明治期キリスト教と長崎」と題する講演で長崎での宣教師たちの活躍とミッションスクールの歴史が語られ、創立者ラッセル女史やデヴィソン牧師が刊行した讃美歌に関する展示資料についての解説もありました。また、椎名雄一郎学院オルガニストによる1890年代頃に作られたというリードオルガンコンサートでは、デヴィソン牧師が関係した讃美歌が演奏され、最後には、出席者全員で、本学に最も関係の深い讃美歌217

番(あまつましみず)を合唱するなど、甦った明治期オルガンの音色を楽しみました。

また、長崎市が主催する「長崎学さるく」の関連イベントの1つとして、大チャペルでのパイプオルガンコンサートや「活水女学校における体育の始まり」と題する柿山哲治氏(本学准教授)の講演などを開催しました。

「展示のあの写真に写っているのは私です。」と大変喜ばれた同窓生の方、80年前の授業ノートが今日的で実践的な内容に驚いた学生、100年前の3Dステレオ写真を見て驚いた修学旅行生など、いろいろな方からご感想をいただきました。また、長崎新聞(11月14日付)のフォトフラッシュで全面特集されるなどマスコミにも取り上げられ、15日間に800余名の来場者がありました。

**活水学院  
創立130周年記念資料展**  
～ここから女子教育が始まった～

1879年、アメリカからやってきた2人の学生と1人の女生徒で始まった活水学院。創立130周年記念の特別企画として、普段は公開していない本学所蔵の貴重な資料や、オリジナルを公開いたしました。

**期間** 2009年11月3日(火・祝)～17日(火)  
**開館時間** 10:30～17:00(入館は16:30まで)  
※休館日なし  
**場 所** 東山手十二番校舎(旧宣教師館) **入場** 無料

**関連行事**

- オープニング行事～ミニ講演会と演奏～  
日 時：2009年11月3日(火・祝)  
13:30～(1時間程度)  
講 師：坂井信生氏(元活水女子大学教授)  
演 題：「明治期キリスト教と長崎」  
入場料：無料
- 「長崎学さるく」連携企画行事～ここから女子教育が始まった 活水学院～  
本館は公開していない校舎の内部や、貴重なパイプオルガンの音や、活字を再現した活字印刷、また、明治期(第二世界)では、活字版女子教育の発展の歴史を展示した活水女学校の教育資料についての展示を開催いたします。  
日 時：2009年11月8日(日)13:00～15:00  
コース名：ここから女子教育が始まった 活水学院  
活水女子大学チャペル(パイプオルガンミニコンサート)はキャンパスツアー(東山手十二番校舎)と連携して、当日は無料参加受付いたします。  
講 師：柿山哲治(活水女子大学准教授)、オルガン演奏：次巻中か  
参 観 料：中学生以上1,000円(当日払い)  
定 員：50名(事前申込制が基本です)  
申込期間：10月1日～11月4日(申し込み、定員になり次第締め切り)  
集合場所：活水女子大学 東山手キャンパス・本館  
※お問い合わせ先：〒850-8515 長崎県東山手1番50号 TEL: 095-822-4107 (代) http://www.kwaikyo.ac.jp

## 2. 展示物の紹介

展示物は、学院資料室、図書館、附属の中学・高等学校の所蔵資料に加え、院長室等で展示している絵画、学院制作の視聴覚資料からの草創期の活水学院に関する学院史料、上野彦馬撮影などの明治期古写真、明治期刊行の和訳聖書、ヘボン編纂の聖書辞典等のキリスト教関係図書、讃美歌、100年前に制作されたリードオルガンなどの文物、本学キャンパスで撮影された映画『若い人』の吉永小百合のパネル写真などを見つけ、6つのテーマに分け、展示しました。

展示の企画や運営等は、学院長、図書館長を中心に創立130周年記念学院資料展示実行委員会を設置し実施することになりましたが、今回のような展示会は過去開催したことが無かったため、学院に点在する史料の確認と展示リストの作成、標題や解説のプレートの作成、写真のパネル化などゼロからのスタートでした。

また、学院資料室がありました。そこには1980(昭和55)3月に刊行された『活水学院百年史』の編纂のために収集されたものが中心で、企画広報課が管理していても専任のスタッフもいなく非公開での保管と管理となっておりましたので、今回の学院史資料展を機会に、学院関係の資料の発掘、整理などが指摘され、今後の課題となりました。

しかし、今回の展示資料を準備する中で、大阪カンファレンス(1883)における創立者ラッセル宣教師の発言を収録した英文議事録や、ラッセル先生の養女、メイ・ラッセルのサイン入り図書が見つかるなど、学院史料再発見の機会となりました。

今回展示した各テーマの主な展示物を紹介すると、以下のとおりです。

### (1) 活水学院のはじまり

創立者ラッセル先生関係：直筆日記、上野彦馬撮影の写真(明治26年)、著書『舊約史略』(美以美雑書會社出版 明治19年)、メイ・ラッセル(創立者 エリザベス・ラッセル宣教師の養女)のサイン入り図書『Bible study by books』

明治期刊行の聖書等：『新約全書 詩篇附』(横浜 北英国聖書會社 1905)、『新約聖書 3版』(N・ブラウン訳 横浜 1882年)、『聖書辞典』(平文(J. C. Hepburn) 山本秀煌編纂 基督教書類會社 1882)

### (2) 「活水学院のオルガン・賛美歌コレクション」

リードオルガン Mason & Hamlin (アメリカ製) Style 2208 No.176288 (1890年代に製作されたもの1966年に長崎教会より寄贈)

明治期音楽関係の学院古写真「活水コーラス団」(明治37年1904)、「活水の生徒 オルガンについている岡島マサ(後の大島夫人)」(明治30年1897代)

讃美歌 『A collection of Hymns, for the use of the people called Methodists』(Rev. John Wesley 著 London: John Mason, 1845. 讃美歌のコレクション A collection of Hymn-Books of Great Britain and America, 1804-1940より)

楽譜 『クリスマス讃美歌 新撰譜付』(デー・シー・グリーン 納所弁次郎編 原田助訳 警醒社 1894)、『御代のみさかえ ハレルヤ』(ヘンデル作曲 出版：共益商社書店 1926)

### (3) 「活水女学校の生徒たち」

企画パネル「活水女学校における体育の始まり」(活水女子大学准教授 柿山哲治)、最初の生徒募集広告(西海新聞)、長崎活水女学校規則、旧卒業証書(明治期)

林智恵子さん(専門部家政科 昭和6年卒 林正康氏寄贈)の直筆ノート(西洋作法及建築学、西洋料理、裁縫洋裁、食品・科学・物理学・化学)

ステレオ写真の器具(現物) Stereoscopic とイタリアのステレオ写真 『Italy through the stereoscope』(New York: Underwood & Underwood, 1900.)

### (4) 中高に流れる「活ける水」

被爆校舎と新校舎建設関係写真、メイポール



ダンス、活水女学校時代（昭和18年）のアルバム写真、制服の変遷（展示）、活水中高校紀要『活ける水』創刊号、吉永小百合主演『若い人』のパネル写真等

(5) 「映像で見る活水学院」

ビデオ『わが心に刻まれし乙女たちを エリザベス・ラッセル女史の生涯』の上映

(6) 絵画に描かれた活水学院

中西利雄「クス若葉の校庭風景」（水彩1936年）ほか1点、田川憲「活水と12番」（木版画1951年）ほか2点、松崎卯一「ざぼん」（油彩）、岡部弘「無題」（水彩）ほか1点、小倉基弘「活水学院の楠と庭」（水彩）ほか2点、小川緑「無題」（油彩）

### 3. 建学の精神をテーマとした図書館コレクションの保存と活用

本学図書館の蔵書は約29万冊（2010年3月現在）あり、幸いにも原爆等の被害による損失もなかったため、明治期に開学して以来の蔵書が大部分残っています。その中で、本学の建学の精神であるキリスト教関係の貴重図書の図書館で所蔵については、以下のような蔵書があります。

創立者 ラッセル宣教師の執筆図書及び聖書・関係図書

Horatii Tursellini e Societate Iesv De Vita Francisci Xaverii: qui primus e Societate Iesv in Indiam & Japoniam Euangelium inuexit. Ex Typographia Aloyfij Zannetti, 1596. (1596年に刊行されたフランシスコ・サビエル伝、付書簡集 / トルセリーニ著) と関係図書

音楽学部開設の記念として購入した讃美歌のコレクション (A collection of Hymn-Books of Great Britain and America, 1804-1940、105冊) 19世紀までに刊行された聖書・キリスト教関係洋書 (約160冊)

明治期に刊行された聖書・キリスト教関係和書 (約100冊)

『近代日本キリスト教新聞集成 第I - II期全252巻』などのマイクロ版のキリスト教関係資料

『Biblia Pauperum Pal. lat. 871.』（復刻版・岩波書店）、『Biblia Sacra Mazarinea』（「グーテンベルク聖書（マザラン版）復刻版 パリ刊）などの聖書の復刻版

しかし、戦前の蔵書目録がなく、貴重蔵書に関しても特に図書館コレクションとしての位置づけもなかったため、19世紀までに刊行された洋書（約160冊）と明治期刊行の和書（約100冊）については一般書架に配架されている状況です。また、貴重書架に配架している図書についても、本学のキリスト教関係コレクションとしての一括した区分ではなく、個別の貴重書として保存している現状です。これらの図書は、本学の建学の精神のキリスト教関係図書として長年購入し、図書館蔵書に加えられていったにすぎません。

しかしながら、昨年の学院史料の展示会の経験や反響を考えると、建学の精神をテーマとした図書館コレクションを構築することの必要性や大切さを痛感いたしました。

そのため、現在、貴重書架や一般書架に配架されている聖書・讃美歌などのキリスト教関係の貴重書をキリスト教関係のコレクションとして位置づけて整理し、散逸しないように保存し、同時に、解説等を作成し、展示やホームページ・機関リポジトリでの公開等をおこない、本学図書館の特別コレクションとして構築しその活用を計画することになりました。





このことは、本学院が明治初期に長崎の地でキリスト教主義の女子教育を目的に建学したという由来から、これらの資料が学内的に価値を持つばかりではなく、日本における女子教育やキリスト教主義教育を研究するための学問的原資料としての価値があることを考慮し、内外に公開して、社会の共有財産として活用したいと考えたからです。

現在、特別コレクションとしての対象図書を、分類や出版年等をキーワードに蔵書データから抽出しリスト作成をおこなっています。今後は、解題等を追加する必要があり、国際基督教大学アジア文化研究委員会編『日本キリスト教文献目録 - 明治期 - 』、青山学院資料センター編『明治期キリスト教関係図書』や同センターが現在整備中の『明治期基督教関係図書目録』(データベース)を参考に整理を進めたいと思っています。

また、機関リポジトリでの公開については全文データとしての構築はできませんが、書誌事項、解題に標題紙等の書影を加えたデータとして整理

したいと考えています。幸い機関リポジトリについては、OSがWindows 7のパソコンに、Microsoft Web Platform Installerを利用してXOOPS Cube上に、理化学研究所脳科学総合研究センター神経情報基盤センターと慶應義塾大学メディアセンターが開発したXooNips Library版での構築(試行版)を進めており(注1)、その中で、紀要データとともに、図書コンテンツを登録するアイテム(BOOK)を利用して公開したいと考えています。

図書の整理や整備はこれからです。加えて、特別コレクションとして整備するための予算処置や人的配置も難しい状況であり、通常業務の中で少しずつおこなっていかねばならない現実もあります。しかし、図書館の財産はやっぱり現物の蔵書だという思いで、構築に向けての第一歩を踏み出そうと思っております。

注1 XooNips Library版については、XooNips-Libraryモジュール公式サイトをご参照ください。<http://xoonips-library.sourceforge.jp/project/> (2010/11/30検索)

また、構築方法については、XooNips研究会サイトの「Microsoft Webプラットフォームを用いたXooNipsのセットアップ」で紹介しています。

<http://nipc.brain.riken.jp/xoonips/index.php?Special%2FWebPlatform> (2010/11/30検索)

もり しげき  
(活水女子大学図書館)

## 九州工業大学学術機関リポジトリ (Kyutacar) 開発物語

キューテイカー

前田 博

## 1. はじめに

筆者は、国立大学が法人として船出した2006年に附属図書館長に就任し、第1期中期目標・中期計画期間中の6年間在任した。附属図書館にとってこの期間を一言で総括すれば、「質的量的大変革の始まり」であったと思っている。中期目標・中期計画に盛り込まれた内容を具現化するための創意工夫が大いに求められ、本学においても、この期間に様々な新しいことが実現された。その中でも、0からのスタートとなった機関リポジトリの開発が最も印象に残っている。本稿では、機関リポジトリが注目されるようになった経緯について解説すると共に、九州工業大学でのKyutacarの開発物語を紹介したい。

九州工業大学の学術機関リポジトリはキューテイカーKyutacar (Kyushu Institute of Technology Academic Repository) という愛称で呼ばれ、2008年3月に公開された。国立情報学研究所 (NII) の学術機関リポジトリポータル JAIRO<sup>1)</sup> や世界の機関リポジトリ情報を紹介している OpenDOAR (Directory of Open Access Repositories)<sup>2)</sup> に登録され、現在、世界を超えて閲覧、検索される対象となっている。

機関リポジトリとは、大学や研究機関で創出された学術情報をその機関が電子的に貯蔵し、インターネットを介して誰にでも、制約無しに、無料で、公開するという新しい学術情報流通方式のことである。わが国では、2004年頃から機関リポジトリが急速に展開され始め、当初19大学が、NIIの最先端学術情報基盤整備 (CSI) の委託事業として機関リポジトリを立ち上げたのを皮切りに、2009年度末現在では123機関のリポジトリが公開されるまでに拡大してきた。このような潮流を生み出した背景には、2つの大きな要因が存在する。一つは、ネットワークやPCの高速化とインター

ネットの普及という高度情報インフラの整備が充実してきたこと、もう一つは、主に商業出版社が発行する学術雑誌の価格高騰に対抗するために生まれたオープンアクセス運動である。

## 2. 学術情報流通の新潮流

20世紀後半から噴出した学術情報流通の新潮流は、その淵源を辿ると、20世紀の科学技術の輝かしい発展に行き着く。ここでは、まずその過程を概観してみたい。

2.1 オープンアクセス運動<sup>3)4)</sup>

学術情報の流通は、20世紀半ば頃までは、研究者の学術コミュニティである学協会の学術雑誌が主に担っていた。この頃からの科学技術の急激な発展は、新たな研究分野の創出や細分化によって学術論文の量的拡大を格段に進めた。既存の学協会雑誌だけではもはや十分な対応できなくなり、その隙間を埋めるべく、商業出版社が市場のニーズに応える種々の学術雑誌を刊行し、進出していった。この状況が、雑誌のタイトル数を徐々に増大させながら、1990年頃まで続いていくことになる。この過程で、商業出版社の寡占化が進み、出版社主導の冊子体価格の高騰が多くの図書館関係者を悩ませることになった。この状況に対抗するために登場したのが、オープンアクセス運動であった。

オープンアクセスとは、誰でも、自由に、制約無く、学術情報にアクセスできることを意味している。その端緒は、1991年米国での別刷りの電子的配信の試み<sup>3)</sup>といわれている。その後、世界に大きな影響を与えたのは1998年米国研究図書館協会が中心となった「学術出版と学術資源に関する協力運動」(SPARC: Scholarly Publishing and Academic Resources Coalition) である。ここでは、



オープンアクセスを達成するための手段として、紆余曲折の後、1) オープンアクセス雑誌の刊行、2) 機関リポジトリの促進、が提唱された。機関リポジトリについては、別節で述べることにし、オープンアクセス雑誌について若干触れておく。

オープンアクセス雑誌とは、誰でも無料で閲覧できる電子ジャーナルのことであり、2010年11月現在、世界で5,718の雑誌がルント大学図書館の Directory of Open Access Journals (DOAJ) に登録されている<sup>5)</sup>。純粋なオープンアクセス雑誌は、出版経費を著作者の論文掲載料でまかなうビジネスモデルを目指しているが、現時点では、大学や公的機関が支援をしているか、もしくは学協会が冊子体購読料に依存して、無料公開している雑誌が大部分を占めており、まだ道半ばといわざるを得ない。日本では、1999年に、科学技術振興機構 (JST) が電子ジャーナル出版に必要なハードウェア・ソフトウェアを備えたプラットフォーム「科学技術情報発信・流通総合システム」(J-STAGE)<sup>6)</sup>の本格運用を開始し、国内の学協会と連携して電子ジャーナルの公開を始めた。2010年11月現在、667誌の電子ジャーナルが公開されており、かなりの雑誌がオープンアクセスとなっている。しかしながら、出版経費面では、欧米と同じく公的機関の支援と共に学協会の冊子体購読料に依存したものとなっている。

他方、NII は2003年に SPARC Japan 国際学術情報流通基盤整備事業をスタートさせ、国内の英文論文誌の電子化を支援すると共に、図書館等のサイトライセンス契約の推進による学術雑誌の自立化を目指している。現在、この事業に参画している雑誌はパートナー誌と呼ばれ、45誌が登録されている。

このように、オープンアクセス雑誌は国際的に発展しつつあるが、商業出版社への対抗馬としての位置づけには未だ大きな距離がある。その距離を縮めるためには、出版費用を賄う安定的なビジネスモデルを確立することが不可欠となるが、この課題は、権威主義的雑誌・論文評価のあり方や著作者の意識改革などと相互関連しており、まだ

ハードルは高いと言わざるを得ない。

## 2.2 電子ジャーナルの時代

商業出版社が、投稿料/掲載料の無料、一定部数の別刷り無料配布による投稿論文の大量収集戦略により、学術雑誌市場の寡占化を進める中、1980年代になると IT の進歩により、情報検索は伝統的な冊子体の閲覧からオンラインデータベース検索へと移行していくことになった。この状況変化を決定的にしたのが、インターネット環境の充実・普及であり、1990年代後半にはインターネットを媒介とした学術情報の電子的流通が実現し、自室の PC から、必要な論文を容易に入手できるようになった。もはや、図書館のかび臭い書庫で、雑誌のバックナンバーを閲覧した時代は歴史の一角になるうとしている。

この機会を捉えて米英の主要学会や商業出版社は、こぞって、手持ちの学術情報を電子化し、いわゆる電子ジャーナルとして市場に送り出してくることになる。当初は冊子体に付随した特典として試行的に供給されたが、2001年には電子ジャーナル主体の価格モデル、包括契約 (Big deal) への転換を進め、寡占化、価格高騰を顕在化させ現在に至っている。特に、ここ数年における、電子ジャーナル価格の高騰は予算縮減に喘ぐ国立大学法人を直撃し、電子ジャーナルの契約解除が、どの大学でも、いつ起きてもおかしくない状況といわれ、2008年2月の国立大学協会の「『電子ジャーナル』に関する要望」と題する緊急アピール、5月の国立大学図書館協会のシンポジウム「学術情報流通の改革を目指して～電子ジャーナルが読めなくなる！？～」の開催、6月の国立大学図書館協会総会でのワークショップ「電子ジャーナルの持続的利用を目指した学術情報流通改革について」の開催と矢継ぎ早に電子ジャーナル時代の問題点が訴えられている。

本学においても、1998年から電子ジャーナルの導入が試みられるが、2009年までの経緯をまとめおきたい。

### 1) 電子ジャーナルの幕開け

購読の冊子体にオンラインのフルテキストが無償で提供される。

- ・ 1998年 7月 アメリカ物理学会 (APS) Physical Review 等 7誌
- ・ 同年 9月 アメリカ物理学協会 (AIP) Journal of Applied Physics 等 9誌
- ・ 1999年 9月 AMS (American Mathematical Society)、Elsevier 社の SD21 (日本向けサイエンスダイレクト) のサービス開始(購読誌プラスアルファ: 95誌)
- ・ 2001年末段階で閲覧可能タイトルは二百数十誌

### 2) 電子ジャーナルの有料化

2000年、Elsevier 社の大幅値上げの価格改定に伴い、交渉窓口として11月に国立大学図書館協議会の電子ジャーナル・タスクフォースが設置され、各種コンソーシアムの形成と契約条件の交渉を行うことになり、本学もコンソーシアムへの参加の道を歩むこととなった。

- ・ 2001年度、Elsevier, Springer, Wiley の 3社のコンソーシアムに参加を決定
  - ・ 2002年度、Elsevier, Springer, Wiley の 3社のコンソーシアムへ参加の結果、非購読誌も閲覧可能になり、閲覧可能タイトルは2000誌を超える。
  - ・ 2003年度、IEEE-CS (米国電気電子学会コンピュータ・ソサイエティ) の電子ジャーナルコンソーシアムへ参加 (26誌+Proceedings)
  - ・ 2004年度、APS (米国物理学会) の電子ジャーナルコンソーシアムへ参加 (8誌)
  - ・ 2006年度、ACS (米国化学会) コンソーシアムへ参加 (24誌)
  - ・ 2007年度、Nature コンソーシアムへ参加 (6誌)
  - ・ 2008年度、Elsevier 社のコンソーシアム、シェアード・アクセスの廃止に伴い、フリーダム・コレクションに移行 (アクセスタイトル数 1052誌から1650誌に増)
- 以上の経過は、電子ジャーナルのタイトル数

を増大させることによって構築されていった良好な情報検索環境を物語ってはいるが、半面、恒常的な価格アップに伴う予算確保の困難さを背負うことにも繋がった。その対策として、電子ジャーナルオンリー化、すなわち紙媒体の廃止を進めることになる。

- ・ 2008年度から Elsevier 社の全タイトルについて電子ジャーナルオンリー化
- ・ 2009年度から Springer、Wiley、APS、IEEE-CS、AIP、ASME についても、電子ジャーナルオンリー化

### 3) 電子ジャーナル経費予算形態の変遷

雑誌経費の予算確保は、2003年度までは、部局単位、部局内では教室や学科単位で行われていた。

- ・ 2004年度、工学部・情報工学部両学部ともコンソーシアム参加雑誌等の予算を部局内で共通経費化
- ・ 2006年度、コンソーシアム参加雑誌等の全学共通経費化を実現

以上の経過をたどって、電子ジャーナル予算を安定的に確保できるようになったが、一方で予算枠の上限も設定され、それを超えると見込まれる場合には電子ジャーナルの縮減も課せられることになった。昨今の円高のお陰で、まだ縮減に至っていないことは幸運と言わざるを得ない。

2009年現在、本学の閲覧可能な電子ジャーナルは約17,000タイトルに達したがそのまとめを表1に示しておく。

## 2.3 機関リポジトリ

オープンアクセス運動のもう一つの柱として期待されているのが機関リポジトリである。当初、研究者自身の「自己アーカイブ」の推進として打ち出されたものが、研究者の所属する機関もしくは機関のコミュニティが主体となる形態に発展した。その端緒となったのは、1999年のリポジトリの規格作りを目的とした OAI (Open Archives Initiative) の設立とそこで制定されたプロトコル OAI-PMH (Open Archives Initiative Protocol for

表 1 九州工業大学の電子ジャーナルタイトル数 (2009年)

番号	出版者等	コンソーシアム入	アクセス可能 タイトル数	備 考
1	WoS+INSPEC+JCRW		-	Web of Science など 2 次データベース
2	Elsevier		1,974	サイエンスダイレクト・フリーダムコレクション
3	Springer		1,817	
4	Wiley		762	
5	APS		7	American Physical Society
6	IEEE-CS		26	IEEE computer Society
7	ACS		34	American Chemical Society
8	Nature PG		6	Nature PG : Nature Publishing Group
9	NAS		1	National Academic of Sciences
10	Am Physiol Soc		1	American Physiological Society
11	AIP		4	American Institute of Physics
12	ASME		23	American Society of Mech. Engineers
13	CUP		8	Cambridge University Press
14	IMechE		16	Institution of Mechanical Engineering
15	IoP		3	Institute of Physics
16	IEEE(IEEE-CSを除く)		0	
	非全学経費による EJ		22	
	フリージャーナル		12,329	
	合 計		17,033	

Metadeta Harvesting) であった。これにより、各所に分散するリポジトリを統合的に検索することが可能となり、国際的に機関リポジトリへの関心を高めることに成功した。

機関リポジトリという概念が初めて登場したのは2000年頃といわれており、その一般的定義としては、「機関構成員が作成したコンテンツを保存・普及・管理する、機関をベースとしたサービス」が最も受け入れられている。基本的な特徴として、1) デジタルコンテンツの提供、2) 機関主導によるコンテンツ登録・サポート体制、3) コンテンツの永続的保障、4) オープンアクセス、を備えなければならないとされている。<sup>7)</sup>

機関リポジトリの先駆けは欧米で起こり、2000年から2002年の間に、カリフォルニア工科大学、サウザンプトン大学、マサチューセッツ工科大学などが先陣をきった。世界の機関リポジトリ情報が OpenDOAR で見ることができるが、2010年11月現在の機関リポジトリ数は1700以上となっており、本学の機関リポジトリ Kyutacar も登録されている。

日本では欧米に遅れること2年、NII が2004年に学術機関リポジトリ構築ソフトウェア実装実験プロジェクトを開始し、2005年には19大学を指定した学術機関リポジトリ構築連携支援事業・委託事業を展開した。この年、先駆的に取り組んでいた千葉大学が機関リポジトリを公開した。2006年から公募による委託事業を開始したことにより、機関リポジトリの構築に弾みがつき、2008年9月現在、85機関のリポジトリが NII に登録されている。同時に、機関リポジトリ同士を統合的に検索できる機関リポジトリポータル JuNii+ を開発公開し、現在その後継の JAIRO が2009年4月から公開されている。

今後も、機関リポジトリの発展は続くであろうが、商業出版社に対抗する学術情報流通方式となるためには、オープンアクセス雑誌と同じく、権威主義的雑誌・論文評価のあり方や著作者の著作権に関する意識改革などを解決することが必要となる。特に、著作権については、従来のように出版社に無条件譲渡するのではなく、何らかの付帯条件を付す運動<sup>8)</sup>が始まっている。

### 3. 九州工業大学学術機関リポジトリ

本学の機関リポジトリの愛称は Kyutacar (Kyushu Institute of Technology Academic Repository) と呼ばれ、2006年に開発準備に取り掛かり2008年3月に一般公開を達成した。附属図書館としては外部プロジェクトに応募し、それを獲得し、達成するという初の経験であった。ここでは、その経緯と内容について詳述したい。

#### 3.1 機関リポジトリ構築への助走

2006年3月、科学技術・学術審議会内の学術情報基盤部会から、日本の学術情報基盤のハード、ソフトの両面からの現状、課題、今後のとるべき方向性を示した「学術情報基盤の今後のあり方について」と題する報告書<sup>9)</sup>が出された。国立大学の法人化、国際的競争環境の激化、財政の緊縮化など激動する環境変化によって、劣化していく我が国の学術情報基盤への警鐘を鳴らしたものであった。この中で、機関リポジトリの推進が、オープンアクセス運動への対応、知的財産立国を目指す戦略の一環の両面から謳われた。この概要が中間報告の形で示された2005年6月が、本学機関リポジトリ構築構想のスタートとなった。同時に、NIIが2006年度公募による学術機関リポジトリ構築連携支援事業・委託事業を展開するとの事前情報を得、NIIへの応募を念頭に、機関リポジトリ情報の収集、先行大学の調査など附属図書館内での手探りの準備が始まった。

まず、機関リポジトリ構築・運用に対する学内体制の整備から手を付け、

- (1) 2006年5月、附属図書館において「九州工業大学機関リポジトリ構築計画」を策定

- (2) 2006年6月、大学執行部の教育研究評議会での承認

- (3) 2006年9月から10月、附属図書館運営委員会の下に運営WGの設置、情報化推進委員会の下にシステム構築WGの設置

という手続きを踏んだ。この過程と並行して、NIIの委託事業公募への申請書作成を進め、2006年5月に申請した。もちろん、申請書には、上記のリポジトリ学内支援体制を先取りする形で盛り込んでいた。同時に、申請不採択時には大学自己資金によるリポジトリ構築というバックアップ体制の承認も取り付けた。このとき確立された機関リポジトリの学内位置付けを図1に示す。

機関リポジトリシステムは、大学として取り組むべき新たな学術情報発信手段として位置付けられ、教員情報データベース、e-ラーニングシステムとリンクされる計画となっている。

さて、NIIから、採択通知を固唾を呑んで待たしたが、結果は不採択、機関リポジトリは未だ夜明け前となった。不採択の原因は、一言で言えば準備不足ということになる。学内体制の整備を走らせながらの申請であったために、その不確定性に起因して、本学の委託事業への取り組みの具体性が弱くなり、申請書の評価者に強くアピールできなかったことが主因になったと思われる。応募大学77大学中20大学の不採択枠に入り、大きな挫折を味わったが、2007年度への再申請を目指して自前での準備を進めていった。

- (4) 2006年12月、システム構築WGによるリポジトリ用コンピュータシステムの選定

2007年3月稼働、このとき採用されたのは、MITで開発され2002年に公開されたリポジ



図1 機関リポジトリシステムの位置付け



トリ用ソフトウェア DSpace<sup>7)</sup>を搭載したサーバであった。

(5) 2007年2月、博士学位論文のリポジトリ登録に関する協力要請

リポジトリコンテンツとして博士学位論文の登録実績作りを目指した。

こうして、機関リポジトリ構築の準備で、2006年度を終えた。

### 3.2 機関リポジトリの夜明け

2006年度のNII委託事業不採択の反省として、確固たる学内体制を構築すること、すなわち、自前でのリポジトリシステムの導入、しっかりとしたりポジトリ運用体制の構築、リポジトリコンテンツとして博士学位論文や紀要論文の登録実績作り、と可能な限りの手当てをして、2007年度のNII 学術機関リポジトリ構築連携支援事業・委託事業の追加公募への再チャレンジに臨み、4月に申請書を提出した。2007年6月、待望の採択通知がやってきた。事業費は300万円要求し、200万円が割り当てられた。応募24大学中、13大学が採択されていた。これで、公式に世の中の流れに九州工業大学も棹をさすことができることになり、図書館職員一同、胸をなでおろした。

さて、2007年度の申請書で掲げた事業目的とその概念図(図2)を示す。

本学では、現在までに教員情報データベース、WEB上の「研究者紹介」、「教育と研究」、各学部・研究科の「年報」、科学技術振興機構の研究者データベース「ReaD」、(財)北九州産業学術振興機構の「北九州学術研究都市の研究者情報データベース」を構築し、そのなかで必要な項目として、発表論文A(査読付定期刊行物)、発表論文B(査読付国際会議)、発表論文C(査読無定期刊行物・紀要等)、著書、特許、実用新案などのデータを整備している。

1) 本事業では、これらの二次的データのみでなく学術研究成果物(一次資料)を登録し、Dublin Core(文書の著者、タイトル、作成日等の書誌的情報をメタデータとして登録する際

の用語集)に準拠したメタデータの整備を行い、国立情報学研究所が整備しているメタデータデータベース JuNii(現在 JAIRO)との連携のため、メタデータ交換プロトコル OAI-PMH に準拠したシステム構築を行う。

2) また、すでに電子化を行い公開しているテクニカルレポートや紀要を学術機関リポジトリに移行するとともに、本学100年の歩みにおける貴重史料及び地域と連携した「筑豊歴史写真ギャラリー」の移行にも着手する。

3) 本事業により、本学の学術情報(研究成果)を一元的・永久的に管理するとともに、機関リポジトリに登録した一次資料と教員情報データベースとのリンク機能を充実させ、産学連携を一層促進することができる。

4) さらに、シラパス、教材等の教育的成果物の電子的登録・公開により、本学の教育目標である、社会と時代の要請を踏まえた実学を重視するとともに、幅広い国際的視野と教養及び技術者倫理を身に付けた「技術に堪能なる土君土」を養成していることの社会への説明責任を果たす。

### 3.3 機関リポジトリと著作権問題

機関リポジトリは、種々の学術情報をコンテンツとして登録し、無償で公開していくことを目的としているが、これには著作物の著作権問題が密接に関係している。大別して、2つの場合、1) 著作者が著作権を有している場合、2) 出版社や学協会が著作権を有している場合、がある。

1) の場合は、著作者が著作物のリポジトリ登録を許諾すれば可能であり、著作者に対して、機関リポジトリの意義、著作物の新たな情報発信方式、著作権上の取り扱い等について、十分な理解を得ることが必要となる。ここで、リポジトリ登録許諾が著作権上どのような取り扱いになるのか明示しておこう。

著作権は著作者が所有していることに変更はない。

登録許諾とは、著作物を電子化すること、その電子データをリポジトリサーバーへアップロー

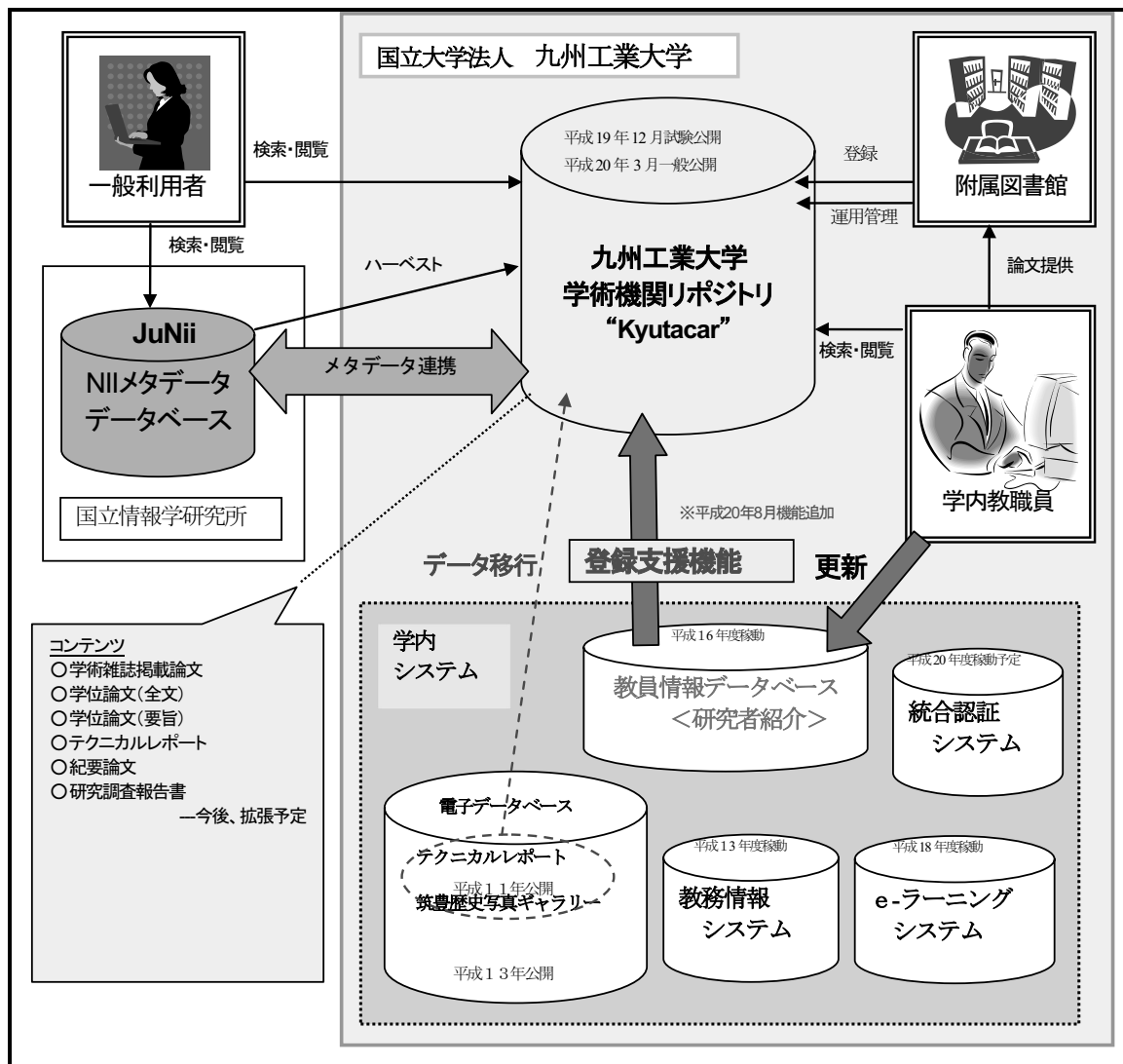


図2 九州工業大学 学術機関リポジトリ構築概念図 (2007年度申請当時)

ドすること、利用者の求めに応じて無償で送信すること、の許諾を意味する。すなわち、著作権上の「複製権」および「公衆送信権」を当該機関に許諾することである。

2) の場合は多くの雑誌論文が対象となる。研究者は、自らの論文を権威ある雑誌に掲載することが主目的であり、その著作権については余り関心を持たず、多くの場合、学協会や商業出版社に無条件譲渡してきた。特に、商業出版社が、掲載料無料・別刷り無償配布の戦略で大量に獲得した論文（著作権）が現在高価な電子ジャーナルとなり、著作者であるはずの研究者が閲覧するのに苦勞する時代になろうとしているのは、なんとも皮肉である。機関リポジトリの普及に向けての著作者の著作権への意識改革とは、このことを指して

いる。雑誌論文をリポジトリに登録する場合、著作者の許諾のほかに、各出版社の許諾が必要となる。当初、リポジトリの登録に関して協力的でなかった出版社も、オープンアクセス運動の高まりに態度を緩和させ、現時点では条件付きながら許諾する出版社が増えてきた。しかし、同じ出版社でも、雑誌ごとに許諾の有無が異なっていたり、許諾条件も出版社ごとに異なるなど非常に複雑になっている。このように出版社がリポジトリ登録を認めた雑誌は、グリーンジャーナルと呼ばれ、その許諾情報は Web サイト<sup>10) 11)</sup>で確認できる。

さて、雑誌論文はリポジトリコンテンツの主要な柱であり、登録数を増大させるためには、上記のような著作権処理を教員に代わって木目細かに行う事務支援体制が必要と思われる、2007年度の



NII 委託事業費200万円の大部分は、この著作権処理を行う外部要員の人件費に充当されることになった。このことを含めた、教員向けの機関リポジトリ広報リーフレットならびに Q&A 集を作成し、学内への広報と協力要請を重ね、2008年3月末時点で709件のコンテンツを登録することができた。その内訳を図3に示している。学術雑誌論文410件、学位論文(要旨)196件、紀要論文53件が主要コンテンツとなっている。

### 3.4 Kyutacar の公開

リポジトリへのコンテンツ登録を進めながら、本学機関リポジトリの愛称公募 (Kyutacar が選定される)、Web デザインをへて、2007年12月学内の試験公開を開始し、2008年3月に一般公開を達成した。Kyutacar の誕生である。図4に、Kyutacar のサイト入り口画面を示している。

ここで、一般公開とは機関リポジトリに関する外部機関に登録することを指し、以下の手続きを踏んだ。

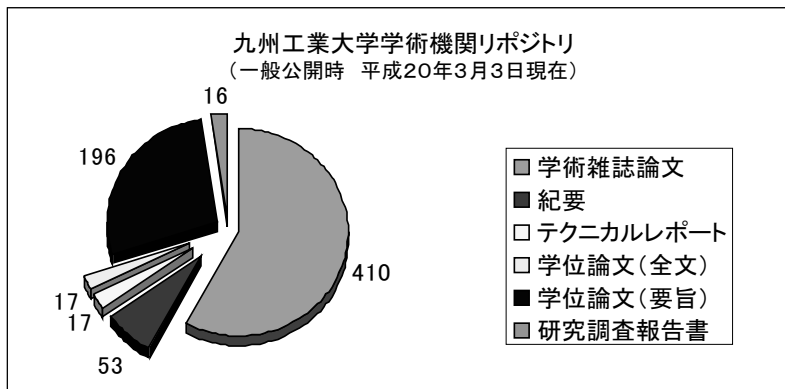


図3 九州工業大学 学術機関リポジトリコンテンツ

九州工業大学学術機関リポジトリ Kyutacar

Kyushu Institute of Technology Academic Repository (Kyutacar) >

九州工業大学学術機関リポジトリ "Kyutacar" (キューテイカー)

Kyushu Institute of Technology Academic Repository

- "Kyutacar"に登録されているコンテンツの著作権は、執筆者、出版社(学協会)などが有します。
- "Kyutacar"に登録されているコンテンツの利用については、著作権者に規定されている私的使用や引用などの範囲内で行ってください。
- 著作権に規定されている私的使用や引用などの範囲を超え利用を行う場合には、著作権者の許諾を得てください。ただし、著作権から著作権等管理事業者(学術著作権協会、日本著作権管理システムなど)に権利委託されているコンテンツの利用手続については、各著作権等管理事業者に確認してください。

◆お知らせ ◆過去のお知らせはこちらから

- 10/9/17 H21年度CSI委託事業報告交流会(コンテンツ系)のポスターセッションで本学ポスター所 登壇第一位!
- 10/6/30 野村先生の論文が「教育系」文系の九州地区国立次学関連連携論文展覧会に掲載
- 10/4/8 志学研究報告の最終号(H22.3)の論文を登録しました!
- 10/3/16 「産学連携のロードマップ」機能(左メニュー)アクセス状況 追加!ダウンロード件数ベスト20
- 10/3/4 「カリエーページ」機能を拡張しました! 論文のファイルのページ目に論文の情報が表示
- 10/2/17 「雑誌型リポジトリ」登録状況一覧(※年内版)を公開!
- 10/2/1 本学研究報告の過去分を登録しました!(約1600件)
- 10/1/29 「記事用ページ」機能を拡張! 本学研究報告を見やすく表示
- 10/1/26 約250件以上の学位論文を登録しました!(現在計330件公開中)

◆九州大の研究成果、募集中。◆

●Kyutacarの英語表示について  
ブラウザの言語を「英語」に設定すると日本語表示のみ英語になります。  
※ IEの場合「ツール」メニュー「インターネットオプション」で設定。

検索  
検索語を入力して、検索ボタンをクリックしてください。

このリポジトリのコミュニティ  
ご覧になりたい論文をコミュニティで検索してください。

学術雑誌論文 = Academic Paper [1052]  
学位論文 = Thesis [1101]  
紀要・テクニカルレポート = Bulletin/Technical Report [1709]  
研究調査報告書 = Research Paper [63]  
学会・会議発表論文 = Conference Paper [47]  
図書 = Book [1]  
附属図書館 = Library [5]

WSpace Software Copyright © 2002-2007 MIT and Hewlett-Packard - ご意見をお寄せください

図4 Kyutacar の入り口画面

- 1) Kyutacar の URL の設定 :  
<http://ds.lib.kyutech.ac.jp/dspace/>
- 2) 外部ディレクトリへの登録
  - ・ NII への登録
  - ・ OpenDOAR (Directory Open Access Repositories) への登録
  - ・ ROAR (Registry of Open Access Repositories) への登録
- 3) 外部検索システムとの接続
  - ・ NII へのハーベスト申請
  - ・ OAI-PMH データプロバイダとしての登録
  - ・ OAIster (ミシガン大学のメタデータハーベストプロジェクト)
  - ・ Yahoo!

こうして、Kyutacar 上に登録されたコンテンツは、世界を超えて検索・閲覧される対象となった。

#### 4. おわりに

九州工業大学機関リポジトリは、ようやく誕生したばかりである。大きく育てて欲しいと思っている。ここで、改めてその意義を確認すると、

- 1) 大学で創出された学術情報を世界中に発信でき、知の創造の府として社会への説明責任を果たせる
- 2) 寡占化を進める商業出版社主導の学術情報流通への抑止力として期待されるオープンアクセスの一端を担う

ということになる。

今後は、リポジトリコンテンツを充実させていくことが何より重要と考えている。過去の学術論文、学位論文の遡及登録、新たに発表された論文登録のシステム化等の課題がある。特にこのシステム化はマンパワーの少ない小規模図書館では必須となる。これには、機関リポジトリに対する教員の理解と協力が不可欠であり、図書館の知恵の出どころであろう。附属図書館では、一度は挫折感を味わったものの外部プロジェクトを自ら獲得し、実行するという初の経験を持った。少ないマンパワーでも、組織で協力し合えば、創造的な仕事出来る証左となった。引き続き、世の中の

新しい流れを感じながら、新たな試みに挑戦していかなければならない。

本学は、期間延長となった NII の学術機関リポジトリ構築連携支援事業・委託事業の2008年度、2009年度に引き続き採択され、2010年3月現在 Kyutacar のコンテンツ総数は3400件を越え、その内訳は学術雑誌論文1020件、学位論文342件、紀要論文1674件と格段に充実してきた。

最後に、NII 主催の平成20年度、21年度 CSI 委託事業報告交流会成果報告ポスターセッションにおいて、本学のポスターが2年連続の第一位に評価されたことを付記し、このプロジェクトの企画・実施・成果報告を中心となって牽引した徳安由希さんに深湛なる敬意を表して結びとしたい。

#### 参考文献

- 1) 国立情報学研究所学術機関リポジトリポータル JAIRO, <http://jairo.nii.ac.jp/>
- 2) OpenDOAR, <http://www.opendoar.org/>
- 3) 時実象一, オープンアクセスの動向, 情報管理, Vol. 47, No.9, pp.616-624(2004)
- 4) 時実象一, オープンアクセス運動の歴史と電子論文リポジトリ, 情報の科学と技術, 55巻10号, pp.421-427(2005)
- 5) DOAJ, <http://www.doaj.org/>
- 6) 科学技術情報発信・流通総合システム J-STAGE, <http://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>
- 7) 高木和子, 世界に広がる機関レポジトリ: 現状と諸問題, 情報管理, Vol.47, No.12, pp. 806-817 (2005)
- 8) 時実象一, 電子ジャーナルのオープンアクセスと機関リポジトリ 機関リポジトリと研究助成機関の動向, 情報の科学と技術, 57巻5号, pp. 249-255 (2007)
- 9) 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会, 学術情報基盤の今後のあり方について (報告) (2006)
- 10) 海外出版社, <http://www.sherpa.ac.uk/romeo/>
- 11) 国内学協会, <http://scpj.tulips.tsukuba.ac.jp/>

まえだ ひろし  
(前九州工業大学附属図書館長)

## Library Lovers'キャンペーン： 九州地区における大学を超えた新たな取り組み

井川友利子 稲永晶子 徳安由希 森下和博

### 1. はじめに

国民読書年に制定されている2010年の秋、九州地区の国公立短期大学図書館が合同で「Library Lovers' キャンペーン」を行なった。これは地区内の大学図書館が協力してひとつのキャンペーンを作り上げるという、全国的にも珍しい取り組みとなった。本稿はその活動報告である。

Library Lovers' キャンペーンは平成22年度国立大学図書館協会地区協会助成事業によるものである。

九州地区国立大学図書館協会では、企画、運営、事後評価を通じて職員のスキル向上を図ることを目的に、この助成事業に応募する事業そのものを研修の機会とした。そこで加盟館の若手職員を中心に企画及び事業運営を行なうこととした。

企画運営にあたり、事業活動の主体に、加盟館11大学、計14名からなる地区助成事業企画検討ワーキンググループ（以下「WG」という）を設置した。また、課長相当の1名がアドバイザーとなり、WGの活動に適宜助言を行なう体制を取った。

### 2. キャンペーン概要

このキャンペーンは、海外の図書館でバレンタインデー等に行なわれている「Library Lovers Day」<sup>1</sup>をヒントに、秋の読書週間（10月27日～11月9日）を「Library Lovers' Week」（以下「LLW」という）として、本や知識、感動との「出会いの場」である図書館をアピールし、学生に図書館の存在を再認識してもらうことを目的とした。

国立大学の事業であるが、公私短期大学にも呼びかけ、ポスター掲示とWeb上での参加をベースに、後述する参加館合同で行なう学生コンテスト、LLW期間中のオリジナル企画実施の有無に

より、3つの参加形態を用意して募った。最終的に参加館は国公立立合わせて30大学となり、九州地区全体で連携したことでキャンペーンの注目度を更に高めることができた。また、文部科学省の後援を受け、「2010国民読書年」ホームページのイベント情報<sup>2</sup>にも掲載を依頼して地区外にもこの取り組みを広く紹介した。

キャンペーンの準備は各自が得意とするフィールドによって総括担当、学生コンテスト班、Web班、広報班に分かれて行ない、1回の会議の他は、全てメーリングリストで意見を交換しながら進めた。次章では、キャンペーンの具体的な実施内容について述べる。

### 3. キャンペーン実施内容

#### 3.1. 学生コンテスト

キャンペーンの柱となる企画として参加館合同による「『オススメの1冊』学生コンテスト」を開催した。これは参加館で共通したイベントを実施することを通じて、図書館の利用促進を図るとともに図書館間の連携をより深めるために企画した。コンテストの概要を以下に示す。

#### 「オススメの1冊」学生コンテスト概要

対象

コンテストに参加する大学に在籍する学生・院生

募集テーマ 括弧内は人気投票結果第1位の図書

「勉強の合間に読みたい本」

（「1Q84」Walking Libraryさん（九州工業大学））

「就活に役立つ本」

（「フリーター、家を買う」あんころもちさん（鹿児島大学））

「無人島に1冊だけ持っていく本」

（「孤島の生物たち：ガラパゴスと小笠原」しまくんさん（鹿児島大学）、

「先生、カエルが脱皮してその皮を食べています」夏さん（琉球大学）

「新入生に読んでほしい本」

(「流星の絆」ヤミングさん (九州工業大学))  
「ほっと癒される本」  
(「空の名前」 皇帝ペンギンさん (長崎大学))

#### 実施内容

各募集テーマに関する推薦図書について、その紹介コメントを募集し、応募されたコメント (図1) はコンテスト参加館及び Web で人気投票を行った。その結果、上位となった図書はコンテスト参加館で購入し (但し、購入の採否は各館の判断に委ねた)、コメントとともに展示を行なった。

#### 実施スケジュール

9月6日～10月13日：コメント募集  
10月1日～10月17日：応募作の展示及び人気投票  
10月27日：人気投票結果発表  
10月27日～11月9日：人気投票上位10位の図書・コメント展示

応募件数：333件、

人気投票数：1,649票 (館内、Web 投票合計)

ではないだろうか。九州という地域の親近感も後押ししたのか、WG メンバーからはどの館でも展示図書はよく利用されていると報告され、合同イベントという企画が持っている力を実感した。



図2 展示の様子 (長崎大学)

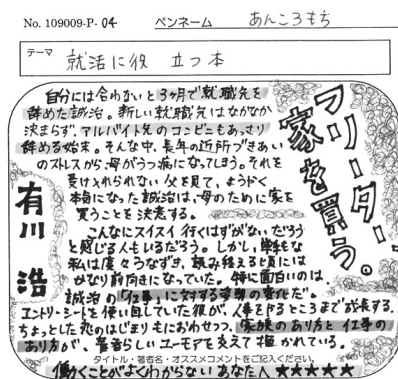


図1 応募コメントの例

今回のイベントは、学生がコメントを応募してくれるのかということが最大のネックであった。そのため、応募前から Web での広報を開始し、各館でも学生への呼びかけや魅せるディスプレイを作りあげた。

そして、コメントの応募及び閲覧、人気投票を Web から実施できる仕組み (詳細は3.2.参照) を独自に開発し、手軽に楽しめるようにした。

こうして工夫した成果は応募件数や投票数にも表れており、学生コンテストの開催はキャンペーンの更なる盛り上がり大きく寄与したと言える。

また、LLW 期間中はコンテスト投票上位図書を参加館で展示し、他大学の学生が推薦する図書に触れる機会を提供した。大学の枠を超え他大学の学生の視点を取り入れた展示は、新鮮な視点を与え読書意欲を喚起する良いきっかけになったの

### 3.2.2. Web 上の展開

今日では、イベントのホームページは欠かせないものとなっている。今回のキャンペーンにおいては、ホームページに加え、民間会社が提供している無料のASP サービスを利用し、WG メンバーと学生や学生同士のコミュニケーションツールとしてブックログ、ブログ、Twitter を活用した。

#### (1) LLW ホームページ<sup>3</sup>

各ページで作成担当者を決め、WG メンバー全員に内容をメールで確認しながら作成し、8月12日に公開した。公開当初は「概要」「スケジュール」「開催館」「学生コンテスト概要紹介」「お問い合わせ」の5つのページを公開し、その後リンク用のバナー画像を置いた「Web 素材」ページも設置した。ホームページの公開に合わせて、LibraryLoversの本棚 (ブックログ)<sup>4</sup>、LibraryLovers 日誌 (ブログ)<sup>5</sup>の公開、Twitter<sup>6</sup>でのつぶやきも開始した。

学生コンテストを開始する際は、各図書館カウンターでコメントを募集すると同時に、ホームページにも「学生コンテストへ投稿」ページを設置し、コメントの募集を開始した。コメント募集ページは、フォームにペンネームやおすすめ図書情報、おすすめコメントを入力することで投稿できるようにした。

ホームページからコメントが投稿されると、pdf





図3 LLW ホームページ

形式、png形式のpopイメージが自動で作成され、投稿があった旨とpopイメージのURLを記載したメールが、投稿者の所属図書館へ届くようになっている。pdf形式のpopイメージはA4の用紙に印刷すると掲示にそのまま利用できるようにした。

応募件数が集まってきたところで、9月下旬から投稿コメントの公開ページ<sup>7</sup>を設置した。投稿コメント表示ページは投稿大学に関係なく新しく投稿されたpopイメージがトップに表示されるようにしたため、頻繁にトップのpopイメージが入れ替わった。公開ページは投稿コメントを閲覧できるように、最大20個の縮小popイメージも掲載した。絞り込み検索も可能にし、投稿者の所属大学・テーマ別で絞り込むことができた。人気投票期間中は、コメント表示ページに投票ボタンをつけ、Web上でも投票を募った。

10月27日、LLW期間を迎え、学生コンテストの結果発表ページを公開した。期間中はロゴマークを特別バージョンに変更し、一目でイベント期間がわかるようにした。

## (2) Libraryloversの本棚(ブクログ)

Libraryloversの本棚には、学生コンテストで投稿されたコメントの図書を登録した。学生コンテ

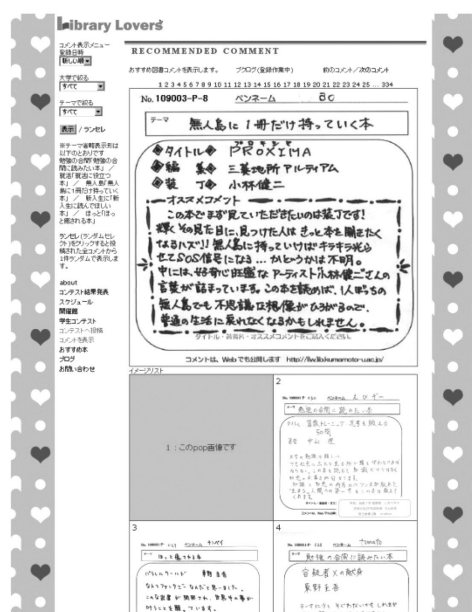


図4 投票コメント表示ページ

ストの募集開始前は、PRも兼ねてWGメンバーによるおすすめ図書を合計51冊、全てコメント付きで登録した。

学生の投稿コメントの掲載は、学生の所属図書館がブクログに図書とコメントを登録した。ブクログのブログパーツを利用して、縮小された本棚をホームページのメニューにも表示するようにしたため、新しい図書が登録されるたびにホームページの本棚も更新された。

## (3) LibraryLovers日誌(ブログ)

公開当初のLibraryLovers日誌(以下「ブログ」という)には、WGの各班がそれぞれの進捗状況や案内を載せた。ブログの更新頻度は各班で週1回以上の更新を目標とし、LLWにむけた作業状況の生の声を伝えた。

コメント募集開始後は、参加館がそれぞれ自館の情報を紹介する「自館自慢」を掲載した。

LLW期間以降は、各図書館の展示状況や、参加館の独自イベントを紹介した。

## (4) Twitter

キャンペーンの新たな取り組みとして、Twitterのアカウント(library\_lovers)を取得し、ハッシュタグ「#llw2010」を用いてキャンペーンに関する案内や出来事をつぶやいた。「#llw2010」のハッシュタグがついたツイートは自動でLLWホームページ

に表示されるように設定した。

今回のキャンペーンでは、ホームページ、ブログ、プログ、Twitter それぞれの特徴を最大限活用した。ホームページにはキャンペーンのコアな情報を掲載し、ブログは学生コンテストのサポートツールとして用いた。ブログではキャンペーンのニュースや各参加館のタイムリーな情報を画像付きで紹介し、Twitter ではキャンペーンのリアルな情報を伝えた。特に Twitter は情報を手軽に直接利用者へ伝えることができ、利用者と双方向のコミュニケーションを取ることも可能なツールである。こうした新たなツールの活用は、今後図書館のサービスを発展させる上で欠かせないものになるだろう。

### 3.3. 広報

広報物の作成にあたっては、典型的な図書館のイメージ（真面目、地味・・・!?) を覆すことを意識した。このキャンペーンに込めるメッセージを直接伝えたいという思いから、プロの手を借りずにデザインは全て WG メンバーでアイデアを出し合って作成した。

ポスター（B2判100枚、図5）は各大学において館内、各学部掲示板、学内購買部、食堂等に9月から掲示した。インパクトのある黄色いポスターに、LLW 期間前から多くの学生が足を止めて見てくれた。また、普段の業務では関わりのないところにも掲示を依頼することで学内他部署に図書館の活動をアピールする機会にもなった。

そして、広報の目玉はキャンペーンのロゴマークを入れたオリジナルグッズである。「図書館で」という意外性で興味を引くことと、キャンペーンへの参加を促す目的で作成した。大学図書館におけるひとつのキャンペーンでのノベルティ配布は、数少ない事例ではないだろうか。

見慣れない販促品サイトを見比べながら、エコカイロ（360個、図6）は寒い季節の勉学を応援する気持ちを込めて、マグネットブックマーク（2,000個、図7）は、本に関するものでプラスα

の機能がついたものという理由で選んだ。グッズは学生コンテストの応募者への特典として配布したほか、各大学のオリジナル企画で活用した。「グッズがもらえるからコンテストに応募した」という声もあり、評判は上々であった。

なお、今回は国立大学の地区助成事業の予算によるため、配布対象は国立大学のみで、学生数に応じて配分した。ポスターデータについてはキャンペーン参加館全館に配布し、自由にアレンジして使えるようにした。



図5 ポスター



図6 エコカイロ



図7 ブックマーク

### 3.4. 各館オリジナル企画

キャンペーンでは、各大学がオリジナル企画を実施した。

参加館の規模や館種は様々で、オリジナル企画の実施は必須ではなかったものの、結果的に国立大学では9校、公私立大学では6校が各々オリジナル企画を実施した。

各大学のオリジナル企画はLLW ホームページの「開催館」のページ<sup>8</sup>にて紹介した。複数のイベントを行なった大学も多く、バラエティに富んだものとなった。

企画内容についていくつか事例を挙げる。九州大学附属図書館の豆本ワークショップ、スタンプラリー等の利用者参加型のイベントや、琉球大学附属図書館の演奏会、朗読会などが行なわれた。

熊本学園大学図書館では地元「熊本」をテーマにした展示や上映会などを企画し、募集で集まった19名の学生スタッフとともにイベントを作り上げた。これは図書館側だけでなく学生を引き込んでイベントを実施することによって、図書館を人と



人の「出会いの場」として身近に感じてもらうという試みに最も成功した一例であった。<sup>9</sup>

学生コンテストに参加しなかった大学も、オリジナル企画を先述のブログに掲載し、同じキャンペーンのもとで行なっているという強い連帯感を味わうことができた。

#### 4. おわりに

応募コメントを熱心に読む学生の姿が多く見られ、展示図書が数日でほぼ全て貸出中になる等、キャンペーンに対する学生の反応に手ごたえを感じられた。大学生の読書離れが叫ばれるが、決して本に無関心ではなく、図書館が学生と本をつなぐきっかけを提供することで関心を持ってくれることを示せたのではないだろうか。

ここで、キャンペーンに寄せられた利用者の声を紹介する。

- ・図書館は正直、地味な印象があったが、このような取り組みがあることを知り面白そうだと思い参加した。(学生)
- ・キャンペーンをきっかけに、いろんな本と出会いたいと思います。(学生)
- ・(単科大学のため)自分の分野以外の人と直接交流する機会が少ないので他分野の人がどういう本に興味を持っているのかわかるので良いと思う。(学生)
- ・“九州”内のイベントというのが、ちょうどいい。(教員)
- ・グッズを配布することは、今までの図書館ではないことなので良いことである。(教員)

今回は地区助成事業として取り組んだが、毎年このような企画を行なって欲しいという声も多く、また何らかの形で学生の読書推進、図書館利用促進につながる企画を考えたい。

我々図書館職員にとっては1つの企画の遂行を通して、初めてのことも多く手探りながらも非常に貴重な経験ができた。企画立案から実行に至るまでのノウハウを得るとともに、他大学のオリジナル企画には大いに刺激を受けた。今後、自館での活動に活かしていきたい。そして何よりも、九州地区の同年代の図書館職員との強いつながりができたことは大きな財産となった。

最後にこの場を借りて、WGメンバーの活動をサポートして下さった皆さま、キャンペーンにご理解、ご協力いただき、盛り上げて下さった参加館の皆さまに感謝の意を表したい。

#### 参考文献

- [1] 例えば、オーストラリア、スウェーデンでの事例がある。  
Australian Library and Information Association. Library Lovers Day.  
<http://www.librarylovers.org.au/>, (参照 2010-12-17).  
Svensk biblioteksforening. Library Lovers.  
<http://www.librarylovers.se/>, (参照 2010-12-17).
- [2] 文部科学省. “イベント情報”. 2010国民読書年.  
<http://www.kokumindokusyo.mext.go.jp/>, (参照 2010-12-17).
- [3] 地区助成事業企画検討ワーキンググループ.  
Library Lovers' HP.  
<http://llw.lib.kumamoto-u.ac.jp/>, (参照 2010-12-17).
- [4] Librarylovers の本棚.  
<http://booklog.jp/users/librarylovers>, (参照 2010-12-17).
- [5] Library Lovers 日誌.  
<http://librarylovers2010.blog135.fc2.com/>, (参照 2010-12-17).
- [6] Library\_lovers. Library Lovers on Twitter.  
[http://twitter.com/#!/library\\_lovers](http://twitter.com/#!/library_lovers), (参照 2010-12-17).
- [7] 地区助成事業企画検討ワーキンググループ.  
“Recommended Comment”. Library Lovers'HP.  
<http://llw.lib.kumamoto-u.ac.jp/cgi-bin/view.cgi>, (参照 2010-12-17).
- [8] 地区助成事業企画検討ワーキンググループ.  
“Library”. Library Lovers'HP.  
<http://llw.lib.kumamoto-u.ac.jp/library.html>, (参照 2010-12-17)
- [9] 熊本学園大学図書館. 特集「Library Lovers'奮闘記」. 熊本学園大学図書館報大楠. 2010, 47, p.2-5.  
[http://www.lib.kumagaku.ac.jp/oaks/No47/oaks\\_47.pdf](http://www.lib.kumagaku.ac.jp/oaks/No47/oaks_47.pdf), (参照 2010-12-19).

いかわりこ (九州大学附属図書館)  
いねながしょうこ (琉球大学附属図書館)  
とくやすゆき (九州工業大学附属図書館)  
もりしたかずひろ (熊本大学附属図書館)

## 図書館紹介

### 【名桜大学附属図書館】

**天然の美** 日本有数の景観を誇る大学、それが名桜大学である。眼下には、北部地区一番の繁華を誇る名護市街と茫洋たる大海に広がる紺碧の名護湾、はるか南西の彼方には形のよい12の山並みが連なり、沖縄の富士と謳われる名山恩納岳を終結点とする。右に眼を転ずれば、厳しく屹立する雄大な嘉津宇岳、その麓からなだらかに西にのびる本部半島<sup>もとぶ</sup>、背後には7万坪余の広大なキャンパスを包み込むような年中松風が騒ぐ丘陵。そういう情緒あふれる佇まいを見せる名桜大学、静謐そのものである。

天地自然の創造主が巧みに織りなす天然の美、特に朝夕は絶景である。「弁ぜん<sup>すて</sup>と欲して已に言を忘る」(陶淵明)の趣がある。

**名桜大学誕生** 1994年(平成6年)4月、学校法人名護総合学園「名桜大学」が開学した。沖

縄県北部の12市町村の輿望をになう「公設民営」の大学である。文字通り、特殊な性格をもつ大学である。国立琉球大学(1950年開学)、私立沖縄キリスト教短期大学(1959年 2008年沖縄キリスト教学院大学となる)、私立沖縄大学(1961年)、私立国際大学(1961年)、私立沖縄女子短期大学(1966年)、私立沖縄国際大学(1972年 沖縄大学と国際大学が統合)、沖縄県立芸術大学(1986年)、私立名桜大学(1994年)、沖縄県立看護大学(1999年)等々20世紀後半になって沖縄に八つの大学が次々と開設された。戦前は専門学校も大学も皆無だった沖縄の教育環境を考えると、隔世の感がするほど高等教育機関の誕生をみたのである。

**逆境を弾き飛ばす精気** 創設以来、中南部の大学に比べ、人口希薄の立地環境ゆえに困難な道





を歩まなければならなかったが、厳しい時の風雪に耐え、今日みる歴史と伝統を築き上げた若い大学として輝かしい存在を誇りようになった。人間の年齢でいえば16歳という思春期まっさかりの大学だが、若者には若者特有の気概があり、自ずから気風がそなわる。大学氷河期の逆境を弾き飛ばすような精気がみなぎっている。気力が澎湃として湧き出るのである。春秋に富む新進気鋭の大学であるのだ。

**大学独自の建学の精神** 　いかなる大学であれ、大学独自の標榜する建学の精神がある。「平和を希求し、自由を尊重し、進歩を標榜する平和・自由・発展」、これが名桜大学の三大精神軸である。それは名桜大学が未来永劫にともす不変の精神の灯火である。平和と自由が保証される所には、無限の発展が約束されるのだ。

2010年4月1日、創立16年目にして名桜大学はかねてより模索してきた「公立大学法人・名桜大学」として性格脱皮した。私立大学より公立大学への移行である。旧大学の建学の精神は不変だが、それに新生大学運営の基本方針として学力・就職力・地域力の養成と促進が加わった。前二者はさておくとして、大学と地域の連係について述べておきたい。

**リベラルアーツこそ人間力涵養の根源** 　もう一つ指摘しなければならないのは、次のことである。名桜大学では、瀬名波榮喜学長が先導者となり、「リベラルアーツの古典の世界に帰れ」という声が高まっている。いわゆる名桜大学型といわれるもので、心を開放し、多角的・複眼的な視点からアプローチし、問題解決にあたることを原理とするリベラルアーツの実践である。

近年、実利的、即物的専門教育が偏重され、専門馬鹿が量産され、人間関係が軽佻浮薄なものとなっている。いわゆる「物は豊かになったが、心が貧しくなった」という社会的風潮を招く結果になっているのだ。そう大学風土を是正する最も有効な手段は古典的教養科目の見直し

である。すなわち、人文科学で人間としての感性を磨き、社会科学で社会人としての応用力をつけ、自然科学では論理的思考を深める。これらが三位一体となるとところに均衡のとれた人間としての深化がはかられ、いわゆる円満な人格が形成される人間力が身につくのである。

公立大学法人名桜大学の在立基盤は、即述のように、沖縄県北部地区の12市町村である。この事実立足すれば、当然地域貢献型の大学でなければならないのだ。そのためには種々の地域対応策を考える必要がある。その一環として「名桜大学図書館」対「地域社会」という構図が描かれなければなるまい。従前のように、象牙の塔的、知識偏重主義的、唯我独尊的発想はおのずから排除されなければならないのだ。

**新生公立大学運営方針** 　公立大学法人名桜大学運営の全てを司る新任理事長として嘉数啓経済学博士が就任した。博士は大学経営のプロで、国立や私立大学の運営に豊富な経験をもつ。理事長は名桜大学運営方針として次の三大目標(3-E)をあげている。

1. 教育力 (Education Power)
2. 就職力 (Employability Power)
3. 地域力 (Empowerment)

どちらも大学運営上必要不可欠な絶対的目標である。

教育力・就職力・地域力の総合力を学生・教職員・地域が一体となって懸命に推進すれば、自ずと「名桜ブランド」は創出される。それが向こう6年間のアクションプログラムだが、その成果を具体的に世に問うことで新生名桜大学の独自性が証明される筈だ。名桜大学の抽象的な近時未来像は前述の如きものだが、(1)(2)についてはいずれ機会をみて論ずるとして、今回は(3)の地域力のみに触れていきたい。大学図書館サイドからみれば、大学と地域との連携ネットワークの構築こそ喫緊の課題であることは論ずるまでもない。

**大学図書館** これまで再々述べてきたように、名桜大学の存立基盤は、私立大学時代も公立大学時代も変わることなく、北部圏在12市町村である。創立当初から地域と密接な関係を持ち、それなりの人材を世に排出し、社会的要請にこたえてきた。大学全体として地域に開放された大学像とか社会像をもつが、その実例の一つとして大学図書館を地域の人々に開放していることが挙げられる。過去10カ月間の入館者の統計上の数字は、学内6597人、学外（一般）1365人である。一般社会人の入館者数は学内者の20.6%である。創立16年目、学生数2000人、蔵書数15万冊の小規模大学だが、一般社会人の図書館利用率20.6%というのは注目すべき大きな数値であるといえよう。ちなみに、看護学科分館だけでも去る10月の学外利用者は149名もいる。

国立、公立、私立を問うことなく、「図書館」という名称には普遍的特性がある。それは、「『図書館』即『頭脳』」という構図をとることである。人智や知識の通時的集積体が図書館である。今様にいえば、「図書・記録やその他の資料・情報を収集・整理・保存して利用に供する施設」（広辞林）である。特に大学図書館にはこの趣が強い。

大学図書館は、周知の如く、大学の心臓部である。動物の体内にある血液循環の原動力となる内臓だが、それを敷衍して大学という有機体にあてはめれば、知的循環の原動力は図書館にあるといえよう。「大学を知るには、その知的中枢たる図書館を見よ」という昔からのいわれがあるが、この見方は時の風雪を越えて色あせることなく現代に伝わる不変の真理である。図書館は大学の存在価値を示すパロメーター的決定的機関である。

名桜大学図書館は沖縄県北部圏最大の知的センターである。北部地区に関する歴史、伝統、文化、政治、経済、産業（工業・農業・商業・漁業・林業）、保健体育、武芸、人物、言語、文学、戦時体験、民俗、自然、地理等々に関する資料や情報を大学内外に提供すべき社会的機

関としての性格をもつ。創立以来あらゆる部門の資料や情報を鋭意収集し、それ相応の成果をえた。公立大学となった今、この作業にはなお一層拍車をかけなければなるまい。

特に、名桜大学図書館の目指すのは、沖縄県在地方公共団体に関する資料を収集し、名桜大学の「郷土資料室」には何でも準備されているという形質共に整った情報源としての絶対性である。

ここで、図書館の種類について寸考してみたい。

設置母体によって図書館を種類分けすれば、国立図書館・公立図書館・私立図書館等があり、利用者対象別には国立図書館・公立図書館・学校図書館・大学図書館・専門図書館・特種図書館等がある。就中、大学図書館においては教育機関であると同時に研究機関でもある大学独自の二つの機能が円滑に発揮されなければなるまい。教育や研究の為の資料や情報が用意されていて、効率のよい便益（サービス）がはからなければならないのだ。わが名桜大学の図書館は、大学図書館と専門図書館（看護学科の分室）の折中的性格を有するものだといえよう。ちなみに、ここで沖縄県内八大学の開学年と蔵書数をみておきたい。

大 学 名	開学年度	蔵書数(千冊)
琉球大学	1950年	944
沖縄キリスト教学院大学	1959年	(92)
沖縄大学	1961年	132
沖縄女子短期大学	1966年	64
沖縄国際大学	1972年	377
沖縄県立芸術大学	1986年	72
名桜大学	1994年	140
沖縄県立看護大学	1999年	46

《蔵書数（ ）は当該大学 HP による。  
 その他は『日本の図書館統計と名簿2008』より》

名桜大学は現在創立16年目で、開学年は県下7番目である。だが、蔵書数3位で、上位を保っている。このことは意外に知られていない。また、先ほど触れたように、大学図書館と専門図書館の折中体的性格を有することもよく認識しておかなければなるまい。

名桜大学図書館の蔵書数（約19万5千冊  
2010年現在）の内訳は次のようになっている。  
但し、定期刊行物・新聞は除く。

- 本館
- (1) 一般・専門図書：約14万5千冊
  - (2) 郷土関係図書：約8千700冊
  - (3) 定期刊行物：395種類  
(外国雑誌102種類)
  - (4) 新聞：31紙（外国紙 13種）
  - (5) 未整理図書：約3万冊  
(湧川文庫約2万冊を含む)
- 看護学科分館
- (1) 専門図書：約5千冊
  - (2) 47種類（外国雑誌2種）
  - (3) 新聞12紙

前述したように、名桜大学の「郷土資料室」の書籍は約8,700冊をかぞえる。目下の所、県内他大学の郷土資料室の当該資料を数量的に凌駕しているとはいえないが、ここ数年来の収集作業には矚目に値するものがあり、予想以上の成果を得ていることは周知の事実である。

**地域との連携** 大学と地域とのつながりを、具体的に促進する方法として、互恵関係を制度として確立することは重要である。いわゆる従来の大学間のインターライブラリーローンシステムを北部圏市町村立図書館に活用することである。特に名桜大学の場合は、その存立基盤が北部在市町村である立場上、当該地域のそれぞれの図書館と大学図書館をインターネットで結び、持ちたる資料・情報を互恵化することである。大学の教職員・学生、社会人相互間の出入りを制度として保障できれば、事実上の大学の地域への開放をということになり、また、一般社会人の側からすれば、大学図書館への共同参画を意味することになる。

現代のコンピュータ技術を駆使すれば、このことは決して難しいことではあるまい。これも、20周年記念事業の一環として推進してしかるべきではあるまいか。名桜大学は2014年に創立20

周年を迎えるが、目下、それに向けての記念事業の在り方を鋭意検討中である。宿願久しい図書館の拡張工事も当然、その中に含まれる。郷土資料の収集作業も、それに向けて本格化する。沖縄県在地方公共団体、企業関係、学校関係、個人・諸団体関係の資料情報、その他等々名桜大学の郷土資料室には何でも揃っているのだという社会的評価につなげていくべく館長・参与・係長・館員一同目下、不断の努力を傾注している次第である。

新生公立大学法人名桜大学の名にし負う豊富な蔵書、特に郷土資料、施設の充実、職員の増員と適切な配置等々大学創立20周年記念に向けて考えなければならない課題は山積みする。

沖縄県北部圏最大の知の拠点、これが名桜大学の描く近未来像である。

### 【大分大学学術情報拠点 (図書館 / 医学図書館)】

#### 1. 講演会を開催

大分大学では、大分県大学図書館協議会で検討している「大分県地域共同リポジトリ (仮称) の構築」の可能性についての理解を深めるため、講演会を平成22年3月11日に開催した。

広島大学図書館学術情報リポジトリ担当の上田大輔氏を講師に迎え、「国内の地域共同リポジトリの現状」を演題として、地域共同リポジトリについて、国内の事例や広島県地区の地域共同リポジトリの取り組み状況や課題を交えながら講演が行われた。

大分県大学図書館協議会関係者が熱心に聞き入り、先行する地域の共同リポジトリの課題等について、参加者から多くの質問が寄せられ、有意義な講演会となった。



#### 2. 協調学習コーナーの設置

学術情報拠点 (図書館) では、平成22年4月より、少人数での授業やグループ学習の利用に供し、多様な授業形態を支援するため、協調学習コーナーを設置した。

このコーナーには、可動式の机と30席の椅子、プロジェクターや大型ディスプレイなどを設置している。教員が授業で利用する場合には、予約利用が可能で、空いている場合には誰でも自由に利用できるようになっている。

前期は97回、延べ2,138人が授業で利用した。後期も既に139回の予約があり、大変好評を得ている。



#### 3. 図書館コンシェルジュをスタート

学術情報拠点 (図書館) では、平成22年6月1日より図書館職員によるコンシェルジュを始めた。前期は毎週月、火、木の15時～17時に2階のブラウジングコーナーに隣接した場所にコンシェルジュデスクを設置して、図書館員1名が図書館の利用案内や大学の案内などにあたっている。

また7月1日からはコンシェルジュ Diary を図書館ホームページに開設して、図書館利用者とやりとりした内容やコンシェルジュを行った職員の感想なども掲載し、利用者サービスの向上を図っている。

#### 4. 情報基盤センターの利用相談窓口の設置

学術情報拠点 (図書館) では、平成22年4月から、図書館と情報基盤センターの運用面の連携の一環として、図書館サービスカウンター内に情報基盤センターの利用案内やパソコン利用等についての相談窓口を設置した。

毎週月曜日の13時～15時に情報基盤センターの職員1名が無線LAN、統合認証システム等に関する利用相談を行っている。



## 【鹿児島大学附属図書館】

### 1. 事務組織改組

7月1日付で下記のとおり事務組織改組を行った。

旧事務組織	新事務組織
情報企画管理課 総務係 情報企画係 情報システム管理係 資料受入係 学術コンテンツ係 桜ヶ丘分館管理係	情報管理課 総務係 資料受入係 学術コンテンツ係
情報サービス課 資料サービス係 情報調査支援係 桜ヶ丘分館情報サービス係 水産学部分館図書係	情報サービス課 資料サービス係 情報調査支援係 桜ヶ丘分館情報サービス係 水産学部分館情報サービス係

### 2. 館内共有サイト立ち上げ

国立情報学研究所 NetCommons プロジェクトが開発しているコンテンツマネジメントシステム (CMS) を試験的に導入していたが、これまで使用していたグループウェアがサポート打ち切りとなったため、本格的な運用に切り替えた。このシステムでは、旧システムから引き継いだ職員間相互の情報共有はもとより、九州地区の国立大学附属図書館間での情報共有の可能性を探るためのシミュレーションを実施している。

### 3. 県歴史資料センター黎明館との貴重書合同企画展

鹿児島大学附属図書館は、鹿児島県歴史資料センター黎明館との共催による合同企画展「薩摩藩『玉里邸』とその文化」を平成22年2月16日から5月9日まで鹿児島市の黎明館で行った。

玉里島津家の旧蔵書である「玉里文庫」を所蔵する附属図書館と「玉里島津家資料」を寄託所蔵している黎明館との合同展として、玉里邸の文物を一同に会し、玉里邸宅の歴史を振り返りながら玉里邸が造営された理由や人々の生活様式等に注目し、その文化的営みや玉里邸の実像に迫る資料の展示と講演会を行った。



写真：展示品を見学する井上佳朗  
鹿児島大学附属図書館長

### 4. 堀田 満名誉教授業績展

#### 「植物をこよなく愛した学者 - 堀田満の軌跡」

7月26日から8月20日まで、中央図書館ギャラリー“アトリウム”において、堀田満名誉教授業績展「植物をこよなく愛した学者 - 堀田満の軌跡」を開催した。

堀田先生は、植物分類学を専門とする鹿児島大学名誉教授で、昨年、南方熊楠賞、南日本文化賞、大同生命地域研究賞を受賞。今回の業績展では、先生の主な研究フィールドであるボルネオ、スマトラ、鹿児島における研究成果をまとめた論文や著書をはじめ、珍しい植物の写真、絵本の原画と自筆スケッチ等が展示されたほか、ビデオ資料の上映が行われた。

教職員、学生をはじめ高校生、一般市民など多くの人が来場した。

附属図書館では、学内で生産された学術成果を展示するこのような企画は、利用者の興味の喚起や学習の動機づけにもなり、今後もリポジトリによる学術情報の提供に加え、学内外に対する情報発信の有力な方法として継続していきたいと考えている。

### 5. オープンキャンパスへの参加

8月5日と6日の両日、上記堀田満名誉教授業績展に加えオープンキャンパス企画として通常非

公開である貴重書を特別展示した。

当館で所蔵する島津家関連の書籍コレクションである玉里文庫（島津久光及び玉里島津家の旧蔵書）の中で、文政五年鹿児島城絵図（ぶんせいごねんかごしまじょうえず）、琉球人行粧之図（りゅうきゅうじんぎょうしょうのず）、三州割拠図（さんしゅうかっきよず）の3点を展示した。

また、授業において使用する教材や情報リテラシーの意義についての解説パネルも併せて展示した。



## 6. 「附属図書館図書リユース市」を開催

9月6日（月）・7日（火）の2日間に渡り、中央図書館ギャラリー“アトリウム”において「附属図書館図書リユース市」を開催した。

重複により不用となった資料（廃棄予定図書）の再利用と新規購入図書の配架スペース確保を目的に昨年から開催されているもので、好評を得たため引き続き今年も行うこととなったものである。

“アトリウム”には各分野（総記、哲学、歴史、

社会科学、自然科学、技術、産業、芸術、言語、文学）の学術図書8,429冊が並べられ、全て1冊100円で販売された。

会場には多くの学生や教職員、一般の方々が来場し、興味のある文献を次々に購入。

中には事前に鹿児島大学のホームページに掲載された「販売リスト」から購入予定図書を決めて来場する方や、一人で100冊以上まとめ買いをする方もおり、2日間で2千冊以上が売却され大盛況に終わった。

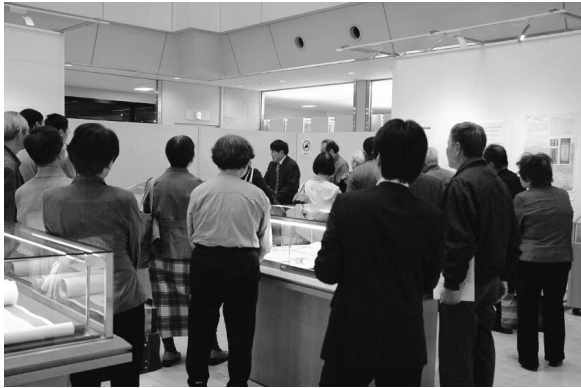
今後も年に1～2回の開催を予定しており、再利用のエコ効果や地域の方々の学習や研究への貢献が少しでもできればと期待している。



## 7. 坊津歴史資料センター<sup>きしん</sup>輝津館との貴重書合同企画展

鹿児島大学附属図書館は、南さつま市との共催による合同企画展「海を駆ける - 東アジア世界の海域交流、その光と陰 薩摩、琉球、明・清 -」を平成22年11月6日から28日まで南さつま市の坊津輝津館で、12月3日から19日まで附属図書館で行った。

「玉里文庫」を所蔵する鹿児島大学附属図書館と、日本三津として海上交流史上に重要な役割を果たした坊津の貴重な資料を収集している輝津館との合同企画展として、島津氏と琉球国や明・清との貿易や交流及び島津氏の琉球王国侵略・支配に関係する書籍、文書、絵図、出土陶磁器等の展示と講演会・シンポジウムを行った。



## 8. 学生モニター活動

学生モニター懇談会を10月から11月にかけて開催し、主に昨年度に整備したグループ学習室、アメニティルームの利用に関する意見交換などを行い、可能なことからサービスの改善を図っている。また、懇談会では、ブックハンティング（選書ツアー）が話題となり、関心が高かったことから、実施に向けた検討を開始することになった。

## 9. ポピンレース展

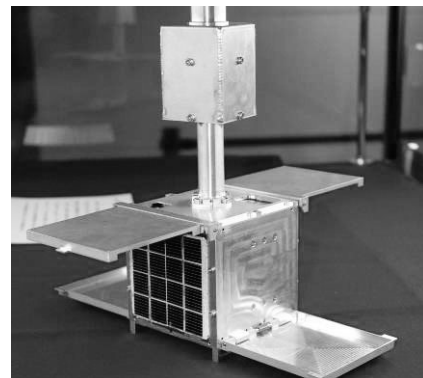
11月6日から12日、中央図書館ギャラリー“アトリウム”において、放送大学鹿児島学習センター、本学総合博物館との共催による展示会を開催した。この展示会は、放送大学の視聴室が7月に本学内に設置されたことを記念するもので、放送大学の

学生である喜平ユカリさんによる奄美大島紬とレースの融合作品、ヨーロッパで作られたアンティークレースなどの展示に加え、吉平さんの指導によるポピンレースの作成体験が行われ、多くの市民でにぎわった。



## 10. 「鹿児島大学 宇宙への挑戦」パネル展

11月16日から30日、ギャラリー“アトリウム”において、本学の宇宙に関する研究成果を社会へ広報することを目的としたパネル展示を実施した。5月に打ち上げられたKSAT（ハヤト）、銀河系の3次元地図の作成、宇宙ステーション（ISS）の実験棟「きぼう」での細胞実験に関する展示を行った。





## 【活水女子大学図書館】

「長崎学さるく-明治の西洋音楽事始め - オルガンの調べ in 活水学院チャペル」で、本学図書館所蔵の明治期の音楽科教科書、讃美歌などの資料展示会を開催

11月7日(日)、活水女子大学東山手キャンパスで、長崎市が主催している「長崎学さるく-明治の西洋音楽事始め - オルガンの調べ in 活水学院チャペル」を開催しました。

プログラムは、大チャペルでのパイプオルガンコンサート 演奏者 椎名雄一郎(活水学院オルガニスト)、小チャペルでの明治期のリードオルガン伴奏による声楽コンサートと講演「明治の西洋音楽事始め - 活水女学校における音楽の始まり」講師 永吉美恵子(音楽学部教授)、及び、讃美歌・音楽関係の資料展示会とキャンパスツアーでした。

講演では、明治初期に活水女学校で使用された



教科書などの紹介、アメリカのL・W・メーソンによる「音楽取調掛」(現東京藝術大学音楽学部)での西洋音楽育成課程と、本学の教科課程が同じ編成であるなどの本学音楽教育の源流、明治の西洋音楽事始めが話されました。関連した資料展示会場で、本学図書館所蔵の『Mason's piano-forte technics.』(メysonピアノ教本 1878年出版)などの明治期の音楽科教科書、1800年代に出版された讃美歌関係洋書、明治期刊行の聖書辞典や讃美歌関係和書などの図書に加え、本学で開催されたオルガンコンサートの歩み(パンフで紹介)、大正6(1917)年の専門部音楽科の英文卒業証書や、東山手大チャペルのパイプオルガン関係の正面図、仕様書などの設計図やパネル写真、20世紀初頭に出版されたUnderwood & Underwood社のステレオ写真『Italy through the stereoscope』とステレオビューワーなどを展示しました。

当日は秋晴れで天候にも恵まれ、長崎市民の方や県外からの方も含め、約70名が参加し長崎学さるくを楽しみました。

西日本図書館学会秋期研究発表会を開催

12月4日(土)、西日本図書館学会長崎支部と活水女子大学図書館司書科目等運営委員会の共催で活水女子大学を会場に、2010年度西日本図書館学会秋期研究発表会を開催しました。

プログラムは、2011年4月に開学する九州大学の新しい大学院「ライブラリーサイエンス専攻」の概要を紹介する特別報告「ライブラリーを科学する」報告者 渡邊由紀子(九州大学附属図書館eリソースサービス室長)の後、以下の7人の研究発表や事例報告がありました。

後藤 宣子「日本歴史学分野の学術論文 - CiNii収録状況の再調査」

鄭 俊如、高橋 昇「公共図書館における電子情報源の提供に関する一検討」

浜口 美由紀「外国人利用者を対象にした日本



に関する情報検索演習」

小田 光宏「レポートライティング技法の育成  
における図書館情報学の知見の活用に関する  
実践的研究」

森 茂樹「WEB 環境を利用した共同編集による  
出版活動とその考察 - 『社史で読む長崎原  
爆』の出版を通して」

山中 秀夫「著作と統一書名：和古書目録にお  
ける著作典拠との関連において」

安光 裕子「有害図書規制の新たな動向とその  
問題の所在」

研究発表会は、九州、山口の図書館学研究者、  
大学・公共・学校図書館関係者を中心に約60名の  
参加があり、質疑応答や活発な意見交換がおこな  
われました。



## 【鹿屋体育大学附属図書館】

### 1. 電子資料の充実

American College of Sports Medicine (ACSM)  
米国スポーツ医学会関連雑誌のオンラインジャー  
ナル3誌を新規に購入したほか、従来の洋雑誌契  
約(図書館分)のほとんどを電子ジャーナル購読に  
変更するなど購入経費見直しを行い日経 BP 記事  
検索サービス(大学版)提供を開始した。

### 2. Library Lovers' Week

九州地区の国立大学図書館が中心になって実施  
された「オススメの1冊」学生コンテストに参加  
した。図書館カウンター付近に、プロスポーツ選  
手等のおすすめ図書など関連情報を掲示し、学生  
に参加を呼び掛けた。

## 【九州工業大学附属図書館】

「平成21年度 CSI 委託事業報告交流会(コンテ  
ンツ系)」ポスターセッションにて投票第1位を  
獲得

九州工業大学では平成21年度に「次世代学術コ  
ンテンツ基盤共同構築事業 学術機関リポジトリ  
構築連携支援事業平成21年度委託事業(領域1)」

### 3. 自動貸出装置、入退館ゲートの更新

自動貸出装置の更新にあわせて、入退館ゲート  
(ブックデテクションシステムも含む)入れ替え、エ  
ントランス付近の図書展示ケース、待合コーナーベ  
ンチの配置を変更するなど、模様替えをおこなった。

### 4. 留学生ガイダンス

平成22年より、全学行事としての新入生向けガ  
イダンスに加え、同様の留学生向けガイダンスに  
おいても、図書館利用に関する説明を行うように  
した。

### 5. 雑誌閲覧コーナー模様替え

新着雑誌棚の入れ替えを行い、各種スポーツ誌  
を学生が利用しやすいよう配置を変更した。

の委託機関に平成20年度に引き続き採択され、学  
術雑誌掲載論文のリポジトリへの登録促進及び紀  
要論文、学位論文の遡及登録等を実施した。その  
成果を報告するため平成22年6月22日に「平成21  
年度 CSI 委託事業報告交流会(コンテンツ系)」  
が開催され、そのプログラムの一つとして70を超え  
る委託機関によるポスターセッションが行われた。

(<http://www.nii.ac.jp/irp/event/2010/debrief/enquete.html#B>)

本学のリポジトリ事業はコツコツ地道に実施していることが唯一の特長である。そこでポスターでは事業内容の説明よりもレイアウトやモチーフを工夫して本学リポジトリをPRすることに重点をおいた。その結果、アンケートでも「インパクトが強いです」「ユニークなデザインで目をひかれました。」という評価を得ることができ、本学ポスターは参加者アンケートにおいて投票第1位を獲得することができた。昨年度に開催された「平成20年度 CSI 委託事業報告交流会（コンテンツ系）」のポスターセッションでも本学ポスターは優秀ポスター賞（投票第1位）を獲得しており、二年連続で高い評価をいただいたことは誠に嬉しい限りである。ポスターセッションでの評価は学外への良いPRになったとともに、学内でも大学HP等で報告し、改めてリポジトリの発展への意識を促す良い材料になった。

また、本学リポジトリは今年7月発表された世

界ランキングでも第449位に位置しており、世界的にも広まっていることが分かる。今後もリポジトリを更に成長させ、研究成果の発信に努めていきたい。

九州工業大学学術機関リポジトリ“Kyutacar（キュイテーカー）”  
<http://ds.lib.kyutech.ac.jp/dspace/>  
平成21年度成果ポスター：

<http://hdl.handle.net/10228/4620>

平成20年度成果ポスター：

<http://hdl.handle.net/10228/2420>



（平成21年度）

（平成20年度）

## 【九州大学】

### 第51回附属図書館貴重文物展示「桑木文庫に眠る星の世界」を開催

5月10日から17日まで、中央図書館において第51回附属図書館貴重文物展示「桑木文庫に眠る星の世界 - 東西の科学資料コレクションより -」を開催し、九州大学工学部教授であった桑木或雄先生が蒐集した天文学に関する資料の中から約50点のほか、北九州市立鞘ヶ谷小学校の協力により、ミニプラネタリウムを展示した。

桑木文庫のなかでも、特に江戸時代の天文学関係の資料は、桑木文庫のコレクションだけでその歴史を一望できるほど網羅されている。「赤道南北恒星図」をはじめ、暦書や西洋から中国を経由して入ってきた天文学書に、来場者は熱心に見入っていた。

15日には、藤原智子氏(九州大学高等教育開発推進センター助教)による講演会「果てしない宇

宙の理解を目指して」を開催し、西洋と東洋の天文学の歴史から現代の最新の天文学まで、美しい画像とともに、壮大なスケールで分かりやすくお話しいただいた。また、同日、展示会場にて、中野多恵氏（九州工業大学理数教育支援センター助教）によるプラネタリウムの解説が行なわれ、講演会終了後には行列ができるほどの盛況となった。

### 学術情報セミナー「図書館・情報サービスとユーザー～学術情報アクセスへの新たなアプローチ～」

6月22日、附属図書館において学術情報セミナー2010「図書館・情報サービスとユーザー～学術情報アクセスへの新たなアプローチ～」を開催した。

第1部「みんなで学ぼう！ディスカバリーサービスって、なに？」では、SerialsSolution社の後東玲子氏による講演「ディスカバリーサービス：Summonで図書館が変わる！」に続き、琉球大学

附属図書館の大谷周平氏による「リンクリゾルバ・統合検索の導入の経緯と現状：琉球大学附属図書館の事例」と題した事例報告、九州大学附属図書館の「ディスカバリ・インターフェースの構築について - 九州大学附属図書館 Cute.Catalog の導入事例 -」の報告が行われ、第2部、第3部では、各出版社、ベンダーより新製品の紹介や既存サービスの活用事例の提案が行われた。参加者は、ディスカバリサービスにおける学術情報へのアプローチ手法やその構築方法、新サービスの具体的な導入プロセスと利用分析等に、高い関心を示していた。

### 「知られざる北の国境「樺太と千島」移動展 IN 福岡」

10月22日から11月4日までの間、中央図書館において、北海道大学スラブ研究センター・九州大学韓国研究センター共催「ボーダー研究シンポジウム」関連展示として、「知られざる北の国境「樺太と千島」移動展 IN 福岡」を開催した。これは、北海道大学グローバルCOEプロジェクト「境界研究の拠点形成」の研究成果を展示したもので、パネル展示とかつて北緯50度線に設置された樺太国境標石の「天第三號」のレプリカ、北海道の根室と国後島をつないでいた海底通信ケーブルを使用したインターホン等を展示した。

北の国境線の歴史を追体験する貴重な資料に、足を止めて展示資料に見入る利用者の姿が多く見られた。

### 芸術工学図書館セミナー「色彩」開催

10月25日、芸術工学図書館において「色彩」に関するセミナーを開催した。

今回のセミナーは、芸術工学図書館3階に透明カラーシートを活用した“TROMIZU” ARTを設置し、そのお披露目を兼ねて行われたもので、セミナーでは「色彩入門」と題した講演や「九州大学伊都キャンパスの色彩計画とアート」に関する報告・紹介が行われた。

### Web 施設予約サービスを開始

22年4月より、web 施設予約サービスを開始した。これはマイアカウント「きゅうと MyLibrary」で図書館のグループ学習室等の空室状況の確認、予約申込を受け付けるもので、携帯電話からも利用できる。

予約状況の確認や申し込みが手軽にできるようになり、施設の利用率が上がっている。

8月からは教職員を対象に、視聴覚ホールや会議室も web で予約できるようになり、事務手続が簡略化された。

### Library Lovers' キャンペーン

今年度の国大図協地区助成事業として、九州地区の国立大学図書館を中心に実施した「Library Lovers' キャンペーン」に参加した。参加館合同の「オススメの1冊」学生コンテストのほか、本学のオリジナル企画として、以下のイベントを実施した。

- ・貸出特典：3回借りてプチ Happy
- ・きゅうとくんを探せ！図書館スタンプラリー
- ・図書館を駆使せよ！～調べ物達人への道～ [クイズ]
- ・豆本づくりワークショップ
- ・図書館職員のお仕事紹介 ～Voice～ [展示]
- ・図書館員の本棚 [展示]
- ・Book Lovers ～資料を長く保存するために～ [展示]

いずれも本や図書館、そして図書館職員も身近に感じてもらうと企画したものである。

期間中（10/29-11/9）は、図書館職員全員でお揃いの特製名札をつけ、全館でキャンペーンを盛





り上げた。各種イベントをきっかけに利用者の声を聞くことができ、職員にとっても学生と親しむキャンペーンとなった。

### 「図書館ガイダンス」の22年度参加者が2000人を突破

「図書館ガイダンス」は、全学教育科目の一つであるコアセミナーの講義時間などを使って新生に図書館活用法を案内するもので、平成18年度から実施している。内容は「図書館の紹介」「図書や雑誌の探し方(実習)」「館内ツアー」を3つの柱として構成している。

22年度は10学部で54回実施、2118名の参加があり、前年度の44回1601名から32%増の参加者数となった。また、今回新たな試みとして「情報の利用倫理(引用作法・著作権尊重)」の説明を追加したところ好評を得た。

今後は、担当教員・学生向けのアンケート(追跡調査)による評価を行い、よりニーズに合ったガイダンスを企画・実施し、全学部・新生全員(約2600名)の受講を目指す。

### 「ライブラリーサイエンス専攻」設置記念シンポジウムを開催

23年4月、九州大学に、「知の創造・継承活動」を支える「場」としての「ライブラリー」を科学し、ユーザーにとって真に意義のある情報の管理・提供を実現する人材を養成する新たな大学院「ライブラリーサイエンス専攻」が誕生する。

12月18日、この専攻設置を記念したシンポジウ

## 【熊本学園大学付属図書館】

### 機関リポジトリワークショップを共催

平成22年度の「国立情報学研究所学術機関リポジトリ構築連携支援事業」による「新 XooNlps の開発/Library モジュールの開発と普及」プロジェクトの活動として、ワークショップを代表機関である慶応義塾大学との共催で、11月5日に本学で開催した。

ム「ライブラリーを科学する」が中央図書館において開催された。新専攻の紹介ののち、国立公文書館長高山正也氏及び筑波大学図書館情報メディア研究科長植松貞夫氏の講演、引き続きパネルディスカッションが行われ、図書館情報学およびアーカイブズ学の現状と未来を再考しつつ、本専攻の意義と取り組むべき課題を展望した。全国各地から160名を超える参加者があり、会場からの質問を交えた活発な議論が行われるなど、新専攻への大きな期待を感じさせるシンポジウムとなった。

### DRF/Share 地域ワークショップ(九州地区)開催

12月22日、デジタルリポジトリ連合(DRF)と共同リポジトリを支援するShareの主催、九州大学附属図書館の共催により、地域の機関リポジトリの普及を推進し、その持続性や活用を考えるワークショップを開催した。

開会の辞として有川節夫九州大学総長が「国内における機関リポジトリ・オープンアクセスに関する動き」としてプレゼンテーションを行いその推進と大学図書館の発展を説いた。

プログラムは機関リポジトリの概要にはじまり、研究者から図書館員まで8名の発表者がそれぞれの取組みや事例・活用術などを講演した。また、国立情報学研究所からは、構築の新たなモデルとして、共用リポジトリのサービス案が紹介された。

丸一日かけて様々な視点から機関リポジトリについて学んだ本ワークショップは、未構築機関・既構築機関がともに情報を共有し、交流ができる場となった。

このワークショップは、九州では別府、長崎につづき今回で3回目となった。講師陣を含め40名の参加となり盛況であった。前半は事例報告、後半は演習として実際にサーバを立ち上げ「これならやれる」という実感を持ってもらえるようなプログラムで、参加者の満足度は高かったようだ。

質疑応答と意見交換でワークショップは幕を閉





じたが、その後の懇親会でも発表者を囲んで熱心なやり取りが続いた。本学としても場所を提供することで大なる勉強の場を得ることが出来た。

#### Library Lovers' キャンペーンに参加

九州地区国立大学図書館協会より、「Library Lovers' Week キャンペーン」の誘いを受け、本学ではオリジナル企画の実施ということでの参加となった。期間は10月27日から11月9日。

#### 実施プログラム

	テーマ展示	ショーケース	シネマ	写真展
テーマ	トコトン広がる熊本の魅力	くまもとの魅力を旅する	映画・ドキュメンタリーで感じる熊本の力	図書館を切り取ろう！あなたのお気に入りの場所はどこですか？
場所	1階新着コーナー	玄関横新聞閲覧コーナー	地下AVホール 新聞閲覧コーナー 1階カウンター前	1階カウンター横展示棚
内容	<p>熊本に関するキーワードを「喜怒哀楽」に分けてマインドマップを作成した。それに沿って資料を収集し、約180冊を展示。うち30冊にはお勧めコメントをつけた。</p> <p>(追加企画) 「みんなで広げる熊本魅力の木」</p> <p>ハート型の紙に熊本のココが好き、こうなってほしいなどを書きこんで木にくくりつけた。はじめは熊本の地図にコメントを書き入れる計画だったが、「木」を利用したことで立体的になり葉っぱを増やす楽しさも加わった。</p>	<p>黒川温泉、阿蘇、人吉SL、熊本城、天草を手作りジオラマで表現した。魅せる資料を厳選し、紹介文とともに熊本の温かさを伝えた。</p>	<p>10日間で27作品を上映。また上映作品に合わせた関連図書を展示した。来場者にはオリジナル付箋をプレゼント。延べ75名が来場。</p> <p>『映像でつづる熊本50年』ほか、常時放映(新聞閲覧コーナーにテレビ設置)</p> <p>映像のみを終日放映した。映像資料を流すだけで、いつもとは違う空間を作り出せた。</p>	<p>24作品の応募があり、作品は写真関連図書とともに展示。応募者全員へ500円の図書カードを贈呈。</p> <p>フォトコンテスト応募形式について</p> <p>応募資格：学内利用者 応募期間：10月1日～10月26日 撮影場所：図書館内 コメント：300字程度</p>

本学のオリジナル企画の目的は、「Home sweet home, KUMAMOTO」をテーマとし、学生（利用者）、スタッフともに熊本の魅力に気づきっか

けとすること。またイベントを通して、熊本の魅力を探り、伝える力をつけるということであった。

## 写真記録

(1) ミーティング風景（みんなが同じ方向を向いて進むためには、話し合いが大事だと改めて感じた）



(2) テーマ展示（おすすめコメントがついている図書から貸出されていった）



(3) ショーケースギャラリー（本の置き方、色の使い方に工夫）



(4) シネマ映画上映会（映画から映画へ、映画から本へ、本から本へ。点を線でつなぐ展示）



(5) フォトコンテスト (好評につき期間を延長して展示)



(6) オリジナルグッズ (ハート型バッジ、付箋、しおりは全てスタッフの手作り)



## 【熊本大学附属図書館】

### 1. 学生図書選書員による図書選書を実施

学生用図書を学生の視点でより充実させることを目的に、平成19年度から実施している選書リストを作成する方式による学生用図書の選書に加えて、今年度は学生選書ツアーを実施した。9月27日に12名の選書員がバスで書店に向いて選書を行った。今回は、自分の専門分野や興味のある本、他の人に読んでもらいたい本など学生の視点で選ばれた図書117冊を購入した。また、選書リスト作成による選書では、留学生1名を含む11名の選書員により選ばれた162冊の図書を購入した。

### 2. 第3回「東光原文学賞」を募集

平成20年度に創設した「東光原文学賞」の第3回募集を行った。本賞は、学生の読書への関心を大いに喚起し、また、創作という能動的な知的活動の機会を提供することを目的に創設したものであり、今年度も本学の学生を対象にジャンルを短編小説として10月29日まで募集を行い、昨年を上

回る25編の応募があった。学内外の審査員による選考委員会で大賞1編及び優秀賞3編を選考し、1月17日に表彰式を行った。

### 3. 貴重資料展・公開講演会・永青文庫セミナーを開催

第27回貴重資料展「若き日の細川幽斎 - 永青文庫蔵・織田信長文書を中心に -」を熊本大学文学部附属永青文庫研究センターとの共催で、10月30日から11月1日まで中央館において開催した。今年度は肥後細川家初代細川幽斎の没後400年にあたり、当館に寄託されている永青文庫資料の中から、幽斎に宛てた信長文書を中心に、秀吉文書、幽斎が書写や収集した歌集・連歌集・源氏物語・故実集など29点を展示した。また、初日には稲葉継陽文学部附属永青文庫研究センター教授による「永青文庫所蔵の信長文書の魅力」と題する公開講演会・永青文庫セミナーを開催した。展示会・講演会とも予想を上回る来場者で盛況であった。





#### 4. ラフカディオ・ハーン来日120年・生誕160年 記念講演会・シンポジウムを開催

ラフカディオ・ハーンの命日に当たる9月26日に、ハーン来日120年・生誕160年を記念した講演会及びシンポジウムを開催した。平川祐弘東京大学名誉教授による「混淆日本文化は是か非か - ハー

ンの周辺文化体験 - 」と題する基調講演と続くシンポジウムでは「ハーンの魅力とその現代性」をテーマに、ハーンの世界に込められた現代へのメッセージについて語られた。約200名の参加者が熱心に耳を傾けた。



### 【佐賀大学附属図書館】

#### 1. 「佐賀大学附属図書館」看板設置

本年9月に永年の懸案事項であった、「佐賀大学附属図書館」の看板を設置した。

看板の文字は、文化教育学部竹之内 裕章教授に揮毫して頂き、それを元に看板を作成した。



#### 2. 読書奨励

##### (1) 学生選書委員会

学生選書委員会による選書ツアー等の活動は、好評のうちに5年目を迎えた。活動内容は概ね前年を踏襲しており、8月と9月に福岡市内と佐賀市内の書店での選書ツアー及び公立図書館の見学を実施した。



後日、学生委員は自分たちが選書ツアーで選んだ本に、バーコードラベルを貼る作業を行った。また、学生委員の手で本の展示や飾り付けをしたことで、利用者の目をひくコーナーとなっている。





【図書館本館の学生選書コーナー】



【図書館医学分館の学生選書コーナー】

一方、図書館1階貸出カウンター前のスペースを利用して、季節的な行事や就職活動などの学生層に合わせたディスプレイと展示資料の定期的な入替えなど、図書館職員によるバックアップもあり、当初の狙いどおり、特設コーナーに足を止め、書籍を手にする学生が昨年以上に増加している。

### 3. イベント

#### (1) 図書館月間講演会

当館では、11月を「図書館月間」として、市民・

学生・教職員を対象とした講演会などを開催している。

今年は「シュガーロードと和菓子の現状」をテーマに講演会と資料を展示した。

11月11日(木)

シュガーロードと和菓子の現状

村岡 由隆 (村岡総本舗 取締役 企画室長)



#### (2) 図書館月間資料展示

11月8日(月)から19日(金)まで、和菓子の材料や、和菓子関係の書籍、和菓子に基づいた写真パネルを展示した。



### 4. 図書館システムの更新

平成22年3月1日、図書館システムの更新を行った。

#### (1) 蔵書検索 (OPAC)

- ・読書ガイドの提供
- ・図書の内容・目次情報、ベストリーダー、利用者の読書傾向、教職員お薦め本・ブックレビュー
- ・図書館配置資料を配置マップで案内

- (2) 図書館ポータル
  - ・読書履歴管理、読書プラン作成、教職員お薦め本・ブックレビュー登録
  - ・学外者にも提供
- (3) 教務ポータル連携
  - ・図書館からのお知らせを教務ポータルに表示
  - ・学生のシラバス参照時に図書館 OPAC へリンク
- (4) シングルサインオン (シボレス認証)
  - ・対応している電子ジャーナル、文献データベースを学外から利用可

## 5. その他

館内施設・設備の見直し

- (1) 本館マルチメディアルーム、グループ学習室、会議室及び医学分館の LL 室の視聴覚機器、プロジェクター等を更新した。  
(平成22年2月から3月)
- (2) 本館・医学分館の照明機器を省エネ型に交

換した。

医学分館の自動貸出返却装置を更新した。  
本館屋上に太陽光発電設備を設置した。  
(平成22年3月)

- (3) 本館開館時間変更と本部学生貸出冊数変更  
学生利用の充実のために平日の開館時間を9時から8時40分に変更した。  
学部学生及び研究生・科目履修生等の貸出冊数を10冊以内2週間以内に変更した。  
(平成22年6月運営委員会承認)
- (4) 医学分館時間変更と学生貸出冊数及び貸出期間変更  
学生利用の充実のために平日の開館時間を9時から8時40分に変更した。  
医学分館を利用される学部学生及び研究生・科目履修生等は、指定図書、視聴覚資料、雑誌を除き貸出冊数を3冊から5冊に変更した。  
指定図書、視聴覚資料の貸出期間を1日から3日に変更した。  
(平成22年7月運営委員会承認)

## 【長崎ウエスレヤン大学附属図書館】

長崎ウエスレヤン大学附属図書館では、低迷する貸出冊数や図書館利用をいかに増やすかについて様々な取り組みを行っている。近年、ラーニング・コモンズという概念が、大学図書館において活発に議論されているが、本学は小規模大学図書館であり、資金的にも人的にもハード面においての取り組みが困難なことから、ソフト面での改善を目指している。

他にも様々な取り組みを行っているが、ここでは、学生による図書館サポーター「ぶっく倶楽部」による読書支援活動について紹介する。

学生との協働による読書促進への取り組み

### ランチタイムリーディング

(Lunch Time Reading 以下 LTR)

この4月から、図書館をサポートする学生サークル「ぶっく倶楽部」のメンバーが「読書リーダー」

となって、昼休み時間に学食で本の感想を語り合う読書会「ランチタイムリーディング」(以下「LTR」)を実施している。

LTR の開催は、月2回程度、学生たちに負担がないようプログラムを組まれている。毎回テーマとなる本を借りて展示したり、資料の作成等、すべて読書リーダーが主体的に行っている。

それぞれの回ごとにテーマを決めて、その作品を事前に読み込んで来る。初回は、図書館司書が担当したが、回を重ねるうちに学生主導となり、人気のある先生に呼びかけたり、また映画化されている原作本などを読み、時間に余裕のある学生はその映画を上映したりして、感想を語り合っている。その都度、何を讀んだかの記録を取り、レポートにしているが、時間も短く簡単な内容になっている。



LTRの様子



読書好きな先生の飛入り参加

このLTRについて、地元のタウン誌「ザ・ながさき」が目し、取材を申し込んできた。下の写真はこの取材時のものである（2010年 N0.662号掲載）。

タウン誌の記者自身も、大学生時代図書館でアルバイトをした経験が有り、この取り組みは大変高い評価が得られた。



記者からのインタビューを受ける学生たち

LTRの参加人数は、1回につき大体10人程度だが、興味をもつ学生が段々に増えてきたようで、学習意欲の高まりへの相乗効果を期待している。最近では、学生に人気の作家を取り上げることもあって、輪の中には入らないが、近くで耳をそばだてている学生も多いと聞く。

この取り組みに、一般の学生をいかに取り込むかが、これからの課題である。

## 【長崎大学附属図書館】

### 1. 「幕末長崎古写真展」を長崎歴史文化博物館と共催で開催

2010年4月10日より6月30日まで、長崎歴史文化博物館との共催で、「幕末長崎古写真展 - 龍馬と彦馬、維新のまなざし -」を同博物館で開催した。当初は5月末日までの開催予定であったが、好評のため1ヶ月間延長した。この「幕末長崎古

写真展」では、坂本龍馬が訪れた当時の長崎の風景や、人物の写真およそ400点を展示公開した。このうち125点が長崎大学附属図書館の所蔵するもので、その中には元は縦横30センチメートル足らずの1枚の写真を縦横約3メートルに拡大したものや、写真から切り出した等身大の人物や風景を立体的に展示したものもあり、臨場感と迫力の



あるものとなった。

NHK 大河ドラマ「龍馬伝」ブームの中で、入場者数は24,048人となった。これに合わせて、古写真をテーマとした講演会を3回開催したが、古写真に関心の高い一般市民が多数参加し、会場は毎回満席となった。

## 2. 「海フェスタながさき」の各イベントに協力し、「グラバー図譜」や古写真を出陳

平成15年から毎年、国内での主要な港湾都市を会場として、「海フェスタ」が開催されている。平成22年度の第8回は長崎を会場として、「海フェスタながさき」が開催された。これに併せ、県内では様々なイベントが開催され、長崎大学附属図書館においても、これらのイベントに積極的な展示協力を行った。

長崎県美術館県民ギャラリーでの「海の総合展」においては、水産学部からの練習船模型や魚類の標本等と共に、附属図書館からグラバー図譜と書籍の展示を行った。開催イベント当日には、秋篠宮様が会場を視察に訪れ、柴多長崎大学附属図書館長に質問されるなど、熱心に見学された。

出島で行われた「龍馬と海と出島」展や長崎市歴史民俗資料館での「長崎の海と船展」においても、附属図書館所蔵の古写真やグラバー図譜が展示され、多くの市民の来場見学があった。

## 3. ライティング指導に関するワークショップを開催

2010年3月5日、大学教育機能開発センターと附属図書館の共催により、全学教育FD・SDワークショップ「ライティングの指導と支援をどう強化するか」を開催した。

これは、大学図書館の新たな学生への学習支援活動として、「書く力」を教員と協力して展開していくことを目的としたものである。学内の教員および図書館職員、教務系職員のほか、学外からも図書館職員の参加があった。

前半では、国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課長 米澤誠氏を講師に迎え、「学

術コンテンツの効果的な利用指導 - 図書館におけるライティング学習支援 -」について、講演があり、その後、レポートや論文作成の際の引用方法の説明についてのグループワークを行った。

後半では、金沢工業大学教授・ライティングセンター長 藤本元啓先生より「ライティング指導の授業づくり・体制づくり - 金沢工業大学における日本語表現教育 -」についての講演があり、それを受けてグループ毎に大学としてライティング指導を行う体制の確立のためのアクションプランの作成を行った。

このワークショップの継続企画として、2010年9月6日には、桜美林大学教授 井下千以子先生を迎え、「ライティングの効果的指導法」と「図書館の教育支援を活用する」というテーマでワークショップを行った。

いずれも、FD・SDワークショップとして開催しており、参加した教員と職員と共同して、学生への学習支援について熱心なグループワークを行った。これからの大学図書館機能の重要な柱として認識されつつある、教員や授業と連携した学習支援活動の在り方を探る機会となった。

## 4. 附属図書館職員によるブログ「ぶらりらいぶらり」が2周年

2010年10月30日に、附属図書館職員によるブログ「ぶらりらいぶらり」が2周年を迎えた。

図書館をもっと身近に感じて欲しい、図書館からのお知らせをもっと楽しくお伝えしたい、という若手職員らの思いから、ブログを立ち上げ継続してきた。

この、ブログ2周年にあわせて、中央図書館の館内展示を紹介するページも作成・公開した。中央図書館の館内展示は、ブログよりも少し早く、2008年7月から2ヶ月に1回のペースで続けている企画で、現在の展示で第15回を迎えた。各回に展示された図書の紹介から、POP画像、展示風景写真、展示期間中に掲示していたポスターまで、館内展示の歴史をまとめたページとしている。紹介した図書は、OPACやブクログへのリンクもあ



り、これまでの館内展示を、ネット上でバーチャルに再現している。

## 【福岡教育大学附属図書館】

### 1. アンケート調査実施

図書館に関わる年度計画「電子ジャーナルを安定的に供給し利用促進を図るため、現状と課題を明らかにする。」を遂行するため、教員及び大学院生を対象に、電子ジャーナル及び文献情報データベースに関するアンケート調査を6月に実施した。調査結果から判断する限り、大学院生が教員よりも電子ジャーナルとデータベースを利用していないことが判明し、現在、その対策を検討している。

### 2. 大学オープンキャンパス協賛

7月31日(土)開催の大学オープンキャンパス行事に合わせ、図書館では図書館ツアーを実施した。ツアー参加者には、AVルームや子ども図書室、書庫など、高校の図書室にはない施設を見学していただいた。また、通常は利用願を出さなければ入室できない保存用教科書等を配架している『戦前戦後教科書室』も見学コースに入れているが、明治や大正時代の教科書や復刻版の墨塗り教科書などに驚き、感動した参加者が多く、「貴重な体験ができてよかった」という感想が寄せられた。



### 3. Jr.サイエンス協賛

10月16日(土) 大学主催イベントの“Jr.サイエ

【長崎大学図書館ブログ：ぶらりらいぶらり】

<http://nulib.blog7.fc2.com/>

【図書展示企画 紹介ページ】

<http://www.lb.nagasaki-u.ac.jp/use/tenji/>

ンス&ものづくり in 教育大”に参加し、子ども図書室やその前のホールにおいて「触って作ろう！絵本の世界（点字絵本づくりと造形素材によるケーキづくり）」をテーマに、対象年齢別に2種類の企画を実施した。

- (1) 点字のイロハを習って、触る絵本を作ってみよう！（対象・・・小学校高学年以上）
- (2) スチロールやお花紙、ビーズ、ポンドなどをつかって、自分のイメージでお話にでてるケーキをつくって遊びましょう！（対象・・・3歳以上）

点字絵本の作成については、開催を本学ホームページで知ったという高校生や、小学校で点字を習ったので是非参加してみたかったという小学生のグループが熱心に製作を行っていた。

また、ケーキ作りについては、題材や素材を替えて今年3年目のプログラムであるが、開始前から子ども図書室前に行列ができるという盛況ぶりだった。絵本の読み聞かせの後、小さな子どもたちから保護者までも熱心に思い思いのケーキ作りを行い、きれいにラッピングして持ち帰っていた。参加者からは、「来年も必ず来たいです。」という感想が寄せられ、家庭とは異なる絵本の楽しみ方を満喫していったようである。



## 【宮崎大学附属図書館】

### 1. 宮崎県遺跡資料リポジトリ公開記念特別展・講演会の開催

宮崎県遺跡資料リポジトリの一般公開を記念して特別展及び講演会を開催した。

学園都市建設に伴い宮崎県教育委員会により行われた発掘調査で大学建設予定地から4つの遺跡が発掘された。特別展ではその出土品等を展示し一般公開した。

また、当時遺跡の発掘に携わった宮崎県立西都原考古博物館主幹の北郷氏による講演会を開催した。



### 2. 宮崎大学附属図書館とネパール国立トリブバン大学中央図書館の友好交流展の開催

日本ネパール協会宮崎支部と連携し図書館1階フロアで宮崎大学とネパールの友好展示を開催した。また、本学工学部研究員でネパール出身のダカール氏による講演会を開催した。



### 3. 本館における館内飲食禁止の一部緩和の実施

館内は飲食禁止となっているが、利用者からの要望もあり、1年間の試行を経て平成22年8月から本館1階自由閲覧室でのペットボトル飲料等密閉できる容器に入ったものについて、持込・摂取を認めることになった。

### 4. 国際協力写真展の開催

宮崎大学医学部国際保健医療研究会 Global Gallery の学生が途上国でのボランティア活動を通して学んできた成果の写真展を開催した。

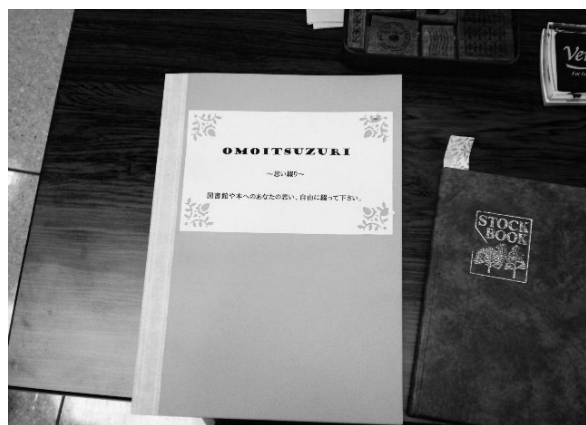


### 5. 本館の開館時間の拡大

学生からの要望により、本館の開館時間を平日8:40からに拡大し、平成22年10月から実施した。

## 6. Library Lovers' キャンペーン宮崎大学オリジナル企画「しおり工房」「思い綴り」実施

Library Lovers' キャンペーンにおいて、オリジナル企画として「しおり工房」と「思い綴り」を実施した。「しおり工房」は本のカバーや帯のデ



## 【琉球大学附属図書館】

### EU 資料展

例年5月に、駐日欧州委員会代表部が主催する日本と欧州連合の友好週間イベント「日・EU フレンドシップウィーク」の一環として、欧州連合(EU)に関する理解を深めることを目的に「EU 資料展」を開催しています。

今年は6月7日(月)から6月20日(日)までの2週間、附属図書館2階情報ラウンジにおいて「EU 資料展 ドイツ～日独交流150周年～」を開催しました。

EUの紹介とともに、EU原加盟国の一つであり、2010年に日独交流150周年を迎えるドイツ連邦共和国を紹介するパネルやドイツのDVDやお

ザインを利用したしおりを利用者が作るもので、熱心に作成する姿がみられた。「思い綴り」は図書館や本について利用者の思いを寄せてもらうもので特設コーナーにあるノートに記入してもらう企画である。

## 7. 図書館長と学生との懇談会の開催

学生(院生含む)が図書館についてどの様に考えているのか、図書館への要望事項は何かなど、図書館長(図書館)との意見交換を行い、今後の図書館運営に反映することを目的に懇談会を開催した。

学生・院生15名の参加があり、ラーニングコモンズやパスファインダーの事例報告、前回の要望等に対する対応状況報告の後、活発に意見交換を行った。

## 8. 廃棄図書学生の配布

平成22年11月20日～21日に大学開放事業が実施され、図書館の開放を行った。廃棄図書については、他大学等に照会后譲渡し、残りを廃棄しているが、昨年に引き続き、残ったものを学生・教職員・一般市民等の希望者へ無償配布した。

もちゃなどを展示しました。また、EUの広報資料やドイツの観光資料を配布しました。

併せて、6月11日(金)に、駐日欧州連合代表







部代理大使 Stefan Huber 氏による講演会 “European Union Integration: Inspiration for East Asia?” 「欧州統合：東アジアへの示唆となるか？」を附属図書館 1 階多目的ホールにて行いました。

### 企画展

平成20年5月より、本館ロビー正面に「企画展コーナー」を設置しています。このコーナーでは、約2か月毎にテーマを変えて、利用者のみみなさまへオススメする本等を紹介しています。

#### 【平成22年度実施企画展】

4～5月「大学生活を満喫しよう！」

6～7月「始めよう！エコライフ！！」

8～10月「作家の世界へ飛び込もう！」

びぶりお文学賞募集」

11～1月「琉球列島の生物の多様性とその保全」



### 琉大出身作家展

琉球大学の卒業生には、又吉栄喜、目取間俊ら2名の芥川賞作家を始めとして文学界で活躍している人が多数います。これらの卒業生を紹介する

ため、作家の一覧や新聞記事の他、実際の作品も展示し、企画展「琉大出身作家展」を7月1日から10月31日の期間、琉球大学附属図書館 2 階情報ラウンジにて開催しました。



### ワークショップ「文芸作品を声で読む」

琉球大学附属図書館では、10月14日ワークショップ『「文芸作品を声で読む」 Reading in Voice のすすめ』を開催しました。

講師に、詩人であり小説・戯曲などで県内外の文学賞を受賞している琉球大学教育学部准教授の大城貞俊氏をお迎えし、「思考と表現」～そんなわけで詩を書いた、『椎の川』を書いた～とする演題で、約一時間半ワークショップ形式の朗読会を実施しました。

前半は、1960年代本学で学んだ大城氏の詩作の時代背景、心情、また創作の裏側に隠された家族体験や表者の自戒などについての講演を交えながらの朗読が行われ、後半は参加した学生が詩を群読する形で進められ、声を重ねて読む表現効果を味わいました。







# 図書館活動報告

## 福岡県・佐賀県大学図書館協議会

### 【平成22年度総会】

日 時：平成22年 5月28日（金）

場 所：北九州市立大学 1号館302号室

当番館：北九州市立大学 学術情報総合センター

出席者：35館47名

#### 協議事項

- (1) 平成21年度決算報告および監査報告
- (2) 平成22年度事業計画および予算案
- (3) 次期理事館および監事館の選出  
理事館 福岡国際大学・福岡女子短期大学図書館  
監事館 第一薬科大学図書館
- (4) 福岡県図書館協会理事の選出
- (5) 利用促進への取り組みについて

#### 地区研究会報告

- (1) 北部地区  
九州歯科大学附属図書館  
学務部長 川原 利三 氏
- (2) 福岡地区  
福岡教育大学附属図書館  
図書館課専門員兼図書館資料係長  
石田 直子 氏
- (3) 南部地区  
佐賀大学附属図書館  
情報図書館課係長 松尾 泰和 氏

#### 承合事項

- (1) 夜間開館の実施状況について

#### 講 演

- 演題 裁判員制度について  
講師 北九州市立文学館館長・作家  
佐木 隆三氏

## 福岡県・佐賀県大学図書館協議会北部地区研究会

### 【平成22年度 第1回研究会】

日 時：平成22年 7月6日(火) 13時30分～15時30分

会 場：九州工業大学附属図書館 4階 AVホール

出席者：13館17名

#### 議 事

- (1) 平成21年度決算報告及び監査報告
- (2) 平成22年度予算(案)
- (3) 平成22年度目録講習会の実施について
- (4) 承合事項  
1) パソコン利用のサポート体制について
- (5) その他
- (6) 講 演  
「増える情報資源とその活用  
～環境整備とディスカバリー」  
ユサコ株式会社 システム販売事業部 平野 覚

### 【第2回研究会】

日 時：平成22年12月13日(月) 13時30分～15時45分

会 場：北九州工業高等専門学校 管理棟 2階 会議室

出席者：14館 (18名)

#### 議 事

- (1) 平成22年度表彰者について
- (2) 報告事項  
「平成22年度目録講習会」について報告
- (3) 協議事項  
1) 平成23年度以降の目録講習会の開催・運営方法について  
2) 協議会の開催曜日について
- (4) 承合事項  
1) 複数図書館がある場合の連携及び対応について

- 2) 図書館としての電子書籍への取り組みについて
- 3) 機関リポジトリの導入に向けて検討されている図書館があれば教えてください。
- (5) その他
- 1) 平成23年度当番館確認

- 2) 平成24年度当番館選出
- (6) 講演  
「理工系学生に対する図書館活用法  
- 事例紹介と課題」  
北九州工業高等専門学校・准教授 位田絵美

## 平成22年度 福岡県・佐賀県大学図書館協議会 福岡地区研究会記録

日時 平成22年11月17日(水) 13:30~16:10  
(受付開始 13:00)

会場 福岡大学 文系センター棟15階 第7会議室

出席者 14館30名

研究会 福岡国際大学・福岡女子短期大学図書館

担当館 第一薬科大学図書館  
福岡大学図書館

・報告者：福岡大学図書館 事務部長  
石田 積 氏

### 1. 研究会開会 (13:30~13:45)

- ・当番館長挨拶
- ・福岡大学図書館長 平兮 元章 氏

### 2. 講演 (13:45~14:50)

- ・演題：「図書館利用者が考える図書館への希望と期待」について。
- ・講演者：福岡大学総合情報処理センター  
中國 真教 氏。

### 3. 休憩 (14:50~15:10)

### 4. 事例報告 (15:10~15:25)

- ・内容：「福岡大学図書館理学部分室の入退館システムについて」

### 5. 承合事項 (15:25~16:05)

- (1) 電子ジャーナル・データベースの契約数(タイトル数)、契約金について  
提案館：福岡女子大学附属図書館
  - (2) 電子資料(電子メディアで提供される資料)の購入について  
提案館：福岡大学図書館
  - (3) 蔵書点検について  
提案館：福岡国際大学・福岡女子短期大学図書館
- 以上3件について、各館より提案理由および回答に対してお礼が述べられた。

### 6. 平成23年度 福岡地区研究会当番館の紹介

- (16:05~16:10)
- ・次期当番館として、福岡工業大学附属図書館、九州大学附属図書館が紹介され、当番館を代表して福岡工業大学附属図書館から挨拶があった。

### 7. 閉会 (16:10)

閉会后、見学希望者を理学部分室へ案内した。

## 福岡県・佐賀県大学図書館協議会南部地区研究会

### 【平成21年度 第1回研究会】

日時：平成21年9月24日(木) 13時30分~16時15分

会場：佐賀女子短期大学 1号館第一会議室

出席者：11館15名

当番館：佐賀女子短期大学図書館



内 容：

研究テーマ

1. 利用者教育について（オリエンテーションを含む）

事例報告：聖マリア学院大学図書館

西九州大学短期大学部附属図書館

協議事項

1. 大学や高専に貢献できる図書館とは

承合事項

1. 絵本の装備について

その他

1. 次回当番館の確認

【平成21年度 第2回研究会・総会】

日 時：平成22年2月12日(金) 13時30分～16時30分

会 場：佐賀大学附属図書館4階会議室

出席者：12館19名

当番館：佐賀大学附属図書館

内 容：

研究テーマ

1. 延滞防止対策について

協議事項

1. 協議事項

図書館利用者サービスの具体的方法について

図書館のホームページについて

2. 平成22年度研究テーマについて

図書館の利用促進について

レファレンス・サービスのスキルアップについて

3. 研究会当番館ローテーションについて

承合事項

1. 寄贈図書の評価額について

2. 返却ポストの設置について

3. 図書館備え付けの図書を事務で選書する予算の有無等について

4. 蔵書点検のあり方について

5. 図書館ホームページへのアクセス数の統計について

講 演

演題：ホガースの絵を通して見た18世紀ロンドンの光と影

講師：佐賀大学附属図書館長 相澤 照明 氏  
(文化教育学部教授)

その他

1. 平成21年度南部地区研究会のまとめについて

総 会

1. 平成21年度決算について

2. 平成22年度予算(案)について

3. 平成22年度幹事館及び当番館の選出について

## 長崎県大学図書館協議会

### 1. 平成22年度総会

期 日：平成22年6月9日(水) 13:00～15:30

場 所：長崎ウエスレヤン大学

出席者：12館21名(他に長崎県公共図書館等協議会より2名列席)

議 題：

- (1) 平成21年度事業報告について
- (2) 県内大学リポジトリについて
- (3) 平成21年度決算・監査報告について

- (4) 平成22年度事業計画(案)について

- (5) 平成22年度予算(案)について

- (6) 平成23年度総会会場館について

- (7) 平成22～23年度役員館の改選について

- (8) その他

報告事項：

- (1) 平成21～22年度研修企画委員について

- (2) 各館の当面する諸問題について

- (3) その他

## 2. 研修事業 (平成22年1月～12月)

- (1) 機関リポジトリ研修会 (共催：主催は長崎国際大学、DRF ShaRe 後援)

日 時：平成22年2月19日(金) 13:30～16:30

会 場：長崎国際大学

内 容：「機関リポジトリとは？」

- その概説と必要性 - 」

講師：武内八重子氏(千葉大学)

「構築事例紹介 - 投稿から本文データ公開までの流れなど - 」

講師：吉松直美氏(九州大学)

「取組事例紹介 - 研究者の立場から - 」

講師：馬場謙介氏(九州大学)

「長崎県立大学の事例紹介」

講師：永尾仁美氏(長崎県立大学)

「長崎国際大学の試み」

講師：飯島芳典氏(長崎国際大学)

参加者：70数名

- (2) 公共図書館等協議会との合同研修講演会

テーマ：広報紙のつくり方

日 時：平成22年9月27日(月) 10:00～16:00

場 所：長崎県立長崎図書館

内 容：「広報誌編集のポイント、公共図書館の館報を実例にした講演と実習等」

講師：金田英資氏(長崎新聞社)

参加者：82名(大学13名, 公共等69名)

- (3) 実務研修会

テーマ：資料の保存・修復及び博物館の施設・設備

日 時：平成22年10月14日(木) 13:30～17:00

会 場：長崎歴史文化博物館

内 容：「資料の保存・修復」

講師：富川敦子氏

(長崎歴史文化博物館)

「博物館の施設・設備」

講師：加藤謙一氏

(長崎歴史文化博物館)

参加者：11名

- (4) 実務研修会

テーマ：学術機関リポジトリ

日 時：平成22年11月18日(木) 14:00～16:30

会 場：長崎大学附属図書館

内 容：「コンテンツの収集と著作権の処理について」

講師：澤村俊祐氏(長崎大学)

「リポジトリ公開までとその後」

講師：狩野元子氏(長崎県立大学)

「小規模大学におけるオープンソースを利用した機関リポジトリの構築について - XooNIPS-Library モジュール Windows 版による構築事例の開発方針と課題 - 」

講師：森茂樹氏(活水女子大学)

参加者：19名

## 熊本県大学図書館協議会

### 1. 平成22年度熊本県大学図書館協議会総会

日 時：平成22年6月11日(金) 16:00～17:10

会 場：熊本県立大学第2大学会館2階 会議室

出席者：11館22名

議 事：

- (1) 平成21年度総会議事録の確認
- (2) 平成21年度事業報告について
- (3) 平成21年度収支決算及び監査報告について
- (4) 加盟館名称等の変更について

- (5) 平成22年度事業計画(案)及び予算(案)について

- (6) 次年度世話館について

- (7) その他(連絡事項、照会事項)

### 2. 平成22年度大学等図書館職員研修会

セミナー(講演会)

日 時：平成22年9月29日(水) 10:00～11:20

会 場：熊本県立大学外国語教育センター1F

111教室  
テーマ：「熊本大学学術リポジトリの運用について」  
講師：熊本大学学術情報部図書課  
係長 濱崎 千雅 氏  
係長 新野 靖 氏  
参加者：10館33名

実務者研修会（グループディスカッション  
「語り合おう “図書館の明日”」）  
日時：平成22年9月29日(水) 12：10～15：00  
会場：熊本県立大学外国語教育センター 1F  
111教室  
参加者：10館27名

## 大分県大学図書館協議会

### 1. 平成22年度総会

日時：平成22年9月30日(木) 16：10～16：40  
会場：大分県立芸術文化短期大学 人文棟 2階  
会議室  
出席者：14名

#### 協議事項

- (1) 平成21年度事業報告及び決算報告、監査報告について
- (2) 平成22年度事業計画及び予算(案)について
- (3) 「大分県大学図書館協議会に関する申し合わせ」の改正について
- (4) 「大分県大学図書館間相互利用実施要項・別表」の一部改正について
- (5) 平成23年度役員館及び当番館について
- (6) その他  
大分県地域共同リポジトリ(仮称)の構築について(報告)

### 2. 講演会

日時：平成22年9月30日(木) 15：10～16：10  
会場：大分県立芸術文化短期大学 人文棟 2階  
会議室  
講師：<sup>おぎの</sup>荻野 <sup>はじめ</sup>哉氏(大分県立芸術文化短期大学講師)

演題：「ムセイオンからミュージアムへ - アレクサンドリア図書館をめぐる」

参加者：14名

主催：大分県立芸術文化短期大学附属図書館

### 3. 研修会

日時：平成22年3月11日(木) 13：30～16：00  
場所：大分大学事務局棟3階 第2会議室  
演題：「国内における地域共同リポジトリの現状」  
講師：上田大輔氏 広島大学図書館 図書学術情報企画グループ  
学術情報リポジトリ主担当

参加者：18名

## 宮崎県大学図書館協議会 活動報告

### 1. 平成22年度宮崎県大学図書館協議会総会

日時：平成22年8月30日(月) 14：30～16：20  
会場：都城工業高等専門学校専攻科棟2階  
多目的室  
出席者：加盟7大学、1高専及び宮崎県立図書館  
(オブザーバー館)  
計20名

#### 議事：

- (1) 平成21年度決算報告及び監査報告
- (2) 平成22年度事業計画及び収支予算
- (3) 協議事項

聖心ウルスラ学園短期大学図書館の協議会退会について  
「共同リポジトリ」の構築について



各図書館の特色は何ですか？

(4) 承合事項

「宮崎県大学図書館協議会と宮崎県公共図書館連絡協議会における図書館資料の現物貸借要領」にもとづく実績について

雑誌の利用状況の把握と電子ジャーナルへの移行について

卒業論文について

学外利用者への図書館サービス及び利用者カードの作成について

一般への大学図書館利用の規定について

図書館活性化のための取り組みについて



講師等：

第一部：クラウドコンピューティングについて  
～富士通株式会社

サービスビジネス本部  
古野 真紀子 氏

第二部：リポジトリ製品紹介～富士通株式会社  
文教ソリューション事業本部

犬束 英輔 氏

## 2. 平成22年度宮崎県大学図書館職員等研修会

日 時：平成22年11月25日(木) 13：00～15：10

会 場：宮崎大学附属図書館視聴覚室

テーマ：「クラウドが拓く～新たな業務処理形態」

参加者：21名

## 鹿児島県大学図書館協議会

### 1. 第31回鹿児島県大学図書館協議会総会

日 時：平成22年5月28日(金) 15：00～17：00

会 場：鹿児島純心女子大学 会議室

出席者：11館23名

議 事：

- (1) 平成21年度会務報告
- (2) 平成21年度決算報告及び監査報告
- (3) 平成22年度事業計画
- (4) 平成22年度予算審議
- (5) 情報交換
  - ・地域共同リポジトリの構築について
  - ・横断検索システムについて県立図書館から状況報告

### 2. 平成22年度鹿児島県大学図書館協議会研修会

日 時：平成22年11月5日(金) 10：30～12：00

会 場：鹿児島大学中央図書館5階

ライブラリーホール

テーマ：「各図書館サービス」

- ・パスファインダー作成実践  
鹿児島国際大学附属図書館
- ・1年生対象の利用者ガイダンス  
鹿児島大学附属図書館
- ・機関リポジトリと参考調査事例  
鹿屋体育大学附属図書館

参加者：14名

### 3. 平成22年度鹿児島県大学図書館協議会講演会

日 時：平成22年11月5日(金) 13：30～15：30

会 場：鹿児島大学中央図書館5階  
ライブラリーホール

演 題：「大学図書館経営のゆくえ」

講 師：牛崎進氏（立教大学）

参加者：13名

## 沖縄県大学図書館協議会

### 1. 平成22年度 (第38回) 総会

日 時：平成22年 8月12日(木) 14：30～15：20

会 場：名城大学総合研究所研修室

出席者：33名

議 題：平成21年度事業報告について

平成21年度決算報告および監査報告について

平成22年度事業計画 (案) および予算 (案) について

沖縄県立看護大学の加盟について

沖縄県大学図書館協議会のホームページについて

平成23年度の当番館及び平成22年度の監査館の選出

地域学リポジトリについて

講 師：高宮城 繁 (名城大学附属図書館長)

評釈者：新里 勝彦 (沖縄国際大学名誉教授・元図書館長・松林流範士九段)

出席者：37名

### (3) 後援研修会

日 時：平成22年10月 8日(金) 14：30～17：10

会 場：琉球大学50周年記念館 多目的室

テーマ：「共同リポジトリの現状と今後  
～沖縄地域学リポジトリ正式公開を迎えて～」

講 演

#### 1. 「共同リポジトリ概論」

尾崎 文代 氏 (広島大学図書館企画調整 (兼) 学術情報リポジトリ主担当)

#### 2. 「福井県地域共同リポジトリについて」

久保 智靖 氏 (福井大学学務部学術情報課企画管理係)

#### 3. 「遺跡資料リポジトリの今とこれから」

吉光 紀行 氏 (山口大学図書館情報環境部学術情報課)

報 告

#### 1. 「沖縄地域学リポジトリの概要及び参加について」

琉球大学附属図書館 情報サービス企画係

実 演

#### 1. 「沖縄地域学リポジトリへの登録」

琉球大学附属図書館 情報サービス企画係

出席者：27名

主 催：琉球大学附属図書館 広島大学図書館  
ShaRe2

### 2. 講演会・研修会

#### (1) 共催セミナー

日 時：平成22年 1月29日(金) 14：30～17：00

会 場：琉球大学附属図書館 1階多目的ホール

テーマ：著作権処理に関するセミナー

講 師：尾崎 史郎氏 (放送大学 ICT 活用・遠隔教育センター教授)

出席者：56名

主 催：琉球大学附属図書館

#### (2) 講演会

日 時：平成22年 8月12日(木) 15：35～16：45

会 場：名城大学総合研究所研修室

テーマ：「文武両道の思想の系譜 - 神武不殺：  
沖縄空手道の歴史的な性格 - 」

## 平成22年度 第40回九州地区国立大学図書館協会総会

日 時：平成22年 4月22日(木) 13：30～17：00

会 場：福岡ガーデンパレス 3階 「宝満」

出席者：11館35名

協議事項

1) 今後の電子ジャーナル購読について

2) 九州地区国立大学附属図書館の情報共有サイ

- |                                 |                              |                                   |                               |
|---------------------------------|------------------------------|-----------------------------------|-------------------------------|
| トの構築と今後の展開について                  | 九州地区国立大学附属図書館の情報共有サイトの運用について | 九州地区国立大学附属図書館共用のひな形(テンプレート)作成について | 6) 国立大学図書館協会の運営等について          |
| 3) 国立大学図書館職員の採用について             | 実施体制について                     | 試験問題作成にかかる経費負担について                | 第57回総会のワークショップで取り扱うテーマについて    |
| 4) 九州地区国立大学図書館協会の代表館・副代表館選出について | 代表館・副代表館の選出について              | その他                               | 7) 九州地区大学図書館協議会等の運営について       |
| 5) 国立大学図書館協会地区助成事業の申請について       | その他                          |                                   | 平成22年度九州地区大学図書館協議会の役員館の選出について |
|                                 |                              |                                   | 平成23年度九州地区国立大学図書館協会総会の当番館について |
|                                 |                              |                                   | その他                           |
|                                 |                              |                                   | 8) その他                        |
|                                 |                              |                                   | 承合事項                          |
|                                 |                              |                                   | ラーニングコモンズについて                 |

### 平成22年度九州地区国立大学附属図書館館長懇談会

日 時：平成22年11月29日(月) 13：15～14：45  
 会 場：九州大学附属図書館会議室（新館4階）  
 出席者：10大学 11名  
 懇談会

- ・テーマ
1. 図書館が直面している課題について
  2. その他

### 平成22年度九州地区国立大学附属図書館事務（部・課）長会議

日 時：平成22年11月29日(月) 13：15～14：45  
 会 場：九州大学附属図書館視聴覚ホール  
 （新館4階）  
 出席者：11大学 20名  
 議 事  
 ・報 告  
 1. 国立大学図書館協会理事会報告  
 2. 九州地区国立大学附属図書館の情報共有サ

- イトの設置について
3. その他
- ・協議題
1. 平成23年度九州地区国立大学法人等職員採用合同図書系二次専門試験について
  2. 図書館職員の育成について
  3. その他

### 平成22年度九州地区国立大学附属図書館館長・事務（部・課長）会議

日 時：平成22年11月29日(月) 15：00～17：15  
 会 場：九州大学附属図書館視聴覚ホール  
 （新館4階）  
 出席者：11大学 31名

- 議 事
- ・報 告
1. 館長懇談会報告
  2. 事務（部・課）長会議報告
  3. 国立大学図書館協会理事会報告



4. 国立大学図書館協会地区助成事業について
  5. その他
- ・協議題
1. 総会、マネジメント・セミナー及び館長フォー

- ラムの在り方について
2. 図書館運営費確保への取り組みについて
  3. その他

## 平成22年度九州地区国立大学図書館協会 実務者連絡会議

- 日 時：平成22年12月2日（木）、3日（金）
- 場 所：九州工業大学附属図書館4階 AV ホール
- 出席者：11館13名
- 議 事
- ・協議事項
- (1) 大学図書館はどこまで業務委託が可能か。
- ・承合事項
- (1) 開館時間調査について
  - (2) 各大学の業務委託の状況等について
  - (3) 学生用図書の体系的な整備について、各大

- 学の取り組みについて
- (4) CD-ROM 形態の逐次刊行物等の整理について
  - (5) 指定図書制度について
  - (6) 学生用雑誌（ブラウジング）の見直し方法について
  - (7) 資料のクリーニングについて
  - (8) 学術機関リポジトリについて
  - (9) 電子書籍の取り扱いについて
- ・施設見学

## 私立大学図書館協会 西地区部会 2010（平成22）年度 第1回九州地区協議会

- 開催日時：2010（平成22）年4月22日（木）
- 14：30～17：00
- 会 場：福岡ガーデンパレス 1階
- ガーデンホールA C
- 出席者：46館83名

### I. 報告事項

- (1) 九州地区協議会関係
- (2) 九州地区大学図書館協議会関係
- (3) 西地区部会関係
- (4) 私立大学図書館協会関係

### II. 協議事項

- (1) 九州地区協議会関係  
地区部会研究会の本会からの研究発表者発掘について  
別府大学附属図書館長  
石井 保廣 氏  
九州地区協議会研究会について  
2010年8月27日（金）に志學館大学で開催予定

- (2) 九州地区大学図書館協議会関係  
平成22年度九州地区大学図書館協議会の役員校について  
・表彰委員館 鹿児島純心女子大学  
・編集委員館 活水女子大学

### III. 承合事項

- (1) 「障害者の方への、新入生オリエンテーション及び利用教育等について」（西九州大学）
- (2) 「学外者の複写利用について」（熊本保健科学大学）

### IV. 確認事項

- (1) 九州地区協議会 HP 及び ML の運用について
- (2) 外国新聞分担保存について
- (3) 九州地区協議会役員校等ローテーション表（2010年度版）及び同表解説
- (4) 九州地区協議会年度別幹事校
- (5) 本会関係行事・会議等スケジュール

## V. その他

## 等の紹介

(1) 2010(平成22)年度の当番校・幹事校・役員校

### 私立大学図書館協会 西地区部会 九州地区協議会 2010(平成22)年度第1回定例幹事会

- |                           |                        |
|---------------------------|------------------------|
| 1. 期 日：2010(平成22)年6月4日(金) | 2) 本会の未加盟館への入会勧誘について   |
| 2. 会 場：志學館大学図書館演習室        | ・ 確認事項                 |
| 3. 当番館：志學館大学              | 1) 九州地区協議会年度別幹事校について   |
| 4. 参加者：6館14名              | ・ 報告事項                 |
| 5. 内 容：                   | 1) 協会賞の申請内容及び選考の経緯について |
| ・ 協議事項                    | 2) その他                 |
| 1) 2010年度九州地区研究会開催(案)について |                        |

### 私立大学図書館協会 西地区部会 九州地区協議会 2010年度九州地区協議会九州地区研究会

- |   |                              |
|---|------------------------------|
| 1. 期 日：2010(平成22)年8月27日(金)                    | 西南学院大学図書館                    |
| 10:00～16:30                                   | 相田 芙美子 氏                     |
| 2. 会 場：志學館大学図書館5303教室                         | (3) 事例発表 「滞在率向上を目指して」        |
| 3. 幹事校：志學館大学図書館                               | 長崎総合科学大学附属図書館                |
| 4. テーマ：滞在型図書館サービスを考える                         | 吉田 政則 氏                      |
| 5. 参加者：24館40名                                 | (4) 研究発表 「滞在型図書館指向に関する学生の意識」 |
| 6. 内 容：                                       | 九州看護福祉大学附属図書館                |
| (1) 講演 「滞在型図書館の実践と理論」                         | 佐藤 林正 氏、福本 直子 氏              |
| 講師 鹿児島女子短期大学                                  | (5) 事例発表 「学生をひきつける図書館づくり     |
| 川戸 理恵子 氏                                      | - キャンパス移転を機に -」              |
| (2) 研究発表 「図書館からできる学習支援 - ラーニングcommonsを例として -」 | 志學館大学図書館                     |
|   | 木佐木 和代 氏                     |

### 私立大学図書館協会 西地区部会 九州地区協議会 2010年度九州地区研究会準備委員会

- |                                       |                                       |
|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 期 日：2010(平成22)年10月29日(金)           | 5. 内 容：                               |
| 2. 会 場：九州女子大学・九州女子短期大学附属<br>図書館 3階会議室 | (1) 協議事項                              |
| 3. 当番館：九州女子大学・九州女子短期大学                | 1) 2010年度九州地区研究会について                  |
| 4. 参加者：7館12名                          | 2) 2011年度九州地区研究会について                  |
|                                       | メインテーマ：「大学図書館の現代的役割<br>と将来の展望について(仮)」 |

日 時：2011年8月26日(金)

研究会 10：30～16：50

昼休みに図書館内見学

懇親会 17：20～19：20

研究会会場：九州女子大学

懇親会会場：未定

3) その他

私立大学図書館協会 西地区部会 九州地区協議会  
2010（平成22）年度第2回定例幹事会

1. 期 日：2010(平成22)年12月10日(金)

14：00～16：00

2. 会 場：別府大学本館511会議室

3. 当番館：別府大学

4. 参加者：8館16名

5. 内 容：

・協議事項

1) 2010年度九州地区協議会総会の報告につ

いて

2) 2011年度九州地区協議会総会の実施計画  
(案) について

3) 2010年度九州地区協議会会計報告について

4) 2009年度、2010年度九州地区研究会の会計  
報告について

5) その他



# 事務局報告

## 平成22年度九州地区大学図書館協議会 幹事館・副幹事館会議

平成22年12月6日(月)に書面回議により開催の結果、意見等の申し出がなかったため、原案のとおり承認されました。

### 議 題

#### 1. 平成23年度九州地区大学図書館協議会総会について

次期当番館 佐賀大学附属図書館から「平成23年度九州地区大学図書館協議会等実施計画(案)」の提出がありました。

日程等内容をご確認ください。

#### 2. 第61回九州地区大学図書館協議会総会議事要録(案)について

今年度当番館 福岡県立大学附属図書館、九州歯科大学附属図書館および北九州学術研究都市学術情報センターから第61回九州地区大学図書館協議会総会議事要録(案)の提出がありました。

内容をご確認ください。

#### 3. その他

九州地区大学図書館協議会総会における講演、協議事項等について

ご意見等がございましたらお知らせください。

なお、協議事項等は別途当番大学から照会予定です。

副議長について

総会における副議長は、平成11年度からの副幹事館制度の発足により、副幹事館の図書館長により次の順番で執り行われておりますので、平成23年度につきましても、副幹事館のうちのいずれかの図書館長にお願いいたします。

### <参 考>

平成11年度(公立大学部会副幹事館長)  
福岡女子大学

平成12年度(私立大学部会副幹事館長)  
鹿児島国際大学

平成13年度(私立短大部会副幹事館長)  
沖縄キリスト教短期大学

平成14年度(国立大学部会副幹事館長)  
福岡教育大学

平成15年度(公立大学部会副幹事館長)  
宮崎公立大学

平成16年度(私立大学部会副幹事館長)  
筑紫女学園大学・短期大学

平成17年度(私立大学部会副幹事館長)  
九州東海大学

平成18年度(国立大学部会副幹事館長)  
長崎大学

平成19年度(国立大学部会副幹事館長)  
熊本大学

平成20年度(公立大学部会副幹事館長)  
宮崎県立看護大学

平成21年度(私立大学部会副幹事館長)  
九州産業大学

平成22年度(国立大学部会副幹事館長)  
大分大学

副幹事館、表彰委員館、編集委員館の交代について

平成23年度は副幹事館を選出いただく年です。各部会で当番館の検討をお願いします。

また、表彰委員館、編集委員館の任期は1年間(再任は妨げない。)ですので、各部会

で当番館の検討を併せてお願いします。

平成24年度の総会は南部地区の当番で国立  
大学部会の当番館は鹿児島大学に内諾を得て

いますので、各部会でも当番館をお決めにな  
るときは考慮していただくようお願いします。

## 第61回九州地区大学図書館協議会総会記録

### 日 程 表

1. 期 日 平成22年 4月23日 (金)
  
2. 会 場 福岡ガーデンパレス 1階「ガーデンホールA・B・C」  
福岡市中央区天神 4丁目 8番15号  
電話 092-713-1112 FAX 092-714-0510  
<http://www.hotelgp-fukuoka.com>
  
3. 日 程 9:30 受付開始  
10:00 1. 開 会  
2. 当番館長挨拶  
3. 幹事館長挨拶  
4. 会議日程・配布資料の説明  
5. 議長、副議長の選出  
6. 議長、副議長の挨拶  
7. 新任館長等紹介  
8. 表彰式  
9. 幹事館報告  
10. 平成21年度決算及び監査報告  
11. 平成22年度予算 (案)  
11:00 12. 国立、公立、私立、私立短大各部会報告  
12:00 昼 食  
13:00 13. 講 演  
講師：北九州市立文学館長・作家 佐木 隆三 氏  
演題：火野葦平と松本清張  
14:30 14. 協議事項  
15. 承合事項  
16. 次期役員館の選出  
17. 次期当番館の挨拶  
18. 議長、副議長の解任  
16:00 19. 閉 会



## 出席者名簿 ( は新任者)

### 【国立大学】

#### 九州工業大学附属図書館

附属図書館長	鶴田 隆治
附属図書館事務長	石丸 克巳
附属図書館事務長補佐	福田 富士夫

#### 熊本大学附属図書館

附属図書館長	入口 紀男
学術情報部長	島田 正俊
図書課長	永田 正次

#### 福岡教育大学附属図書館

附属図書館長	池田 修
図書館課長	小川 稔

#### 大分大学学術情報拠点

学術情報拠点長	伊藤 哲郎
研究・社会連携部長	松岡 壽
学術情報課長	能勢 明雄

#### 九州大学附属図書館

附属図書館長	丸野 俊一
事務部長	濱崎 修一
図書館企画課長	飯田 昇平
利用支援課長	古賀 幸成
伊都地区図書課長	堀之口 教廣
図書館企画課長補佐	佐本 美恵子

#### 宮崎大学附属図書館

館長	原田 宏
学術研究協力部長	水井 義武
情報図書課長	池田 光弘

#### 佐賀大学附属図書館

附属図書館長	稲岡 司
学術研究協力部長	川上 敏彦
情報図書館課長	野村 正人
情報図書館課副課長	木村 伸子
情報図書館課係長	松尾 康和

#### 鹿児島大学附属図書館

附属図書館長	井上 佳朗
学術情報部長	長友 良維
情報サービス課長	瓜生 照久

#### 鹿屋体育大学附属図書館

附属図書館長	西園 秀嗣
学術図書情報課長	吉田 英明

#### 長崎大学附属図書館

附属図書館長	柴多 一雄
学術情報部長	西山 常清
学術情報管理課長	甲斐 重武

#### 琉球大学附属図書館

附属図書館長	成富 研二
事務部長	金城 孝夫
情報サービス課長	舟本 幸福

出席館 11館 36名

欠席館 なし

### 【公立大学】

#### 北九州市立大学 学術情報総合センター

センター長	田村 慶子
学術情報課長	江上 照明
図書担当係長	鈴木 吉美

#### 九州歯科大学附属図書館

図書館長	柿木 保明
学務部長	川原 利三
囑託職員	長 紀美恵

北九州学術研究都市 学術情報センター  
 学術情報担当部長 都 築 信 男  
 学術情報担当課長 平 野 富士男  
 主 任 柳 澤 裕 幸

福岡女子大学附属図書館  
 附属図書館長 森 邦 昭  
 学務部長 岩 田 睦 博  
 学生支援班長 田 井 晴 彦  
 嘱託職員 坂 上 愛

福岡県立大学附属図書館  
 館 長 古 橋 啓 介  
 学務部長 鬼 丸 健 二  
 教務企画班長 水 間 惣 吾  
 嘱託職員 石 田 明 美

長崎県立大学附属図書館  
 附属図書館長 貞 森 直 樹  
 佐世保校附属図書館長 阿 部 律 子  
 佐世保校図書課長 寺 田 勝 嘉  
 シーボルト校図書課長 吉 野 康 弘

熊本県立大学 学術情報メディアセンター  
 事 務 長 田 中 彰

大分県立芸術文化短期大学附属図書館  
 企画情報課長 伊 達 和 男

【私立大学】

西日本工業大学図書館  
 図書館長 堤 昌 文  
 図書課長 宗 広 明 則

西南女学院大学図書館  
 図書館長 谷 川 弘 治  
 図書課長 渡 橋 英 子

九州国際大学図書館  
 事務室長 峰 日出人  
 課長補佐 今 井 卓  
 事務室員 下 川 博 之  
 嘱託職員 坂 田 絵里奈

大分県立看護科学大学附属図書館  
 副 館 長 志 賀 壽美代  
 非常勤職員 白 川 裕 子

宮崎公立大学附属図書館  
 主任主事 赤 澤 央 臣

宮崎県立看護大学附属図書館  
 附属図書館長 布 施 裕 二  
 総務担当副主幹 堅 田 浩 明

鹿児島県立短期大学附属図書館  
 図書館長 岡 村 俊 彦

沖縄県立看護大学附属図書館  
 附属図書館長 嘉手苅 英 子  
 主 査 幸 地 哲

沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館  
 主 任 加 山 佳 弥

名桜大学附属図書館  
 館 長 高 宮 城 繁  
 参 与 又 吉 純

出席館 15館 34名

欠席館 なし

九州共立大学附属図書館  
 館 長 森 川 壽 人  
 業務課長 古 賀 進

九州女子大学・短期大学附属図書館  
 館 長 高 橋 昇  
 業務課長 松 尾 伸 二

福岡工業大学附属図書館  
 館 長 赤 木 文 男  
 課長補佐 江 口 典 明

福岡女学院大学図書館		久留米工業大学図書館	
図書館長	二階堂 整	館長	渡邊 孝司
図書館課長	鶴 典子	事務室長	萩尾 文子
九州産業大学図書館		聖マリア学院大学図書館	
館長	横山 秀司	図書館長(代理)	安藤 満代
事務部長	岩佐 哲朗	司書	山口 真由美
事務室長	城戸 武文		
庶務係長	宮丸 由美子	久留米大学附属図書館	
事務職員	中野 佐枝子	館長	遠山 潤
		課長	熊谷 まゆみ
福岡大学図書館		西九州大学附属図書館	
事務部長	石田 積	図書館長	酒井 出
課長	野本 繁	図書館課長	増田 定次
課長補佐	谷口 義和		
課長補佐	工藤 邦彦	活水女子大学図書館	
課長補佐	式島 千春	図書館長	徳永 幸子
		図書館課長	森 茂樹
中村学園大学図書館		長崎総合科学大学附属図書館	
図書館長	藤田 守	図書館課長	吉田 政則
図書館課長	猿渡 健一		
西南学院大学図書館		長崎外国語大学・長崎外国語短期大学	
図書館事務部長	伊藤 邦厚	マルチメディア・ライブラリー	
図書館情報課課長	古庄 敬文	係員	田中 陽子
第一薬科大学図書館		長崎純心大学早坂記念図書館	
館長	原 千高	図書館事務室長	岩崎 由希子
司書	釘本 奈美		
司書	野中 麻有	長崎ウエスレヤン大学附属図書館	
九州情報大学太宰府キャンパス図書館		司書	植松 久子
附属図書館長	大野 典昭		
筑紫女学園大学・短期大学部附属図書館		長崎国際大学図書館	
図書館課 課長	福田 千代子	課長	飯島 芳典
図書館課	東野 善男		
福岡国際大学・福岡女子短期大学図書館		崇城大学図書館	
図書館長	大里 栄子	館長	恒松 郁生
主査	大橋 祐子	課長	原 みゆき
		九州ルーテル学院大学図書館	
		図書館課長	水谷 江美子

熊本学園大学付属図書館

館長 村松茂美  
奉仕課長 津村秀夫

南九州大学・南九州短期大学図書館

館長 中根忠洋  
学務部長兼図書課長 中村稔

東海大学付属図書館 熊本・阿蘇図書館

課長補佐 板東弘

鹿児島国際大学附属図書館

図書館次長 藤田淳二

熊本保健科学大学附属図書館

図書館長 岡部由紀子  
主任 山崎栄子

鹿児島純心女子大学附属図書館

図書課長 森山学

九州看護福祉大学附属図書館

図書館長 佐藤林正

志學館大学図書館

図書館長 河原晶子  
総務係長 木佐木和代

日本文理大学図書館

係長 小平正典

沖縄国際大学図書館

図書館長 兼本敏

立命館アジア太平洋大学ライブラリー

総合情報センター長 PISHVA, Davar  
メディアセンター事務職員 大勢美穂

沖縄大学図書館

図書館長 桜井国俊

別府大学附属図書館

館長 石井保廣  
事務長 吉岡義信

沖縄キリスト教学院図書館

主任 松田道子

出席館 42館 77名  
欠席館 3館

九州保健福祉大学附属図書館

主任 内田ゆかり

【私立短期大学】

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学図書館

図書館長 山田千秋  
図書課長 小林由憲

鹿児島女子短期大学附属図書館

図書館長 瀬戸口修  
課長 南谷久

九州大谷短期大学図書館

主任司書 梅野智美

鹿児島純心女子短期大学図書館

図書課長 西真知子

中九州短期大学附属図書館

図書館長 田中善典

出席館 6館 8名  
欠席館 1館

東九州短期大学図書館

司書 釘丸知子



## 第61回九州地区大学図書館協議会総会議事要録

### 1. 開 会

当番館の福岡県立大学鬼丸部長より、開会宣言があった。

明があった。また、正誤表に基づき、資料に訂正があることが伝えられた。

### 2. 当番館長挨拶

当番館である福岡県立大学附属図書館古橋館長より、挨拶があった。

### 5. 議長の選出、挨拶

「九州地区大学図書館協議会総会運営に関する細則」第2項に基づき、当番館長である福岡県立大学附属図書館古橋館長が選出され、続いて挨拶があった。

### 3. 幹事館長挨拶

幹事館である九州大学附属図書館丸野館長より、挨拶があった。

### 6. 副議長の選出、挨拶

議長より、副幹事館である大分大学の伊藤学術情報拠点長が副議長として指名され、承認された。続いて挨拶があった。

続いて、鬼丸部長より、名桜大学の公立大学法人化にともなう私立大学部会から公立大学部会への異動の紹介があり、名桜大学附属図書館高宮城館長から挨拶があった。

### 4. 会議日程・配布資料の説明

鬼丸部長より、日程説明、配布資料について説

### 7. 新任館長等紹介

今年度は新任者多数のため、資料1の出席者名簿に基づき、確認のみ行なわれた。

### 8. 表彰式

「九州地区大学図書館協議会表彰規程」に基づき、19名が表彰された。被表彰者を代表して、鹿児島大学の長友良維氏、志学館大学の木佐木和代氏、中村学園大学の猿渡健一氏へ、表彰状が授与された。

(1) 勤続期間20年以上の者で退職した者（表彰規程第2条第2項）

(所属機関、氏名の50音順)

	表彰の区分	所属大学名	氏名
1	第2条第2号	九州大学附属図書館	いり え かつこ 入 江 いつ子
2	〃	〃	お の かよこ 小 野 佳代子
3	〃	〃	はやし だ かず まさ 林 田 和 政
4	〃	〃	み うら まこと 三 浦 誠
5	〃	熊本大学附属図書館	うら た ひろ おみ 浦 田 博 臣
6	〃	〃	おか ざき きぬ こ 岡 崎 絹 子
7	〃	長崎県立大学佐世保校附属図書館	いけ がみ あけ み 池 上 明 美
8	〃	長崎大学附属図書館	みぞ ごし せつ こ 溝 越 節 子

(2) 勤続期間20年に達した者 (表彰規程第2条第1項)

(所属機関、氏名の50音順)

	表彰の区分	所属大学名	氏名
1	第2条第1号	大分大学学術情報拠点	わか ばやし かおる 若 林 薫
2	"	鹿児島大学附属図書館	じゅ ふく ちよこ 壽 福 千代子
3	"	"	ため とう よう こ 為 藤 陽 子
4	"	"	なが とも よし ただ 長 友 良 維
5	"	"	ほり ぐち ひろ あき 堀 口 裕 著
6	"	九州大学附属図書館	おお たき れい じ 大 瀧 礼 二
7	"	"	たか はら ひで のり 高 原 秀 典
8	"	熊本大学附属図書館	じょう みち こ 城 倫 子
9	"	久留米大学附属図書館	さか い しげる 坂 井 茂
10	"	志學館大学図書館	き さき かず よ 木佐木 和 代
11	"	中村学園大学図書館	さる わたり けん いち 猿 渡 健 一

(休 憩)

9. 幹事館報告

幹事館の九州大学より、以下の4点について、報告があった。

- (1) 平成21年度は新規加盟館はないが、名桜大学の私立大学部会から公立大学部会への異動があった。平成22年4月1日現在の加盟館は国立11館、公立15館、私立45館、私立短大7館の合計78館である。
- (2) 平成22年2月に『協議会誌第52号』を刊行し、加盟館に発送済みである。鹿児島大附属図書館長の巻頭言に加え、長崎大、九州大から論文が寄せられ充実した会誌となった。編集の方々にも感謝する。
- (3) 協議会の昨年度の後援事業として、平成21年6月22日に開催された九州大学附属図書館主催の学術情報セミナー「学術情報流通の現在と未来」(参加58名、うち九州地区から20名)、平成22年3月5日に開催された長崎大学附属図書館主催の長崎大学全学教育FD・SDワークショップ「ライティングの指導と支援をどう強化する

か」の2件を後援した。

- (4) 昨年度の総会でも紹介したフレッシュパーソンセミナー(国立大学図書館協会の九州地区と中国四国地区合同で隔年開催)が、平成21年9月17、18日、広島大で開催され、参加48名(うち九州地区からは国立4名、公立5名、私立6名)、講義だけでなくグループ討議「大学図書館員に必要なスキルとそのアップ方法をみつける」「魅力的なサービスとは何かを考える」「図書館の危機管理について考える」「学生にとって魅力的な蔵書とは」等あり活発な研修であった。今後も継続される予定であり、地区の共同研修として意義が大きいので積極的な参加を望む。

10. 平成21年度決算及び監査報告

幹事館より、資料3の決算案に基づき報告があり、広告掲載料(今期会誌分19社中15社が年度内に入金)の未入金(4社)分は平成22年度の収入に充てられることが説明された。続いて、監査館である福岡女子大学附属図書館より、監査の結果、

通帳・出納簿とも適切な会計処理がされている旨、報告された。審議の結果、承認された。

#### 11. 平成22年度予算（案）

幹事館より、資料4の予算案に基づき報告があった。出席者から、(決算書、予算書とも)積立金会計の収入の部「一般会計繰入」は「一般会計から繰入」と表記した方がわかりよいとの提案があった。予算案は、審議の結果、承認された。

#### 12. 国立、公立、私立、私短大各部会報告

##### (1) 国立大学部会報告

九州工業大学附属図書館の鶴田館長より、九州地区国立大学図書館協会総会の協議内容に関して説明があった。

##### 1) 今後の電子ジャーナル購読について

学術情報流通に関して学術情報委員会の電子ジャーナルTFと流通改革WGが特別委員会に統合再編され、短期・中長期の活動の検討がなされている。直近の活動である大手出版社と包括的PKG契約の個別交渉から、中長期モデルの適用、中期的対応方策の検討、PULCとの連携強化等まで、取り組んでいる。

##### 2) 九州地区国立大学附属図書館の情報共有サイトの構築と今後の展開

鹿児島大学で構築した情報共有サイトの動作を確認中であり、その共有コンテンツのポートタイプも作成中である。

##### 3) 協議事項3)から8)については、提案について審議され、了承された。

##### 4) その他、承合事項として、ラーニングコミュニティについて各大学の取り組みについて情報交換した。

##### (2) 公立大学部会報告

福岡女子大学附属図書館の森館長より、九州地区大学図書館協議会公立大学部会の報告があった。

##### 1) 協議事項：他部署との連携について

図書館業務を効率的に遂行するための、他部署との連携の5つの側面、すなわち学内各

部署・情報センター職員・教員・現場職員同士・地域との、各連携について意見交換した。

##### 2) 承合事項4件

土日開館の実施状況について：実施有無、開館時間、利用者数、貸出冊数、他の学習スペース有無について情報交換した。

図書館の状況について：閲覧室の照度、書架の高さ、グループ学習室・個人学習室の状況、図書整備方針について情報交換した。

外来(学外)の利用者に対するサービス提供について：他大学への文献複写依頼を引き受けているか、館内インターネット利用を許可しているか、情報交換した。

館内マナー指導方針について：館内への飲食物持込み、カメラ等による資料撮影への対応につき情報交換した。

##### 3) 多くの項目について熱心・率直な議論で、有意義な意見交換ができた。

##### (3) 私立大学部会報告

第一薬科大学図書館の原館長より、私立大学図書館協会西地区部会九州地区協議会の議事内容が紹介された。

##### 1) 名桜大学の公立部会への転出で、九州地区協議会の加盟館は53館となり、昨日は46館、85名が出席。

##### 2) 九州地区協議会関係で2009年度は定例幹事会を2回、研究会準備委員会を1回実施した。

##### 3) 西地区部会関係では、2010年度の西地区部会総会は九州共立大学で開催予定、西地区部会研究会は「滞在型図書館を目指して - 図書館サービスを今一度考えてみよう -」をテーマに金城学院大学で開催予定。

##### 4) 私立大学図書館協会関係では、第71回総会が西南学院大学で開催予定。

##### 5) 協議事項として、西地区部会の研究会より研究発表者の招請があり、別府大学附属図書館石井館長を推薦、「汗をかく図書館 - 利用者とともに歩むために -」のタイトルで発表される予定、今後も研究発表者の発掘に努め

る。九州地区研究会は8月27日に志學館大学で開催の予定であり、計画概要が提案され了承された。また、平成22年度九州地区大学図書館協議会の役員校を選出した。

6) 承合事項として「障害者の方への、新入生オリエンテーション及び利用教育等」「学外者の複写利用」の2件について、回答が寄せられ、意見交換がなされた。

7) その他を含めあと6件の協議が行なわれ、次期当番館は別府大学附属図書館にお願いすることになった。

#### (4) 私立短期大学部会報告

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学の小林図書館課長より、九州地区私立短期大学図書館協議会総会と研修会について報告があった。

1) 総会では、平成21年度の事業報告、決算及び監査報告、平成22年度の事業案、予算案について審議され、承認された。

2) 研修会では、まず、近畿大学九州短期大学の津森伸一准教授より「ホームページ開発と図書館の関わり」と題する講演があった。コンピュータを使って教育を効率的に行なう、教育情報工学の研究で、これからの図書館の方向性と、ホームページの利便性について論じ、図書館はマルチメディアセンターの役割を果たしてゆかねばならないと結ばれた。

3) 続いて承合事項では、参考図書・雑誌最新号の貸出について、施設開放の実施状況について、図書館利用促進方法についてなど5件のテーマについて意見交換が行われた。

#### 16 1. 次期役員館の選出 (午後の予定を、一部繰り上げ)

##### (1) 幹事館、副幹事館の確認

副議長より、幹事館と副幹事館は、昨年度の総会で選出され任期は平成21年度から平成22年度までの2年間であるので、平成22年度も幹事館は九州大学、副幹事館は大分大学、福岡県立大学、九州産業大学、九州大谷短期大学である旨の確認を行なった。

##### (2) 監査館の選出

幹事館の九州大学の飯田図書館企画課長より、監査館は幹事館に近い福岡市内の大学が適しているため、福岡大学にお願いして内諾を得ている旨の説明があり、承認された。

##### (3) 表彰委員館、編集委員館の選出

昨日の各部会での検討の結果、以下の大学が選出されたとの説明があり、承認された。(いずれも、国立、公立、私立、私立短大の順)

表彰委員館：長崎大学、福岡女子大学、鹿児島純心女子大学、鹿児島女子短期大学

編集委員館：九州工業大学、北九州学術研究都市、活水女子大学、九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 (\* 午前中、いったん中九州短期大学と紹介されたが、午後の冒頭で上記のように訂正・再提案され、承認された)

#### 15. 承合事項「九州地区大学図書館の利用状況について」(進行を副議長の大分大学伊藤拠点長へバトンタッチ)

宮崎公立大学の赤澤氏より提案理由について「数値目標の基礎となるデータを収集し、長期的な図書館運営計画を策定する上での足がかりにしたい」との説明があった後、実績値の高い館に対して副議長より質問があり、琉球大学、長崎県立大学、立命館アジア太平洋大学が取組状況を紹介した。

#### (昼 食)

#### 13. 講演

「火野葦平と松本清張」 北九州市立文学館長・作家 佐木隆三氏

福岡県立大学鬼丸学務部長より、講師の紹介があったのち、佐木氏による講演が行なわれた。北九州出身の2人の大先輩作家が、それぞれどのように生き、人びととどう交わり、創作に取り組んだか、同郷の後輩である佐木氏が接したそれぞれの人物像が、比較を交えながら、生き活きと浮き彫りにされ、興味深い作家論・文学論を聞くこと



ができた。

(休 憩)

#### 14. 協議題「図書館利用の活性化について」

(福岡県立大学古橋館長が議長で進行)

九州大学の古賀課長より提案理由について「情報電子化もあり、大学図書館は、利用減少傾向だが、学習・教育・研究・情報収集・コミュニケーション・社会連携の場として重要であり、その利用活性化のため、スペース・資料・情報の整備、活用方法の提案、広報の促進、大学事業・社会・図書館(同士)との各連携が必要。各大学の取組について情報交換し協議したい」との説明があり、その後、各大学の事例が紹介された。

##### 【別府大学 石井館長】

シラバス参考資料の充実に学長裁量経費を活用、選書ツアーは年3回実施(院生は2万円/人で書店DB利用、学部生は1万円/人で書店訪問)、図書館見学ツアー(九大伊都、福岡総合)、地域連携サーバ(大分県内学協会の文献リポジトリ)と大学リポジトリサーバ(学外からの利用が増えた)の2系統、データの可視化(書誌の作成を大幅に増やした)、貸出増を狙い話題作(Best seller)購入検討など。

##### 【大分大学 能勢課長】

全館的な見直しで空きスペースを捻出しラーニングcommonsを設置、大学院生を対象にゼミテーマに沿った選書ツアー開催、社会連携として県内医療従事者対象の医学文献デリバリーサービスと児童図書コーナーの改善。今後、学生の目線に立った施策を進める。

##### 【久留米大学 遠山館長】

昨年より選書ツアー実施(参加12名、5万円/人)、オリエンテーションは難易度別に選択肢を設け57回650名参加、デザイナー新刊小冊子「知の玉手箱」に教員・学生からの書評やDB・Webサイト案内掲載、毎年アンケート実施し利用満足度の経年変化を把握中。

##### 【鹿児島大学 瓜生課長】

開館時間の延長、資料整備(シラバス図書1200冊や、課題探求学習に関する人社系資料)、グループ学習室整備(部屋数増、間仕切り整備)、長時間利用に配慮した飲料自販機設置・アメニティルーム整備、開架書庫の一部集密書架化による収蔵余力確保、図書館報の見直し(ターゲット絞る)、館内デジタルサイネージの有効活用、中央館1階吹抜け部をギャラリー“アトリウム”に整備し作品展等へ開放、その他、博物館等との共同イベントや歴史資料の巡回展なども企画しているところ。

##### 【北九州市立大学 田村センター長】

「先生が学生にすすめるこの1冊」「先生や職員著作紹介」「学生が学生に推薦する図書」各コーナーを、館内1F(目立つ場所)およびHP上に設け、本と推薦/紹介文を展示して好評。1年生向け図書館ツアー(ゼミごと)は数年前から実施中。日曜開館を昨年より試行。今後「学がわかる」コーナー設置を考えている。5年間下がり続けていた入館者数が、2009年度は約1万人増加した。

##### 【九州大谷短期大学 梅野主任】

学生モニター制を導入し学生目線でのアドバイスや図書紹介活動を行なう、「教職員が薦める本」は執筆ローテーションを作り教授会に依頼、購入リクエストはDVDが多く図書館が憩いの場として親しまれている、地域貢献としての一般開放の利用も年々増加、時の話題に合ったコーナーも心がけている。

##### 【九州大学 濱崎事務部長】

国立大学図書館協会の助成事業に九州地区から計画を提案することが地区協会承認された。図書館利用の促進、来館者数増加をはかり秋の読書週間(10/27 - 11/9)に「Library Lovers Week」キャンペーンを展開、学生コンテストや広報活動を行なう。公私立大学にも参加を呼びかけてゆく。

#### 16 2. 次期役員館の選出(進行を再び副議長の大分大学伊藤拠点長へリレー)

##### (4) 次期当番館の選出

九州大学の飯田図書館企画課長より、次期当

番館は、中部地区から選出することになっており、23年度は佐賀大学が当番校となる旨、説明があり、承認された。

17. 次期当番館の挨拶

次期当番館の佐賀大学附属図書館の稲岡館長より挨拶があった。

18. 議長、副議長の解任

予定していた議事が終わったため、議長、副議長が解任された。

19. 閉会

当番館の福岡県立大学鬼丸部長より、閉会の宣言がなされた。

平成21年度決算

一般会計

(単位:円)

		収入の部			支出の部		
科目	予算	決算	備考	科目	予算	決算	備考
会費	468,000	468,000	6,000×78館	総会運営費	300,000	300,000	当番館:琉球大学
協議会誌代	124,800	125,600	51号:156部 47号:1部	協議会誌発行費	250,000	231,000	52号(2009) 200部
広告掲載料	300,000	240,000	15社	事務費	30,000	21,500	会誌送料、通信費、会議費等
広告掲載料	200,000	200,000	10社 20年度分	積立金会計へ繰入	512,800	481,100	総会関係研修事業補助
小計	1,092,800	1,033,600		小計	1,092,800	1,033,600	

積立金会計

(単位:円)

		収入の部			支出の部		
科目	予算	決算	備考	科目	予算	決算	備考
前年度繰越金	214,982	214,982		表彰経費	50,000	49,455	9名(1号該当4名、2号該当5名)
預金利息	600	151	8月65円、2月86円	研修会経費	30,000	40,000	総会講演演謝金等
一般会計繰入	512,800	481,100		研修会補助費	270,000	270,000	各県協議会(9地区) 研修経費補助
				次年度繰越金	378,382	336,778	
小計	728,382	696,233		小計	728,382	696,233	

平成22年3月26日

監査館 福岡女子大学 附属図書館

学生支援班長 田井晴彦 監査済

平成22年度予算 (案)

一般会計

(単位：円)

収入の部		支出の部	
科目	予算	科目	予算
会費	468,000	総会運営費	300,000
協議会誌代	124,800	協議会誌発行費	250,000
広告掲載料	300,000	事務費	30,000
広告掲載料	50,000	積立金会計へ繰入	362,800
小計	942,800	小計	942,800

当番館：福岡県立大学、九州歯科大学、北九州学研都市学術情報センター  
53号 (2010) 200部  
会誌送料、通信費、会議費等  
総会関係研修事業補助

積立金会計

(単位：円)

収入の部		支出の部	
科目	予算	科目	予算
前年度繰越金	336,778	表彰経費	101,000
預金利息	150	研修会経費	70,000
一般会計繰入	362,800	研修会補助費	270,000
		次年度繰越金	258,728
小計	699,728	小計	699,728

19名 (1号該当11名、2号該当8名)  
総会講演謝金等  
各県協議会 (9地区) 研修経費補助



## 九州地区大学図書館協議会会則

昭和25年11月27日施行  
昭和32年9月12日改正  
昭和41年6月2日改正  
昭和51年4月28日改正  
昭和55年5月9日改正  
平成9年4月25日改正  
平成10年4月24日改正  
平成20年4月18日改正

### (名 称)

第 1 条 本会は九州地区大学図書館協議会と称する。

### (会 員)

第 2 条 本会は別に定める資格を有する九州地区の大学図書館等（以下「大学図書館」という。）をもって組織する。

会員は大学等の機関をもって一会員とする。

本会に入会するには、所定の入会申込書を提出し、総会の議決を経るものとする。

### (目 的)

第 3 条 本会は会員の緊密な連絡と協力によって、大学図書館の施設、管理及び運営等の健全な進歩発達をはかり、会員相互の親睦をはかることを目的とする。

### (事 業)

第 4 条 本会は前条の目的を達するためにつぎの事業を行う。

1. 図書館の研究・調査に関する事項
2. 研究会・講習会等の開催に関する事項
3. 日本図書館協会等の連絡提携に関する事項
4. 学術図書文献の調査及び総合目録の調整に関する事項
5. 学術図書文献の収集、保存及び活用に関する事項
6. その他必要とする事項

### (役 員)

第 5 条 本会に幹事館、副幹事館及び監査館を置く。

幹事館は会務を総括し、本会を代表する。

副幹事館は、幹事館とともに会務を処理する。

監査館は、会計を監査する。

第 6 条 幹事館は、総会で互選し、その任期は2年とする。但し、再選を妨げない。

副幹事館は、国立大学、公立大学、私立大学及び私立短期大学の各部会からそれぞれ1館を総会で互選し、その任期は2年とする。但し、再選を妨げない。

監査館は、総会で互選し、その任期は1年とする。但し、再選できない。

(事務所)

第 7 条 本会の事務所は幹事館内におく。

(会議)

第 8 条 本会は毎年 1 回総会を開催する。但し必要に応じ会員の 3 分の 1 以上から請求があった場合は、臨時総会を開くことができる。

第 9 条 総会の運営は、輪番に定められた当番館が幹事館と協議してこれに当たる。

第 10 条 総会は次の事項を行う。

1. 事業計画
2. 決算の承認
3. 予算の決定
4. 幹事館、副幹事館及び監査館の選任及び当番館の決定
5. その他必要な事項の決定

第 11 条 総会の票決権は 1 大学等の機関につき 1 票とし、議決は多数決による。可否同数の時は幹事館の決するところによる。

(会計)

第 12 条 本会の経費は会費その他をもってあてる。

第 13 条 会費は年額 6,000 円とし、毎会計年度始めに幹事館に納入するものとする。

第 14 条 本会の予算は毎年総会の議決を経て決定し、決算は監査を受け次の総会において承認を得なければならない。

第 15 条 本会の会計年度は 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終る。

(会則変更)

第 16 条 本会則の変更は総会にはからなければならない。その決定には出席会員の 3 分の 2 以上の賛成を必要とする。

## 九州地区大学図書館協議会総会運営に関する細則

昭和 32 年 9 月 12 日決定

昭和 37 年 10 月 2 日改正

昭和 48 年 5 月 11 日改正

昭和 53 年 5 月 12 日改正

平成 11 年 4 月 23 日改正

1. 本協議会総会の運営は簡素を尊重し、輪番に当番を引受け易くするためにこの細則を定める。
2. 総会の議長は当番館の館長とする。
3. 議長は副議長を指名することができる。
4. 当番館は幹事館及び副幹事館と協議の上、2 ヶ月前に会員宛日程・場所等を通知し、出席者の職氏名及び協議事項・承合事項の提出を求める招請状を送ること。  
但し、緊急を要する臨時総会等の場合はこの限りでない。
5. 当番館は協議事項をまとめ、議題として提案理由、又は簡単な説明を付して、出席者に配付し、調査

- 研究の余地を充分与えるように努めること。
6. 当番館は総会の議事録を作成し、会員に配付するものとする。
  7. 幹事館及び副幹事館は当番館と協力して、総会で決議された要求事項を貫徹するよう努力する。
  8. 総会と同時に研修会を開催し、研究発表者は九州地区内の大学図書館職員とし3年位に1回の割合で、文部省・国会図書館或は他地区の大学より最適任者を招聘する。
  9. 会員以外の出席を許すことがある。但し票決権はない。
  10. 当番館は加盟館の所属県を次の三地区に分け、地区ごとに等しく持ち廻る。

福岡地区	福岡県
中部地区	長崎県、佐賀県、熊本県、大分県
南部地区	鹿児島県、宮崎県、沖縄県
  11. 総会の経費は主として会費及び出席者から徴収する金員より支出し、総会の議決を経た予算案によって実行するものとする。
  12. 研修会の講師招聘に要する旅費、謝礼等の費用は、毎年会費の内から積立てて支弁する。

## 九州地区大学図書館協議会入会に関する細則

昭和32年9月1日施行

平成9年4月25日改正

平成20年4月18日改正

1. 本協議会へ入会を希望する大学図書館（以下「入会申込館」という。）は、最寄りの本協議会会員の紹介書（別記様式1）により、入会申込書（別記様式2）を、総会の3ヶ月前までに幹事館に提出する。
2. 紹介を依頼された会員は、総会において入会申込館の概略を説明する。
3. 入会資格の基準は下記のとおりとする。
  - (1) 大学、短期大学又はこれに準じる教育研究機関の図書館施設であること。
  - (2) 本協議会の目的及び事業に賛同し、熱意が十分認められること。
4. 入会申込館は、総会当日は、入会承認まではオブザーバーとして出席することができる。

## 九州地区大学図書館協議会入会紹介書

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会 殿

大 学 名

図 書 館 名

図 書 館 長 名

公印

下記の図書館は、本協議会の目的及び事業に賛同され、また熱意が十分認められますので、本協議会への入会を紹介します。

### 記

1. 学校 (法人) 名 :

2. 大 学 名 :

3. 図 書 館 名 :

4. 図 書 館 長 名 :

5. 所 在 地 :



## 九州地区大学図書館協議会入会申込書

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会 殿

大 学 名

図 書 館 名

図 書 館 長 名

公印

貴協議会の趣旨に賛同し、平成 年度からの入会を申し込みます。

### 記

1. 学校 (法人) 名 :
2. 大 学 名 :
3. 大 学 設 置 年 :
4. 学 生 数 :
5. 図 書 館 名 :
6. 所 在 地 :  
(電話、FAX 番号)
7. 図 書 館 長 名 :
8. 図 書 館 の 概 要 : (別紙)
9. 紹 介 館 名 :

## 図 書 館 の 概 要

図 書 館 名			
事務責任者職・氏名	(電話番号 )		
図 書 館 職 員 数	人 (内、司書数 人)		
図 書 館 延 床 面 積	m <sup>2</sup>	閱 覧 座 席 数	席
蔵 書 冊 数	冊 (内 和書 冊、洋書 冊)		
年 間 受 入 図 書 冊 数	冊	年 間 受 入 雑 誌 種 数	種
年 間 開 館 日 数	日	通 常 開 館 時 間	時 分 ~ 時 分
土 曜 開 館	1 実施 2 未実施		
日 曜 祝 日 開 館	1 実施 2 一部実施 3 未実施		
奉 仕 対 象 学 生 数	人	奉 仕 対 象 教 職 員 数	人
年 間 貸 出 冊 数	冊		
図 書 館 相 互 協 力	図 書 賃 借	1 実施 2 未実施	
	文 献 複 写	1 実施 2 未実施	
学 外 者 へ の サ ー ビ ス	1 実施 2 未実施		
コ ン プ ュ ー タ の 導 入	1 導入済 2 未導入		
コ ン プ ュ ー タ の 適 用 業 務	1 貸出 2 図書受入 3 図書整理 4 雑誌管理 5 OPAC		
ネ ッ ト ワ ー ク 環 境	1 学内 LAN 接続済 2 インターネット接続済		
国 立 情 報 学 研 究 所 と の 接 続	1 接続(1 NACSIS-CAT/ILL 2 NACSIS-IR 3 その他) 2 未接続		

# 九州地区大学図書館協議会誌編集に関する内規

平成 2 年 4 月 20 日施行

平成 5 年 4 月 23 日改正

平成 11 年 4 月 23 日改正

1. (1) 本協議会誌は、総会記事のほか各部会報告、ニュース等を掲載し、九州地区大学図書館間の情報誌としての機能を果たすこととする。
- (2) 本協議会誌編集のために編集委員会を設ける。
2. (1) 編集委員会は、国立、公立、私立及び私立短大の各部会からの推薦により選出された編集委員館で構成する。
- (2) 幹事館及び総会当番館は、業務上の必要から編集委員館として参加することとし、上記 2 - (1) の編集委員館を兼ねることができる。
- (3) 各部会の編集委員館は、幹事館の近隣地区から選出されることが望ましい。
- (4) 編集委員館の任期は 1 年とし再任を妨げない。
3. (1) 編集委員館は、それぞれの所属する各部会の記事の提出を担当する。
- (2) 総会当番館は、総会記事を担当する。
- (3) 幹事館は、編集に関する事務を担当する。
4. 本協議会誌発行のため、印刷代、送料、編集会議費、原稿執筆等謝礼は、毎年会費の内から支弁する。
5. 本協議会誌に掲載された論文・記事は、九州地区大学図書館協議会ホームページに掲載することとする。

## 九州地区大学図書館協議会表彰規程

(目 的)

第 1 条 この規程は、九州地区大学図書館協議会（以下「協議会」という。）に加盟の大学図書館職員を表彰するため、必要な事項を定めることを目的とする。

(表彰を受ける者)

第 2 条 表彰は、次の各号の 1 に該当し、かつ勤務成績が良好である者について行う。

- (1) 勤務期間 20 年に達した者
- (2) 勤務期間 20 年以上の者で退職または転職した者
- (3) 図書館学の研究、調査等にすぐれた業績のあった者

(表彰状の授与)

第 3 条 表彰は、協議会が別紙様式による表彰状を授与することによって行う。

2 第 2 条に該当する者については、前項の表彰状にあわせて記念品を贈呈することができる。

(被表彰者の選考)

第 4 条 表彰をうける者は、所属図書館長の推薦（別紙様式による）に基づき、表彰委員会が選考し、協議会の総会の承認を経て決定する。

(表彰委員会)

第5条 表彰委員会は、国立、公立、私立及び私立短大の各部会からの推薦により選出された表彰委員館各1館で構成し、任期は1年として再任を妨げない。

(表彰の日)

第6条 表彰は、協議会の総会において行う。

(勤務期間の計算)

第7条 第2条第1号および第2号の勤務期間は、国公立大学図書館およびその他の図書館等に在職した期間とし、10年以上を加盟の大学図書館等に勤務したものでなければならない。

2 次の各号に掲げる期間は、勤務期間から除算する。

(1) 休職の期間（公傷病の期間は除く）

(2) 懲戒処分により停職された期間

(雑 則)

第8条 この規程に定めるもののほか、表彰の実施に関する必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、昭和42年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和55年5月9日から施行する。

附 則

この規程は、平成9年4月25日から施行する。

附 則

この規程は、平成11年4月23日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月18日から施行する。



文書番号

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会幹事館

大学附属図書館長 殿

大学（附属）図書館長

○ ○ ○ ○

## 平成 年度表彰者の推薦について

下記の者を本年度の総会における被表彰者として推薦しますのでよろしくお取り計らい願います。  
なお、別紙のとおり表彰者調書を提出します。

# 表彰者調書

大学（附属）図書館

職名		ふりがな 氏名		生年月日	年 月 日
表彰の区分	第2条第1号 第2条第2号 第2条第3号				
勤務成績					
第7条第2項第2号該当の有無 有 ・ 無					
履 歴 事 項					
年 月 日	勤 務 内 容 等	勤 務 期 間			
		加盟館での 勤 務 期 間	その他の図書館 等での勤務期間		
~		年 月 日	年 月 日		
~					
~					
~					
~					
~					
~					
~					
~					
~					
~					
計					
					合計 年 月 日

- 注 (1) 勤務期間の計算は暦日数によるものとし日を月に換算するときは30日をもって1月とすること。  
 (2) 第7条第2項各号の除算期間は朱書すること。  
 (3) 第2条第3号に該当する場合は、「勤務成績」欄は「業績」と書きかえて記入し、参考となる資料等を添付すること。

表彰状様式(1)第2条第1号および第2号該当者

## 表 彰 状

殿

あなたは 年のながい間大学図書館関係の業務に精励されその功労はまことに大きいものがあります。

よってここに記念品を贈り表彰します。

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会

表彰状様式(2)第2条第3号該当者

## 表 彰 状

殿

あなたは図書館学の研究調査に精励されその向上発展に貢献されたことはまことに顕著なものがあります。

よってここに記念品を贈り表彰します。

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会

## 研修会の補助に関する申合せ

平成6年9月20日決定  
平成7年9月1日改正  
平成8年4月24日改正  
平成9年4月25日改正  
平成10年4月25日改正  
平成15年4月25日改正  
九州地区大学図書館協議会

地区の大学図書館活動を発展させるため、研修会、講演会等（以下「研修会」という。）の経費を補助する申合せ事項を次のとおり定める。

1. 研修会経費を補助する対象は、九州地区大学図書館協議会に加盟している大学図書館が主体となって構成する県又は地区単位の組織とし、別紙のとおりとする。
2. 補助する経費の金額は、年間1組織に対して3万円を限度とする。
3. 研修会に要する経費の補助を受けようとするときは、別記様式による申請書を幹事館に提出するものとする。
4. 経費の補助を受けた組織は、本協議会誌に活動報告を掲載するものとする。
5. 経費の支出は、積立金会計を適用する。
6. 新たな組織から経費の補助の申し出があったときは、総会において承認を得るものとする。
7. これに関する事務は、幹事館で行う。

### 別紙

#### 経費を補助する県又は地区単位の組織

1. 福岡県・佐賀県大学図書館協議会（北部地区）
2. 福岡県・佐賀県大学図書館協議会（福岡地区）
3. 福岡県・佐賀県大学図書館協議会（南部地区）
4. 長崎県大学図書館協議会
5. 熊本県大学図書館協議会
6. 大分県大学図書館協議会
7. 宮崎県大学図書館協議会
8. 鹿児島県大学図書館協議会
9. 沖縄県大学図書館協議会



別記様式

## 平成 年度九州地区大学図書館協議会・研修会経費補助申請書

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会

幹事館

殿

組 織 名

代 表 者

(所属大学)

九州地区大学図書館協議会の研修会経費の補助を受けたく、下記のとおり申請します。

記

研 修 会 名 及 び 内 容	
開 催 期 間	自 平成 年 月 日 ( ) 時 分 至 平成 年 月 日 ( ) 時 分
開 催 場 所	
参 加 機 関 数	
参 加 人 数	
必 要 経 費 (具体的に)	ア. 講 師 謝 金 _____ イ. 資 料 代 金 _____ ウ. 会 場 借 上 費 _____ エ. そ の 他 _____ 合 計
連 絡 担 当 者	氏 名 _____ 職 _____ 電 話 _____

研修内容は、大学図書館活動を促進させるテーマであること。

## 副幹事館の役割

平成10年8月31日

幹事館・副幹事館会議

### 1 通常時

1. 年度の事業・活動についての立案・協議
2. 所属部会との連絡調整と情報の提供
3. 入会の勧誘等、協議会の広報（特に所属部会の各大学に対して）
4. ホームページ充実のための提言等、意見具申

### 2 会誌発行時

各部会から編集委員館は選出されているため、特に役割はないと思うが  
・所属部会の情報（研究発表等、原稿情報）の提供等

### 3 総会時

1. 副議長職に館長を選出等、当番館及び幹事館と協力しての総会運営
2. 前日決定された各部会における役員館の事務局への連絡
3. 総会終了後、当番館作成の議事録の確認

### 4 その他

別段ある場合は、適宜副幹事館から提案

## 九州地区大学図書館協議会ホームページの運用について

平成10年8月31日

平成20年1月30日改正

幹事館・副幹事館会議

1. 九州地区大学図書館協議会ホームページ（以下、「ホームページ」という。）は、九州大学附属図書館のサーバに置く。

（URL <http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/qkyogikai/>）

2. ホームページの管理、維持（デザイン・構成を含む）は、九州地区大学図書館協議会事務局（以下、「事務局」という。）が行う。
3. ホームページに掲載する事項は当面以下のものを中心に構成するものとし、それぞれ以下の館が作成する。

トピックス&NEWS

加盟館、各設置部会毎協議会、各県毎協議会等からの原稿に基づき事務局が作成

総会議事録は総会当番館が原稿を作成

加盟館一覧 事務局が作成

役員館一覧 事務局が作成

当番館一覧 事務局が作成

九州地区大学図書館協議会誌

事務局が作成（論文等執筆者に対しては原稿依頼時にホームページ掲載方の承諾を得るものとする。）

地区内の図書館活動

各設置部会毎の図書館協議会等及び各県毎協議会が作成

各種関連資料集 事務局が作成

関連サイトへのリンク集 事務局が作成

地区内各館の相互利用案内 各加盟館からの原稿に基づき事務局が作成

フォーラムページ

協議会が設定するテーマに対する加盟館からの自由な意見・回答のページで、投稿は直接電子メールによる

4. 「3.」のほか、ホームページに文書・記事等の掲載を希望する副幹事館及び加盟館は、HTML形式等で原稿を作成し、事務局に送付するものとする。

事務局は内容を確認のうえ、ホームページに掲載する。

## 九州地区大学図書館協議会加盟館一覧

23.1.1 現在

	館名	郵便番号	所在地	電話番号 ( )内はFAX番号
国立	九州工業大学 附属図書館 (館長 鶴田隆治, 事務長 石丸克巳)	804-8550	北九州市戸畑区仙水町1の1	093-884-3072 (093-884-3075)
	福岡教育大学 附属図書館 (館長 池田 修, 学術情報課長 小川 稔)	811-4192	宗像市赤間文教町1番5号	0940-35-1257 (0940-35-1705)
	九州大学 附属図書館 (館長 川本芳昭, 事務部長 濱崎修一)	812-8581	福岡市東区箱崎6丁目10の1	092-642-2325 (092-642-2330)
	佐賀大学 附属図書館 (館長 稲岡 司, 学術研究協力部長 川上敏彦)	840-8502	佐賀市本庄町1	0952-28-8902 (0952-28-8909)
	長崎大学 附属図書館 (館長 柴多一雄, 学術情報部長 西山常清)	852-8521	長崎市文教町1の14	095-819-2193 (095-819-2196)
	熊本大学 附属図書館 (館長 入口紀男, 教育研究推進部長 島田正俊)	860-8555	熊本市黒髪2丁目40の1	096-342-2213 (096-342-2210)
	大分大学 学術情報拠点 (拠点長 伊藤哲郎, 研究・社会連携部長 松岡 壽)	870-1192	大分市大字旦野原700	097-554-7482 (097-554-7488)
	宮崎大学 附属図書館 (館長 原田 宏, 情報図書部長 上村茂樹)	889-2192	宮崎市学園木花台西1丁目1	0985-58-7759 (0985-58-2896)
	鹿児島大学 附属図書館 (館長 井上佳朗, 学術情報部長 長友良維)	890-0065	鹿児島市郡元1丁目21の35	099-285-7415 (099-285-7413)
	鹿屋体育大学 附属図書館 (館長 西園秀嗣, 学術図書情報課長 吉田英明)	891-2393	鹿屋市白水町1	0994-46-4874 (0994-46-4157)
琉球大学 附属図書館 (館長 高良倉吉, 事務部長 金城孝夫)	903-0214	中頭郡西原町字千原1	098-895-8153 (098-895-8154)	
公立	北九州市立大学 学術情報総合センター (センター長 田村慶子, 課長 江上照明)	802-8577	北九州市小倉南区北方4丁目2の1	093-964-4404 (093-964-4437)
	九州歯科大学 附属図書館 (館長 柿木保明, 学務部長 川原利三)	803-8580	北九州市小倉北区真鶴2丁目6の1	093-582-1131 (093-583-7388)
	北九州学術研究都市 学術情報センター (学術情報担当部長 都築信男, 学術情報担当課長 平野富士男)	808-0135	北九州市若松区ひびきの1番3号	093-695-3150 (093-695-3152)
	福岡女子大学 附属図書館 (館長 森 邦昭, 学務部長 岩田睦博)	813-8529	福岡市東区香住ヶ丘1丁目1の1	092-661-2411 (092-661-2416)
	福岡県立大学 附属図書館 (館長 古橋啓介, 学務部長 鬼丸健二)	825-8585	田川市伊田4395	0947-42-1760 (0947-42-9457)
	長崎県立大学 附属図書館 (館長 真森直樹, 佐世保校館長 阿部律子, 佐世保校図書課長 寺田勝嘉, シーボルト校図書課長 吉野康弘)	858-8580	佐世保市川下町123	0956-47-5958 (0956-26-2100)
	熊本県立大学 学術情報メディアセンター (センター長 津曲 隆, 事務長 田中 彰)	862-8502	熊本市月出3丁目1番100号	096-321-6614 (096-383-2999)
	大分県立芸術文化短期大学 附属図書館 (館長 根之木英二, 図書管理グループ 伊達和男)	870-0833	大分市上野丘東1の11	097-545-4235 (097-545-4235)
	大分県立看護科学大学 附属図書館 (館長 市瀬孝道, 統括部長 児玉雅範)	870-1201	大分県大分市大字廻栖野2944-9	097-586-4330 (097-586-4373)
	宮崎公立大学 附属図書館 (館長 山口裕司, 事務長 染矢典幸)	880-8520	宮崎市船塚1丁目1番地2	0985-20-4814 (0985-20-4806)
宮崎県立看護大学 附属図書館 (館長 布施裕二, 総務課長 高橋伊津子)	880-0929	宮崎市まなび野3-5-1	0985-59-7756 (0985-59-7773)	
鹿児島県立短期大学 附属図書館 (館長 朝日吉太郎, 副館長 愛甲照子)	890-0005	鹿児島市下伊敷1丁目52番1号	099-220-1111 (099-220-1115)	



	館名	郵便番号	所在地	電話番号 ( )内はFAX番号
公立	沖縄県立看護大学 附属図書館 (館長 嘉手苺英子, 主査 幸地 哲)	902-0076	那覇市与儀1-24-1	098-833-8806 (098-833-5134)
	沖縄県立芸術大学 附属図書・芸術資料館 (館長 安里 進, 主任 加山佳弥)	903-8602	那覇市首里当蔵町1-4	098-882-5038 (098-882-5068)
	名城大学 附属図書館 (館長 高宮城繁, 図書課参与 又吉 純)	905-8585	沖縄県名護市字為又1220-1	0980-51-1062 (0980-51-1065)
私立	西日本工業大学 図書館 (館長 堤 昌文, 課長 宗広明則)	800-0394	福岡県京都市都荻田町新津1-11	0930-23-7729 (0930-24-7900)
	西南女学院大学 図書館 (館長 谷川弘治, 課長 渡橋英子)	803-0835	北九州市小倉北区井堀1丁目3の5	093-583-5959 (093-592-1885)
	九州国際大学 図書館 (館長 富永 猛, 室長 峰 日出人)	805-8512	北九州市八幡東区平野1丁目6の1	093-671-8919 (093-671-8920)
	九州共立大学 附属図書館 (館長 森川壽人, 業務課長 古賀 進)	807-8585	北九州市八幡西区自由ヶ丘1の8	093-693-3036 (093-603-2260)
	九州女子大学・短期大学 附属図書館 (館長 高橋 昇, 業務課長 松尾伸二)	807-8586	北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1	093-693-3124 (093-603-0494)
	福岡工業大学 附属図書館 (館長 赤木文男, 事務長 武 哲也)	811-0295	福岡市東区和白東3-30-1	092-606-0691 (092-606-7389)
	福岡女学院大学 図書館 (館長 二階堂 整, 課長 鶴 典子)	811-1313	福岡市南区臼佐3丁目42の1	092-575-6402 (092-575-4605)
	九州産業大学 図書館 (館長 横山秀司, 事務部長 岩佐哲朗)	813-8503	福岡市東区松香台2丁目3の1	092-673-5382 (092-673-5999)
	福岡大学 図書館 (館長 平今元章, 事務部長 石田 積)	814-0180	福岡市城南区七隈8丁目19の1	092-871-6631 (092-865-3794)
	中村学園大学 図書館 (館長 藤田 守, 図書課長 猿渡健一)	814-0198	福岡市城南区別府5丁目7の1	092-851-2573 (092-841-7762)
	西南学院大学 図書館 (館長 尾上修悟, 事務部長 伊藤邦厚)	814-8511	福岡市早良区西新6丁目2の92	092-823-3426 (092-823-3480)
	第一薬科大学 図書館 (館長 原 千高, 事務職員 原 直好)	815-8511	福岡市南区玉川町22の1	092-541-0161 (092-553-5698)
	九州情報大学 図書館 (館長 大野典昭, 図書館司書 藤理恵子)	818-0117	太宰府市宰府6丁目3番1号	092-928-4000 (092-928-3200)
	筑紫女学院大学・短期大学部 附属図書館 (館長 木村政伸, 課長 福田千代子)	818-0192	太宰府市石坂2丁目12の1	092-925-9910 (092-925-3318)
	福岡国際大学・福岡女子短期大学 図書館 (館長 大里栄子, 主査 大橋祐子)	818-0193	太宰府市五条4丁目16-1	092-922-3604 (092-922-3596)
	久留米工業大学 図書館 (館長 渡邊孝司, 事務室長 萩尾文子)	830-0052	久留米市上津町2228-66	0942-22-2345 (0942-22-2385)
	聖マリア学院大学 図書館 (館長 井手 信, 司書 山口真由美)	830-8558	久留米市津福本町422番地	0942-37-1138 (0942-37-1138)
	久留米大学 附属図書館 (館長 遠山 潤, 課長 熊谷まゆみ)	839-8502	久留米市御井町1635	0942-44-4015 (0942-43-0348)
	保健医療経営大学 情報メディアセンター図書館 (センター長 川島秀樹, 図書係 井上 恵)	835-0018	みやま市瀬高町高柳960番地4	0944-67-7007 (0944-63-3003)
	西九州大学 附属図書館 (館長 酒井 出, 課長 増田定次)	842-8585	神崎市神崎町尾崎4490-9	0952-52-4191 (0952-53-7869)
活水女子大学 図書館 (館長 徳永幸子, 課長 森 茂樹)	850-8515	長崎市東山手町1の50	095-822-4107 (095-823-3701)	



	館名	郵便番号	所在地	電話番号 ( )内はFAX番号
私立 短大	九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 図書館 (館長 山田千秋, 図書課長 小林由憲)	803-8511	北九州市小倉北区下到津5の1の1	093-561-3541 (093-592-6184)
	九州大谷短期大学 図書館 (館長 斉藤英雄, 情報課長 坂川和彦)	833-0054	福岡県筑後市蔵数495-1	0942-53-9893 (0942-53-9893)
	中九州短期大学 附属図書館 (館長 田中善典, 事務職 段原佳子)	866-8502	八代市平山新町4438	0965-34-7651 (0965-43-7117)
	東九州短期大学 図書館 (館長 錦 萬代, 司書 釘丸知子)	871-0014	中津市大字一ツ松211	0979-22-2425 (0979-25-3935)
	別府溝部学園短期大学 図書館 (館長 田邊 勲, 司書 宗岡千尋)	874-8567	大分県別府市野田78	0977-66-0224 (0977-67-8133)
	鹿児島女子短期大学 附属図書館 (館長 瀬戸口 修, 課長 南谷 久)	890-8565	鹿児島市高麗町6の9	099-254-9195 (099-254-5914)
	鹿児島純心女子短期大学 図書館 (館長 三浦嘉久, 課長 西真知子)	890-8525	鹿児島市唐湊4丁目22の1	099-253-2677 (099-254-5247)

## 九州地区大学図書館協議会役員館一覧

年次 (回次)	幹事館	監査館	表彰委員館			編集委員館
昭和48年度 (24)	九州大学	福岡女子短大	国 公 私	福岡教育大学 長崎国際経済大学 福岡大学	佐賀大学 長崎県立女子短大 西南大学	
昭和49年度 (25)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	九州工業大学 長崎国際経済大学 西南大学	九州芸術工科大学 長崎県立女子短大 福岡大学	
昭和50年度 (26)	九州大学	西南大学	国 公 私	佐賀大学 北九州大学 久留米大学	長崎大学 大分県立芸術短大 熊本商科大学	
昭和51年度 (27)	九州大学	九州産業大学	国 公 私	九州芸術工科大学 九州歯科大学 久留米大学	大分大学 長崎国際経済大学 西南大学	
昭和52年度 (28)	九州大学	福岡大学	国 公 私	福岡教育大学 福岡女子大学 西南大学	鹿児島大学 熊本女子大学 九州産業大学	
昭和53年度 (29)	九州大学	九州芸術工科大学	国 公 私	佐賀大学 長崎県立女子短大 西南大学	九州芸術工科大学 長崎国際経済大学 久留米大学	
昭和54年度 (30)	九州大学	九州産業大学	国 公 私	九州芸術工科大学 北九州大学 九州産業大学	佐賀大学 九州歯科大学 久留米大学	
昭和55年度 (31)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	宮崎大学 福岡社会保育短大 西南大学	九州工業大学 大分県立芸術短大 熊本商科大学	
昭和56年度 (32)	九州大学	西南大学	国 公 私	福岡教育大学 熊本女子大学 九州産業大学	熊本大学 鹿児島県立短大 福岡大学	
昭和57年度 (33)	九州大学	福岡大学	国 公 私	長崎大学 北九州大学 八幡大学	鹿児島大学 福岡女子大学 熊本商科大学	
昭和58年度 (34)	九州大学	九州芸術工科大学	国 公 私	琉球大学 福岡社会保育短大 鹿児島経済大学	宮崎医科大学 鹿児島県立短大 八幡大学	
昭和59年度 (35)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	佐賀医科大学 長崎国際経済大学 中村学園大学	大分医科大学 長崎県立女子短大 西日本工業大学	
昭和60年度 (36)	九州大学	中村学園大学	国 公 私	宮崎大学 熊本女子大学 鹿児島経済大学	九州工業大学 大分県立芸術短大 西日本工業大学	
昭和61年度 (37)	九州大学	福岡女子短大	国 公 私	熊本大学 北九州大学 長崎総合科学大学	大分大学 福岡社会保育短大 第一薬科大学	
昭和62年度 (38)	九州大学	九州芸術工科大学	国 公 私	宮崎医科大学 福岡女子大学 九州東海大学	大分医科大学 九州歯科大学 沖縄国際大学	

年次 (回次)	幹事館	監査館	表彰委員館			編集委員館
昭和63年度 (39)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	佐賀医科大学 長崎国際経済大学 福岡大学	琉球大学 鹿児島県立短大 八幡大学	
平成元年度 (40)	九州大学	九州産業大学	国 公 私	九州芸術工科大学 長崎県立女子短大 西南大学	佐賀大学 熊本女子大学 中村学園大学	
平成2年度 (41)	九州大学	中村学園大学	国 公 私	福岡教育大学 北九州大学 九州産業大学	長崎大学 大分県立芸術文化短期大学 熊本商科大学	九州大学 大分医科大学 福岡女子大学 福岡大学 福岡女子短期大学
平成3年度 (42)	九州大学	福岡大学	国 公 私	九州工業大学 福岡県社会保育短期大学 久留米大学	鹿児島大学 長崎県立大学 西日本工業大学	九州大学 鹿屋体育大学 九州歯科大学 中村学園大学 筑紫女学園短期大学
平成4年度 (43)	九州大学	福岡女子短期大学	国 公 私	宮崎大学 福岡女子大学 鹿児島経済大学	大分大学 九州歯科大学 活水女子大学	九州大学 福岡教育大学 北九州大学 九州国際大学 東筑紫短期大学
平成5年度 (44)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	宮崎医科大学 熊本女子大学 活水女子大学	大分医科大学 鹿児島県立短期大学 鹿児島経済大学	九州大学 熊本大学 福岡女子大学 西南学院大学 筑紫女学園短期大学
平成6年度 (45)	九州大学	九州芸術工科大学	国 公 私	熊本大学 大分県立芸術文化短期大学 活水女子大学	佐賀医科大学 宮崎公立大学 鹿児島経済大学	九州大学 宮崎大学 福岡県立大学 九州産業大学 筑紫女学園短期大学
平成7年度 (46)	九州大学	九州産業大学	国 公 私	鹿屋体育大学 北九州大学 第一薬科大学	琉球大学 長崎県立大学 南九州大学	九州大学 九州工業大学 九州歯科大学 久留米大学 筑紫女学園短期大学
平成8年度 (47)	九州大学	西南学院大学	国 公 私	九州芸術工科大学 福岡女子大学 九州東海大学	佐賀大学 九州歯科大学 熊本学園大学	九州大学 大分大学 北九州大学 九州共立大学 西南女学院短期大学
平成9年度 (48)	九州大学	福岡教育大学	国 公 私	九州工業大学 熊本県立大学 九州女子大学	宮崎大学 鹿児島県立短期大学 久留米工業大学	九州大学 佐賀大学 九州歯科大学 福岡大学 西南女学院短期大学



年次 (回次)	幹事館	副 幹 事 館		監 査 館	表彰委員館	編集委員館
平成10年度 (49)	九州大学	国 公 私 短	九州芸術工科大学 福岡女子大学 九州国際大学 中九州短期大学	中村学園大学	福岡教育大学 長崎大学 福岡県立大学 長崎県立女子短期大学 西日本工業大学 筑紫女学園大学	九州大学 佐賀医科大学 福岡女子大学 第一薬科大学 福岡国際大学・ 福岡女子短期大学
平成11年度 (50)	九州大学	国 公 私 短	九州工業大学 大分県立芸術文化短期大学 鹿児島経済大学 沖縄キリスト教短期大学	福岡大学	鹿児島大学 大分県立芸術文化短期大学 別府大学 中九州短期大学	九州大学 佐賀大学 長崎大学 福岡県立大学 熊本工業大学 福岡国際大学・ 福岡女子短期大学
平成12年度 (51)	九州大学	国 公 私 短	九州工業大学 大分県立芸術文化短期大学 鹿児島国際大学 沖縄キリスト教短期大学	福岡女子大学	大分大学 宮崎県立大学 宮崎国際大学 中九州短期大学	九州大学 沖縄国際大学 宮崎医科大学 北九州大学 西南女学院大学 福岡国際大学・ 福岡女子短期大学
平成13年度 (52)	九州大学	国 公 私 短	福岡教育大学 宮崎公立大学 福岡工業大学 九州大谷短期大学	福岡教育大学	宮崎医科大学 北九州市立大学 筑紫女学園大学 沖縄キリスト教短期大学	鹿児島大学 九州歯科大学 西九州大学 活水女子短期大学 九州大学 九州女子大学
平成14年度 (53)	九州大学	国 公 私 短	福岡教育大学 宮崎公立大学 福岡工業大学 九州大谷短期大学	福岡工業大学	大分医科大学 熊本県立大学 九州情報大学 九州大谷短期大学	琉球大学 福岡県立大学 鹿児島純心女子大学 活水女子短期大学 九州大学 大分大学
平成15年度 (54)	九州大学	国 公 私 短	佐賀大学 北九州市立大学 九州共立大学 筑紫女学園大学・短期大学	筑紫女学園大学・短期大学	鹿屋体育大学 宮崎県立看護大学 九州ルーテル学院大学 筑紫女学園大学・短期大学	九州工業大学 福岡女子大学 九州看護福祉大学 西南女学院大学・ 短期大学 九州大学 宮崎大学
平成16年度 (55)	九州大学	国 公 私 短	佐賀大学 北九州市立大学 九州共立大学 筑紫女学園大学・短期大学	西南学院大学	熊本大学 福岡女子大学 志學館大学 東九州女子短期大学	福岡教育大学 九州歯科大学 南九州大学・ 南九州短期大学 西南女学院大学・ 短期大学

年次 (回次)	幹事館	副 幹 事 館		監 査 館	表彰委員館	編集委員館
平成17年度 (56)	九州大学	国 公 私 短	長 崎 大 学 熊 本 県 立 大 学 九 州 東 海 大 学 鹿 児 島 純 心 女 子 短 期 大 学	九州産業大学	琉 球 大 学 冲 縄 県 立 大 学 西 南 女 学 院 大 学 鹿 児 島 純 心 女 子 短 期 大 学	熊 本 大 学 北 九 州 市 立 大 学 西 日 本 工 業 大 学 鹿 児 島 純 心 女 子 短 期 大 学
平成18年度 (57)	九州大学	国 公 私 短	長 崎 大 学 熊 本 県 立 大 学 九 州 東 海 大 学 鹿 児 島 純 心 女 子 短 期 大 学	福岡国際大学・ 福岡女子短期大学	佐 賀 大 学 鹿 児 島 県 立 短 期 大 学 福 岡 女 学 院 大 学 九 州 栄 養 福 祉 大 学・東 筑 紫 短 期 大 学	鹿 屋 体 育 大 学 福 岡 県 立 大 学 筑 紫 女 学 園 大 学・短 期 大 学 九 州 栄 養 福 祉 大 学・東 筑 紫 短 期 大 学
平成19年度 (58)	九州大学	国 公 私 短	熊 本 大 学 宮 崎 県 立 看 護 大 学 福 岡 大 学 九 州 栄 養 福 祉 大 学・東 筑 紫 短 期 大 学	中村学園大学	九 州 工 業 大 学 九 州 歯 科 大 学 久 留 米 工 業 大 学 九 州 栄 養 福 祉 大 学・東 筑 紫 短 期 大 学	福 岡 教 育 大 学 福 岡 女 子 大 学 九 州 女 子 大 学・短 期 大 学 九 州 栄 養 福 祉 大 学・東 筑 紫 短 期 大 学
平成20年度 (59)	九州大学	国 公 私 短	熊 本 大 学 宮 崎 県 立 看 護 大 学 福 岡 大 学 九 州 栄 養 福 祉 大 学・東 筑 紫 短 期 大 学	福岡教育大学	宮 崎 大 学 大 分 県 立 看 護 科 学 大 学 別 府 大 学 九 州 栄 養 福 祉 大 学・東 筑 紫 短 期 大 学	長 崎 大 学 九 州 歯 科 大 学 鹿 児 島 国 際 大 学 九 州 栄 養 福 祉 大 学・東 筑 紫 短 期 大 学
平成21年度 (60)	九州大学	国 公 私 短	大 分 大 学 福 岡 県 立 大 学 九 州 産 業 大 学 九 州 大 谷 短 期 大 学	福岡女子大学	福 岡 教 育 大 学 宮 崎 公 立 大 学 福 岡 国 際 大 学・福 岡 女 子 短 期 大 学 鹿 児 島 女 子 短 期 大 学	鹿 児 島 大 学 北 九 州 市 立 大 学 西 南 女 学 院 大 学 中 九 州 短 期 大 学
平成22年度 (61)	九州大学	国 公 私 短	大 分 大 学 福 岡 県 立 大 学 九 州 産 業 大 学 九 州 大 谷 短 期 大 学	福 岡 大 学	長 崎 大 学 福 岡 女 子 大 学 鹿 児 島 純 心 女 子 大 学 鹿 児 島 女 子 短 期 大 学	九 州 工 業 大 学 北 九 州 学 術 研 究 都 市 学 術 情 報 セ ン ター 活 水 女 子 大 学 九 州 栄 養 福 祉 大 学・東 筑 紫 短 期 大 学
平成23年度 (62)		国 公 私 短				

## 九州地区大学図書館協議会総会当番館一覧

回次	年度	県別	大 学
1	25	福 岡	九 州 大 学
2	26	熊 本	熊 本 大 学
3	27	長 崎	長 崎 大 学
4	28	佐 賀	佐 賀 大 学
5	29	鹿児島	鹿 児 島 大 学
6	30	宮 崎	宮 崎 大 学
7	31	大 分	大 分 大 学
8	32	福 岡	西 南 学 院 大 学
9	33	福 岡	九 州 大 学
10	34	熊 本	熊 本 大 学
11	35	福 岡	九 州 工 業 大 学
12	36	長 崎	長 崎 大 学
13	37	福 岡	福 岡 大 学
14	38	佐 賀	佐 賀 大 学
15	39	福 岡	福 岡 教 育 大 学
16	40	宮 崎	宮 崎 大 学
17	41	福 岡	八 幡 大 学
18	42	鹿児島	鹿 児 島 大 学
19	43	福 岡	九 州 大 学
20	44	熊 本	熊 本 商 科 大 学
21	45	福 岡	久 留 米 大 学
22	46	大 分	大 分 大 学
23	47	福 岡	北 九 州 大 学
24	48	長 崎	長 崎 大 学
25	49	福 岡	九 州 産 業 大 学
26	50	佐 賀	佐 賀 大 学
		"	佐 賀 龍 谷 短 期 大 学
27	51	沖 縄	琉 球 大 学
28	52	福 岡	九 州 大 学
29	53	大 分	大 分 大 学
30	54	宮 崎	宮 崎 大 学
31	55	福 岡	九 州 歯 科 大 学
		"	福 岡 女 子 大 学
		"	福 岡 県 社 会 保 育 短 期 大 学
32	56	熊 本	熊 本 女 子 大 学
33	57	鹿児島	鹿 児 島 大 学

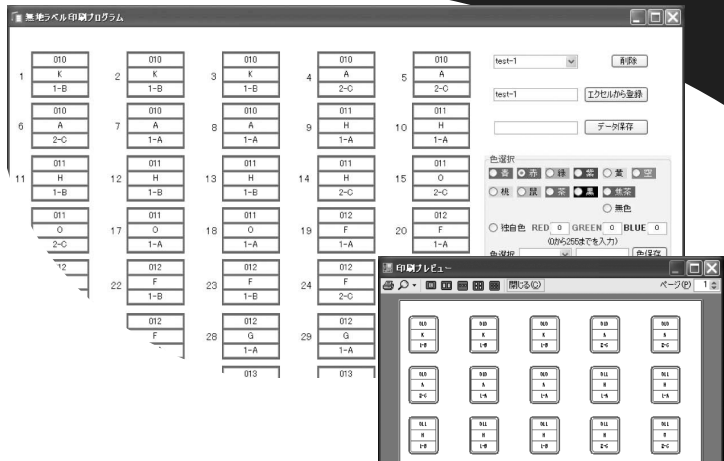
回次	年度	県別	大 学
33	57	鹿児島	鹿 児 島 県 立 短 期 大 学
		"	鹿 児 島 経 済 大 学
34	58	福 岡	西 日 本 工 業 大 学
35	59	長 崎	長 崎 大 学
36	60	宮 崎	宮 崎 医 科 大 学
		大 分	大 分 県 立 芸 術 短 期 大 学
		宮 崎	南 九 州 大 学
		長 崎	純 心 女 子 短 期 大 学
37	61	福 岡	九 州 芸 術 工 科 大 学
38	62	佐 賀	佐 賀 医 科 大 学
39	63	沖 縄	琉 球 大 学
40	平成元	福 岡	北 九 州 大 学
41	2	大 分	大 分 医 科 大 学
42	3	鹿児島	鹿 屋 体 育 大 学
43	4	福 岡	西 南 学 院 大 学
44	5	熊 本	九 州 東 海 大 学
45	6	宮 崎	宮 崎 産 業 経 営 大 学
46	7	福 岡	九 州 工 業 大 学
47	8	長 崎	長 崎 大 学
48	9	鹿児島	鹿 児 島 経 済 大 学
49	10	福 岡	福 岡 女 子 大 学
50	11	佐 賀	佐 賀 大 学
51	12	沖 縄	沖 縄 国 際 大 学
52	13	福 岡	九 州 女 子 大 学
53	14	大 分	大 分 大 学
54	15	宮 崎	宮 崎 大 学
55	16	福 岡	福 岡 教 育 大 学
56	17	中 部	熊 本 大 学
57	18	鹿児島	鹿 屋 体 育 大 学
58	19	福 岡	九 州 大 学
59	20	長 崎	長 崎 大 学
60	21	沖 縄	琉 球 大 学
61	22	福 岡	福 岡 県 立 大 学
		"	九 州 歯 科 大 学
		"	北九州学術研究都市学術情報センター
62	23	佐 賀	佐 賀 大 学

細枠三段対応

# ラベル印刷用 無料ソフト



<http://www.itin.jp/download/>

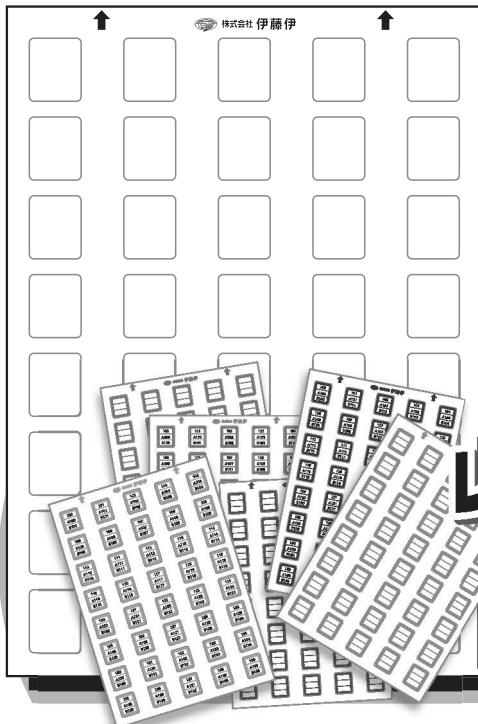


細枠三段無地ラベルに

ご利用に合わせて

- 既存10色より **枠色指定が可能!**
- **枠色を自由に作ることができます!**

<無地>



細枠三段枠入ラベルに

- **文字だけの印字ももちろん可能です!**



## レーザープリンター用ラベル 細枠三段 (枠付10色/無地)

A4  
サイズ

レーザープリンター対応の便利な糊付ラベルです。  
※ インクジェットプリンターでも兼用してお使いいただけます。

伊藤伊九州(Lキスト) TEL (092)863-0128 FAX (092)863-0127



図書館用品専門メーカー

株式会社 **伊藤伊**

〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-10  
TEL (03)5689-6230(代) FAX (03)5689-6232

伊藤伊

検索

<http://www.itin.jp>  
E-mail info@itin.jp

# ジュンク堂書店

淳久堂書店

外商取扱は全国の店舗でご利用いただけます！

☆福岡店では九州地区のブックハンティングを歓迎します  
1～4階フロア・1650坪の店舗で選書が可能です(要予約)

★重版未定品や絶版の商品も全国店舗の在庫からお調べしております

福岡外商 お問い合わせ先 E-mail [fk-gai@junkudo.co.jp](mailto:fk-gai@junkudo.co.jp)

福岡市中央区天神 1-10-13 天神 MMT ビル

電話・092-738-3405 F A X・092-738-3230

Gale社を中心とするeBook形式のレファレンス文献  
約4000タイトルをパソコン上で自在に検索・自由に閲覧

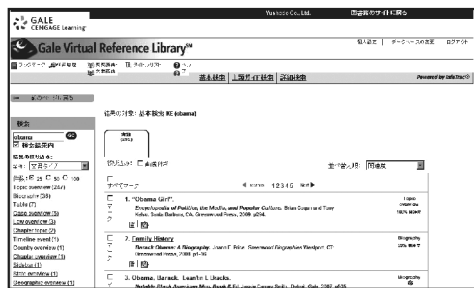
## Gale Virtual Reference Library

伝記・文学・歴史(世界史・アメリカ史・ヨーロッパ史・文化史など)・社会学・宗教・ビジネス・自然科学・医学などあらゆる分野を網羅したeBookレファレンスの決定版。選択タイトルは自由に組み合わせ可能です。

ぜひ詳細カタログをご請求下さい。

- ◆1タイトルから購入でき、既に購入されている場合でも、途中から別タイトルが随時追加可能。
- ◆eBook形式なので設置場所不要。キャンパス内ならどこからでもアクセスOK。
- ◆購入タイトルを一度に検索。調査時間を大幅に短縮。
- ◆検索結果はHTML文書で表示されるので、ワープロ・表形式画面に簡単に貼り付け可能。
- ◆PDF形式で書籍のレイアウトも閲覧可能。
- ◆11ヶ国語に翻訳可能。

【使いやすい日本語インターフェイス】



価格・詳細は小社HP ([www.yushodo.co.jp/y\\_gvrl](http://www.yushodo.co.jp/y_gvrl)) をご覧になるか、小社営業部までお問い合わせ下さい。



株式会社 雄松堂書店  
www.yushodo.co.jp

〒160-0002 東京都新宿区坂町27 Tel: 03-3357-1411  
Fax: 03-3356-8730 E-mail: [sales@yushodo.co.jp](mailto:sales@yushodo.co.jp)  
〒604-8101 京都市中京区御池通柳馬場角 京都朝日ビルディング5F  
Tel: 075-222-0165  
Fax: 075-256-2032 E-mail: [kb@yushodo.co.jp](mailto:kb@yushodo.co.jp)

無料  
トライアル  
実施中



安心と先進で社会文化に貢献する。

## 通路安全装置

新

発

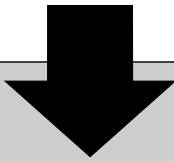
売

### メカニカル・ストッパー

手動式移動棚のユーザー様の声を頂き、利用者の安全性をさらに高めた通路安全装置を実現いたしました。

#### お客様の声

- ◎ ついついロックをせずに通路内に入ってしまった。
- ◎ 第三者に気付かれずにロックを解除されたことがある。
- ◎ 本が落ちていた事を知らずに移動棚を動かして本が破損した。



#### 人の安全確認

大型のバーは、靴のつま先に触れると、安全に止まります。



#### 物の安全確認

大型のバーは通路内の落下物や障害物に触れると、安全に止まります。



空間をデザインする  
**KONGO**  
www.kongo-corp.co.jp

**金剛株式会社**

熊本本社／熊本市上熊本3-8-1 (096) 355-1111 (代) 東京支社／港区高輪2-18-6 ポーラ高輪ビル (03) 5488-5566 (代)  
営業拠点／仙台・東京・静岡・名古屋・金沢・大阪・岡山・広島・高松・北九州・福岡・大分・佐賀・長崎・熊本・宮崎・鹿児島・沖縄 工場／熊本

電子ジャーナルホスティングサイト

# PierOnline ピアオンライン

PierOnlineは国内の学術出版社が発行する医学・薬学・看護系の学術誌を電子ジャーナルとして提供するホスティングサイトです。ご利用は、提供される電子ジャーナル1誌ごとに年間ご契約が可能です。冊子体(本誌)の非購読者は論文単位でのPayPerViewご購入が可能です。

## インターフェースが 新しくなりました!

NEW!



アクセスはこちらから ↓

<http://www.pieronline.jp/>

### 収録タイトル



- ▶ 癌と化学療法社
  - ・癌と化学療法
  - ・Liver Cancer
  - ・Biotherapy
- ▶ (株)最新医学社
  - ・最新医学
- ▶ (株)南江堂
  - ・外科
- ▶ (株)メディカルレビュー社
  - ・PharmaMedica
  - ・ゲノム医学
- ▶ 医歯薬出版(株)
  - ・医学のあゆみ
- ▶ ライフサイエンス出版(株)
  - ・治療学
  - ・Therapeutic Research
  - ・薬理と治療

## PierOnline にメディカ出版より 22 誌が追加されました!



看護関係者向けのセミナーも数多く開催している、医学・看護専門のメディカ出版より、22 誌が PierOnline で閲覧できるようになりました。

日々のケアの悩みにも分かりやすくお答えしています。試験対策ページも掲載していますので、スキルアップにお役立て頂けます。

全誌パッケージのお得な価格をご用意しております。

### 便利な機能がたくさんあります

#### ● 検索機能の強化

複数の雑誌を一度にまとめて検索することができます。複数キーワードによるAND/OR検索や、出版年・出版社を指定したり、購読している雑誌のみに限定したりすることができ、効率的で漏れのない検索ができます。

#### ● 検索条件の保存

よく検索するキーワードは、検索条件を保存しておくことで簡単に再検索できます。また、メールでアラートを受け取ることもできます。

#### ● 最新目次アラートサービス

簡単な登録で、最新の目次情報がメールで届くようになります。また、RSS機能もご利用いただけます。

#### ● SNS と連携

SNSやTwitterと連携していますので、簡単に情報を発信・共有することができます。

#### ● お気に入りリスト

気になった論文はワンクリックでお気に入りリストに保存しておくことができます。

#### ● 人気論文のランキング表示

アクセスの多い論文をランキング形式で表示しますので、どんな論文が注目されているのかすぐに把握できます。

#### ● 著作権許諾 (リプリント・複写・転載)

著作権許諾依頼をオンライン上で簡単に申し込むことができるようになります。

#### ● 利用統計

COUNTERに準拠した利用統計をとることができます。次年度購読の資料としてご利用いただけます。

#### ● OPEN URL に対応

二次資料データベース (PubMed, 医中誌Web, JDream II など) とのリンクング、リンクリゾルバからの直接リンクが可能です。

### 「医学のあゆみ」がPayPerViewでご利用できます



「医学のあゆみ」は基礎と臨床を結び、いち早く今日の動向を伝える総合医学週刊誌です。医学に関する最新情報を基礎・臨床の両面から総合的に幅広い視点で紹介する医学総合雑誌のバイオニアで本国最大の情報量を誇り、医学専門誌としては国内唯一の週刊誌となっています。

※PayPerViewのみ。年間購読は利用いただけません

### 電子ジャーナルのみでご契約できます



PierOnlineでは、通常冊子体の年間購読がご契約の条件となっておりますが、「Liver Cancer」と「Biotherapy」は、冊子体のご購読は必要なく、PierOnlineで電子ジャーナルのみのご契約が可能です。

### 配信時期は雑誌により異なります

冊子体(本誌)発行日より閲覧可能	発行日より1ヶ月後	発行日より6ヶ月後	発行日より1年後
癌と化学療法、最新医学、Liver Cancer、Biotherapy、PharmaMedica、ゲノム医学、治療学、Therapeutic Research、薬理と治療	外科	メディカ出版22誌	医学のあゆみ

Content Solutions Company

**SUNMEDIA 株式会社サンメディア**

e-mail : [pier@sunmedia.co.jp](mailto:pier@sunmedia.co.jp)

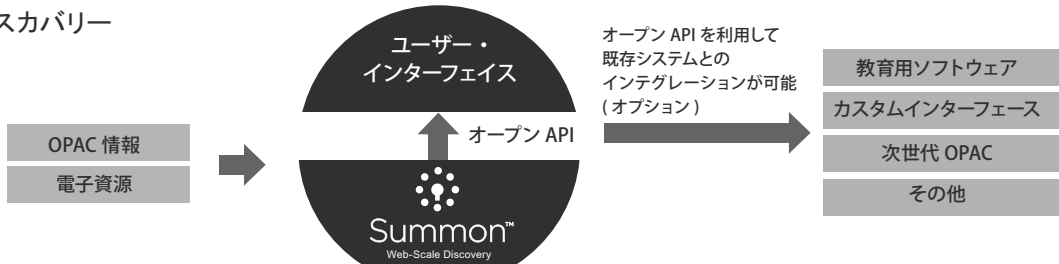


# Summon™

ウェブスケール・ディスカバリー

まるで Google のように、図書館がもつさまざまなリソースを検索

Summon は統合検索や次世代 OPAC を越える全く新しい検索サービスです。グーグルのようなシンプルなインターフェイスから図書館独自の広範囲で信頼性の高い情報へすばやくアクセスすることができます。



- 図書館カタログ
- e-Journal 論文
- データベース
- 新聞
- 電子ブック
- 学位論文
- 機関リポジトリ
- 会議録
- 灰色文献
- レポート
- 引用文献
- 業界誌

図書館がもつリソース

### POINT 1

#### すべてのリソースを一度に検索

ひとつの検索ボックスにキーワードを入力するだけで、図書館のもつすべてのリソースを検索することができます。データベース毎に検索する必要はありません。

### POINT 2

#### 信頼のおけるコンテンツだけを検索

検索対象はすべて図書館のコンテンツです。信頼性が高く、しかも入手可能なコンテンツにのみアクセスすることができます。

### POINT 3

#### 瞬時に検索結果を表示

検索結果は、Google などの速さで、しかも関連性順や日付順などお好みの方法で表示されます。

利用率が向上することで、コンテンツを最大限に活用！

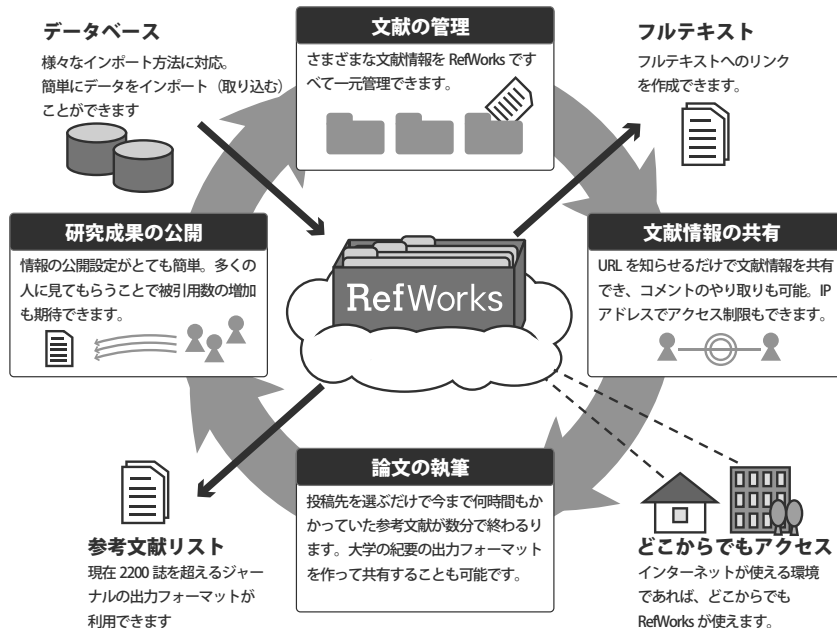
学術情報マネジメントツール



# RefWorks

RefWorks は、研究成果や電子リソースから収集した学術情報を蓄積・管理し、それらを共有化したり、情報発信するためのウェブサービスです。研究者、教職員、学生、図書館員などあらゆる利用者層のニーズに対応し、RSS など最新のウェブ情報発信技術とも連携しています。学生の情報リテラシー促進や、大学の研究情報基盤強化ツールのひとつとしてご利用いただけます。

## 学術研究の流れと RefWorks



## RefWorks 導入のメリット

- 常に最新版を利用できる**  
 オンラインツールですので、最新機能をバージョンアップ不要ですぐに利用できます。
- 日本語対応**  
 インターフェイス、対応データベース、参考文献フォーマットはすべて日本語に対応しています。
- 情報リテラシー教育ツールとして**  
 「どうやって情報を入力するか」だけでなく、入手した情報を「どう活用するか」という現在求められている情報リテラシー教育を行うのに最適なツールとしても RefWorks は注目を集めています。情報の価値を判断し、整理分析を適切に行い、有効に活用する能力を養う教育の実践をサポートします。
- RefWorks 2.0**  
 RefWorks はさらに直感的で便利な操作性を実現するため新しいインターフェイス RefWorks2.0 のリリースを予定しています。従来版の利用も引き続き選択可能です。(期間限定)

トライアルのお申込み、お問い合わせは

Content Solutions Company

**SUNMEDIA 株式会社サンメディア**

**e-Port**

**e-mail : e-port@sunmedia.co.jp**

東京本社 〒164-0012 東京都中野区本町 3-10-3 PORT ビル

大阪支社 〒550-0003 大阪市西区京町堀 1-3-3 肥後橋パークビル 4F

Tel : 03-3299-1575 Fax : 03-3374-1410

Tel : 06-6444-7720 Fax : 06-6444-7730

ご担当者様

Fusic Co.,Ltd.

株式会社 Fusic

mail : info@fusic.co.jp

http://fusic.co.jp

# 天童木工は木を知り尽くした 職人集団です。

職人達は、  
木を読み、  
木を使い分け、  
木を大事にする。

愚直な職人魂が最高の品質を生み出します。



おかげ様で70周年



Photo/Hirosuke Nagao

[www.tendo-mokko.co.jp](http://www.tendo-mokko.co.jp)

 **天童木工**

NALISは図書館の全業務を効率的にサポートする「図書館総合システム」です。

規模や運用に応じて、柔軟かつ拡張性に優れた構成が可能です。

NALISは3つの情報（①図書館業務情報 ②利用者・教員が発信する情報 ③統合・連携による情報）を有効活用して利用者を強力にサポートします。

## 『利用者・教員が発信する情報』



- ▶利用者・教員の書評・感想
- ▶教員お薦めの本
- ▶機関リポジトリシステムによる学術情報発信



## 『図書館業務情報』

- ▶新着情報
- ▶貸出ランキング
- ▶関連資料へのリンク

- ▶予約取寄
- ▶ドキュメントデリバリ

- ▶電子媒体資料
- ▶電子ブック
- ▶電子ジャーナル
- ▶学術情報
- ▶など
- ▶他大学所蔵
- ▶その他関連情報

## 『統合・連携による情報』

- ▶外部サイトリンク
- ▶Googleブック検索
- ▶WebcatPlus など
- ▶リンクリゾルバ(OpenURL)
- ▶横断検索

- 貸出ランキングや書評等を参考に資料を検索することができます。
- OPACからGoogleブック検索などの外部サイトへの連携が可能です。  
また、OpenURLを使ってその他の外部サイトと連携することも可能です。
- 従来の図書・雑誌に加えて、電子出版物も管理可能です。(目録データ取込み、OPAC公開)
- ドキュメントデリバリ(DDS)・予約取寄サービスを利用することで、紙媒体の資料も電子媒体資料  
同様、容易に入手することができます。
- 「図書購入依頼」, 「レファレンス照会」「SDI」などのサービスも提供できます。  
利用者自身が必要なサービスをカスタマイズできるポータル機能も充実しております。
- 「学術機関リポジトリシステム」により学術情報資源のメタデータをデータベース化し、  
OAI-PMHに準拠したメタデータの交換が行えます。  
変える力を、ともに生み出す。



NTT DATAグループ

お問合せ・ご相談は下記までどうぞ

株式会社NTTデータ九州 第一ビジネス事業部 公共ビジネス部 営業担当

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1-17-21 TEL : (092) 475-5129 / FAX : (092) 475-5152

URL: <http://www.livesolutions.info/nalis/index.html>



# Auto Lib.

自動化書庫・オートライブ

## 導入成果の確かさで ご好評をいただいています

オートライブの最大の特徴は、膨大な図書・資料を効率的に保管し合理的な検索・出納システムによって利用者が求めた情報を迅速に、的確に提供できることです。入出庫の速さとともに、図書のサイズ別フリーロケーションとダブルコンテナ格納方式の採用により高密度保管と高速出納を両立させました。

### オートライブの特長

- ▶利用者へのサービスが大幅に向上します。
- ▶すべての自動化により、大幅な省力効果が得られます。
- ▶保管密度が極めて高く、大きなスペースセービング効果が得られます。
- ▶コンピュータによる蔵書点検など管理レベルが飛躍的に向上します。
- ▶蔵書データとの照合・確認を簡単に行うことができます。



よりよい保管システムを提供する

 **日本ファイリング**

本社/〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-2 (新御茶ノ水アーバンビル) 支店/大阪・名古屋 営業所/札幌・仙台・大宮・横浜・広島・福岡

資料請求・お問い合わせは ▶ <http://www.nipponfiling.co.jp> ☎0120-808-977 電話受付/月～金(土・日・祝日を除く)9:00～17:00

# FUKUOKA KAIGAI LIMITED

洋書・洋雑誌・バックナンバー輸入販売



## 福岡海外株式会社

福岡市中央区天神4-1-18 〒810-0001

Tel: 092-741-2685 Fax: 092-741-8418

e-mail: fkaigai@lime.ocn.ne.jp

# 広がります あなたの未来 政府刊行物

探したい本はここで見つかる。  
政府刊行物のホームページ  
<http://www.gov-book.or.jp/>

## 政府刊行物サービス・ステーション

天神:福岡市中央区天神 4-5-10(チサン天神 1F)

TEL(092)721-4846

県庁:福岡市博多区東公園 7-7(福岡県庁 B1F)

TEL(092)641-7838

市役所:福岡市中央区天神 1-8-1(福岡市役所 B1F)

TEL(092)722-4861

北九州:北九州市小倉北区内 1-1(北九州市役所 1F)

TEL(093)582-4124

政府刊行物普及株式会社・福岡県官報販売所

福岡市中央区天神 4-5-17

TEL(092)761-1151 FAX(092)751-0385

okamura



## Media Runner

自動書庫システム【メディアランナー】

図書館施設の24時間利用を可能にする、新発想の閉架書庫。

閉架書庫は、一般的には蔵書の管理保管スペースとして設置されています。しかし、最近の動向として、図書館施設の24時間利用を前提に、自動書庫化する大学が増えています。オカムラでは、物流市場におけるノウハウを活かし、図書館施設に特化した自動書庫システムの「メディアランナー」を開発。収蔵される書籍は、ICタグによる自動検出機能で、迅速かつ確実なピックアップと再格納を可能にします。

無人貸し出し



ICタグ管理とタッチパネル操作



自動棚卸し



【西日本支社】

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1-3-3 明治安田渡辺ビル TEL: 092(482)8822 FAX: 092(482)8824

<http://www.okamura.co.jp/> お客様サービスセンター ☎ 0120-81-9060 受付時間 9:00~18:00(土・日・祝日を除く)

よい品は結局おトクです

**オカムラ**

株式会社 岡村製作所

知的創造性を高め、感性を刺激する空間。  
ライブラリーは知の集積から双方向コミュニケーションの場へ。



図書ラウンジ

ユビキタスネットワーク社会における新しいライブラリーの創造に向け、  
イトーキは知的好奇心や感性を刺激する先進空間づくりを総合的に提案します。

シンプルで機能的な構成で、進化する図書館  
ニーズにフレキシブルに対応するライブラリー家具。  
さまざまな空間にマッチする質の高い意匠  
性と拡張性で、先進の図書館をサポートします。



閲覧テーブル



書架



サービスカウンター

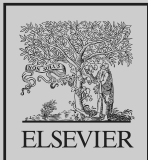


LANシート

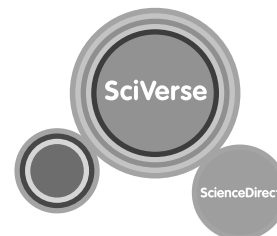
通信の電波をシート内に封じ込め、シート上に置いたPCのみ  
ネットワーク通信が可能となる新しいLANシステム。「コネクトレ  
ス」「セキュリティ」「簡単導入」を同時に実現します。

## 株式会社イトーキ

福岡支店 福岡市博多区店屋町6-17 〒812-0025 Telephone 092 281-4061  
お客様相談センター ☎0120-164177 URL <http://www.itoki.jp/>

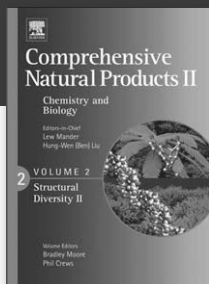


# エルゼビア サイエンス・ダイレクト レファレンスワーク & eBooks



すぐれた編集者と高い評価で定評ある  
エルゼビアのレファレンスワークをオンライン化

同時ユーザー数無制限、24時間いつでも、どこからでもアクセス！  
冊子体を所蔵するスペースの節約が可能に！



## Comprehensive Natural Products II: Chemistry and Biology

天然物化学全書 II

Edited by Mander & Liu

Print & Online

近年、天然物化学は生物学を筆頭に分子・構造生物学、化学、生化学、生命科学、薬学など幅広い研究分野のみならず、医療や創薬という産業的見地からもその重要性を増している。本書は、普遍的な部分は前版を踏襲しながら、最新の知見や研究成果を多くのカラー図版および40,000を超える参考文献と共に収録、加えて私達の生命組織体や、健康、医療への特有の効果の理解に革命をもたらす研究についても言及している。  
【対応冊子体情報：全10巻 約7,388ページ ISBN: 978-0-08-045381-1 2010年4月刊行】



## Comprehensive Toxicology 2e

毒性学全書 第2版

Edited by C. McQueen

Print & Online

本書は、毒性学の最も網羅的で広範な資料として、初版刊行以来10年以上にわたり好評を博してきた。この間の毒性学の目覚ましい進歩を反映させた第2版は、学術、医療、企業の毒性学者のための第一の情報源。単なる羅列ではなく、器官-系の形で体系化されており、利用も容易で、様々な化学物質の各器官への影響の検討や、毒性からの未知の毒物の実体解明などにも適する。  
【対応冊子体情報：全14巻 11,200ページ ISBN: 978-0-08-046868-6 2010年7月刊行】



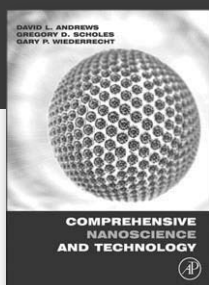
## Comprehensive Membrane Science and Engineering

膜科学工学全書

Edited by Drioli and Giorno

Print & Online

化学装置やその操作、性能の効率化、クリーン化の向上を目指すプロセス強化の必要性が着目されて久しいが、なかでも膜技術の進歩は、プロセス強化戦略に基づく産業の成長を支える重要な要素と見なされている。本書では、膜科学技術の基本的な現象、先端研究の動向に加え、化学的精製、天然ガス濃縮、人工臓器などへの最新の応用例などを50章余りに収録している。  
【対応冊子体情報：全4巻 2,000ページ ISBN: 978-0-44-453204-6 2010年11月刊行】



## Comprehensive Nanoscience and Technology

ナノ科学技術全書

Edited by Andrews and Scholes and Wiederrecht

Print & Online

多機能モバイル機器から創薬・新医療技術の確立等、ナノサイエンスは人類のライフスタイルに大きな変化をもたらしている。本書は、材料科学、化学、物理学、ライフサイエンスと幅広い分野にまたがるナノ科学技術全般に関する最新情報を網羅するだけでなく、異なる分野からの研究者・技術者にとって論文執筆に不可欠なエントリーポイントについてもカバーしている有用な書。  
【対応冊子体情報：全5巻 2,664ページ ISBN: 978-0-12-374390-9 2010年11月刊行】

\*掲載タイトルのほかにも数多くのタイトルを揃えております。詳細は下記までお問い合わせください。

内容に関するご照会、資料のご請求は下記弊社へご用命ください。

### エルゼビア・ジャパン株式会社

〒106-0044 東京都港区東麻布1-9-15 東麻布一丁目ビル4階

#### 電子図書館サービス

TEL: 03-5561-5034 / FAX: 03-5561-5047 / E-mail: jp.dls@elsevier.com

日本語ホームページ <http://japan.elsevier.com/products/sd/books/>

英語情報ページ <http://www.info.sciencedirect.com/books/>

※ご注文は図書館を通してお願いいたします。

#### 冊子体について

TEL: 03-5561-1051 / FAX: 03-5561-5047

E-mail: [jp.stbooks@elsevier.com](mailto:jp.stbooks@elsevier.com)

<http://elsevierdirect.com/> (書誌情報)

※ご購入は洋書取扱書店にお願いいたします。



# ixc.

**CASSINA IXC. Ltd.**

**Fukuoka Shop** Tel:092-735-3901

**Office** Tel:092-735-3903

FT Bldg. 4-8-28 Watanabe-dori,  
Chuo-ku, Fukuoka 810-0004

[www.cassina-ixc.com](http://www.cassina-ixc.com)



九州地区大学図書館協議会誌 第53号

平成23年2月発行

発行 福岡市東区箱崎6 - 10 - 1 九州大学附属図書館内  
九州地区大学図書館協議会

T E L (092) 642 - 2324

F A X (092) 642 - 2330

<http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/qkyogikai/>